六　作業者ノ現住地、職業、氏名
七　作業ノ場所
八　員數
九　其ノ他參考ト爲ルベキ事項

注意

一　用紙適宜
二　目的ニ付テハ境界確定ノ爲等許可ヲ受クベキ行爲ノ目的ヲ記載スルモノトス
三　區域（物件）ニ付テハ區域ハ何縣何郡何村字何ヨリ同村字何間一帶等其ノ地名、區間等ヲ、物件ハ模寫、模造スベキ何縣何郡何村字何一帶ノ寫眞、模型等其ノ物件ノ名稱等ヲ記載スルモノトス
四　方法ニ付テハ平面測量、油繪等ノ方法ヲ記載スルモノトス
五　使用器具類ノ名稱ニ付テハ何測量器、何寫眞機等ノ使用器具ヲ記載スルモノトス
六　日時（期間）ニ付テハ何年何月何日午前十時頃又ハ何年何月何日ヨリ同月何日迄等日時又ハ期間ヲ記載スルモノトス
七　作業者ノ現住地、職業、氏名ニ付テハ現ニ作業ニ從事セシムル者ノ現住所、職業、氏名ヲ記載スルモノトス
八　作業ノ場所ニ付テハ何縣何郡何村字何何番地等測量、測量圖書ノ作成、撮影、現像、燒付、模寫、模造又ハ錄取スルル場所ノ地名ヲ記載スルモノトス
九　員數ニ付テハ測量ノ成果、寫眞原畫、複寫圖書等何部、何枚等其ノ員數ヲ記載スルモノトス

第五條　軍機保護法第十二條第一項ノ規定ニ依リ左ニ揭グル行爲ハ之ヲ爲スコトヲ得ズ但シ第一號又ハ第二號ニ揭グル行爲ニ付テハ陸軍大臣（軍管區內ノミニ係ル場合ニ於テハ軍司令官ヲ含ム）ノ、第三號又ハ第四號ニ揭グル行爲ニ付テハ行爲地要塞地帶內又ハ第三號ニ揭グル要塞地帶近傍ノ區域內ニ在ルトキハ當該要塞司令官（要塞司令官ノ職務ヲ行フ官廳ヲ含ム）、陸軍輸送港域內ニ在ルトキハ陸軍運輸部長（伊萬里港域內ニ在ルトキハ陸軍運輸部長ノ指名スル陸軍運輸部ノ職員トス以下之ニ同ジ）、其ノ他ノ場合ニ在リテハ行爲地ヲ管轄スル軍司令官ノ許可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラズ

一　左ニ揭グル區域ニ於ケル航空

イ　要塞地帶

ロ　陸軍輸送港域（廣島港域及伊萬里港域）

ハ　東經百四十四度十秒、四以東ノ北海道（島嶼ヲ含ム）及千島列島

ニ　北緯四十五度以北ノ北海道（島嶼ヲ含ム）及樺太（島嶼ヲ含ム）

ホ　伊豆七島及小笠原群島

ヘ　廣島縣豐田郡忠海町、幸崎町、大乘村及東野村竝ニ愛媛縣越智郡鏡村及盛口村

ト　北緯三十一度以南ノ鹿兒島縣及沖繩縣ノ諸島

チ　咸鏡北道、咸南道、平安北道、慶尙南道、全羅南道（島嶼ヲ含ム）及慶尙北道鬱陵島

リ　臺灣（島嶼ヲ含ム）

ヌ　ハ號乃至前號ニ揭グル陸地ノ地先三海里以內ノ海面

二　帝國ノ領土及其ノ地先三海里以內ノ海面上ノ空域ニ於ケル雲ノ高サ、雲ノ厚サ、霧、煙霧、黃沙、大氣ノ透明度又ハ地表一〇〇メートル以上ノ空域ニ於ケル氣流、溫度若ハ濕度ノ實況ノ器具機械ヲ以テスル觀測（觀測成果ノ作成ヲ含ム）又ハ觀測成果ノ複寫若ハ複製但シ船舶ノ航行又ハ航空機ノ航空ニ必要ナルモノ及官立ノ氣象ノ觀測所ニ於テ行フモノ又ハ官立ノ氣象ノ觀測所ニ報告又ハ通報スル爲行フモノヲ除ク

三　左ニ揭グル區域內ノ水陸ノ形狀若ハ施設物ノ狀況ノ測量（測量成果ノ作成ヲ含ム）又ハ測量成果ノ複寫若ハ複製但シ地目地類ノ變換、土地ノ分合、境界ノ確定又ハ家屋、倉庫ノ新築、改築、增築ノ爲必要ナルモノ及船舶ノ航行ニ必要ナル測深及方位測定ヲ除ク

軍機保護法施行規則

イ　北海道東部近傍

厚岸郡　花咲郡　根室郡　釧路郡　國後郡　色丹郡　紗那郡　擇捉郡　蘂取郡　得撫郡　新知郡　占守郡　昆布森村

ロ　樺太北部近傍

名好郡　敷香郡　散江郡　名好村　敷香町

ハ　宗谷海峡近傍

樺太　長濱郡　知床村　留多加郡　能登呂村　本斗郡　好仁村　北海道　宗谷郡　利尻郡　禮文郡

ニ　室蘭市

ホ　津輕要塞地帶近傍

津輕要塞地帶　北海道　函館市　龜田郡　茅部郡　尾札部村

ヘ　東京灣要塞地帶近傍

東京灣要塞地帶　靜岡縣　賀茂郡　田方郡　稻取町、下河津村及城東村　伊東町、中大見村、上大見村、宇佐美村、對馬村、小室　東京府大島、八丈島及小島

上磯郡　松前郡　青森縣　下北郡

ト　父島要塞地帶近傍

父島要塞地帶　北緯二十八度以南ノ東京府

チ　舞鶴要塞地帶

リ　由良要塞地帶

ヌ　島前近傍

島根縣　知夫郡　海士郡

ル　陸軍輸送港域廣島港域第一區

ヲ　廣島縣豐田郡忠海町、幸崎町、大乘村及東野村竝ニ愛媛縣越智郡鏡村及盛口村

ワ　豐豫要塞地帶近傍

豐豫要塞地帶　愛媛縣　八幡濱市　西宇和郡　東宇和郡　北宇和郡　南宇和郡　但シ磯津村ヲ除ク　石城村、俵津村、狩江村、高山村及玉津村　奥南村、下灘村、北灘村、下波村、遊子村及三浦村　内海村、東外海村及西外海村

軍機保護法施行規則

高知縣　幡多郡　月灘村及奥内村
大分縣　北海部郡
南海部郡

カ　下關要塞地帶近傍
下關要塞地帶　山口縣　阿武郡　見島村

ヨ　對馬要塞地帶

壹岐要塞地帶　長崎縣　長崎縣　北松浦郡　福島村
佐賀縣　唐津市　東松浦郡　佐志町、鏡村、久里村、鬼塚村、北波多村、切木村、入野村、有浦村及湊村　西松浦郡　波多津村

タ　壹岐要塞地帶近傍

レ　陸軍輸送港域伊萬里港域第一區及第二區ニ屬スル海面、長崎縣北松浦郡、佐賀縣東松浦郡及西松浦郡波多津村

長崎要塞地帶　長崎縣　長崎縣　北松浦郡　小値賀町　南松浦郡　但シ大濱村ヲ除ク

ソ　長崎要塞地帶近傍

奄美大島要塞地帶　奄美大島要塞地帶　鹿兒島縣　大島郡　但シ十島村、和泊村、知名村及與論村ヲ除ク

ツ　奄美大島要塞地帶近傍

鹿兒島縣　熊毛郡　大島郡　十島村、和泊村、知名村及與論村
沖繩縣

ネ　南西諸島近傍

基隆要塞地帶　臺北州　基隆市　基隆郡　貢寮庄雙溪庄

ナ　基隆要塞地帶近傍

高雄要塞地帶

ラ　高雄要塞地帶

澎湖島要塞地帶　澎湖群島　澎湖島要塞地帶

ム　澎湖島要塞地帶近傍

羅津要塞地帶　咸鏡北道　會寧郡　富寧面、西上面、富居面、三海面及觀海面
鐘城郡
穩城郡
慶源郡
慶興郡

ウ　羅津要塞地帶近傍

永興灣要塞地帶　咸鏡南道　定平郡　文山面及歸林面
永興郡　但シ宣興面耀德面及橫川面ヲ除ク
高原郡　但シ山谷面及雲谷面ヲ除ク
文川郡
德源郡　但シ豊下面ヲ除ク
安邊郡　但シ新茅面、文山面及衙益面ヲ除ク
江原道　通川郡　歙谷面

ヰ　永興灣要塞地帶近傍

ノ巡威島近傍

黃海道　海州府　碧城郡　延白郡　甕津郡　長淵郡　泳泉面、秋花面、來城面、日新面、青龍面、東江面、松林面及海南面　龍道面　白翎面

オ仁川近傍

京畿道　仁川府　水原郡　始興郡　富川郡　麻道面、松山面及西新面　君子面　永宗面、龍遊面、德積面（大草嶼島、小草嶼島、昇鳳島ヽヽ大阜面及甕興面

ク八口浦近傍

全羅南道　務安郡　智島面、慈愚面、飛禽面、都草面、荷衣面、長山面、安佐面、巖泰面、押海面及東經百二十五度四十五分十秒、四以東ノ黑山面　郡內面及北緯三十四度三十分以北ノ島島面　珍島郡

ヤ慶尙北道鬱陵島

マ鎭海灣要塞地帶近傍

鎭海灣要塞地帶　全羅南道　光陽郡　但シ多鴨面ヲ除ク　麗水郡　順天郡　海龍面及道沙面　慶尙南道　馬山府　晉陽郡　奈洞面、井村面、金谷面、文山面、晉城面、一班城面、二班城面、寺奉面及智水面　咸安郡　梁山郡　蔚山郡　金海郡　昌原郡　統營郡　固城郡　泗川郡　南海郡　河東郡　東面、勿禁面及熊上面　溫山面及溫陽面　但シ花開面及岳陽面ヲ除ク

ケイ號乃至ト號、ヌ號、ヲ號乃至カ號、タ號、ソ號乃至ナ號及ム號乃至前號ニ揭グル陸地ノ地先三海里以內ノ海面但シ要塞地帶ヲ除ク

四　左ニ揭グル區域內ノ水陸ノ形狀又ハ施設物ノ狀況ノ空中、高所ヨリノ撮影若ハ模寫又ハ其ノ複寫若ハ複製但シ被寫體ノ存在スル地表面又ハ水面ヨリノ高サ二〇メートル以下ノ場所ヨリノ撮影若ハ模寫又ハ其ノ複寫若ハ複製ヲ除ク

イ　第一號ハ號ニ揭グル區域
ロ　第一號ニ號ニ揭グル區域
ハ　前號ニ號ニ揭グル區域
ニ　前號ホ號ニ揭グル區域
ホ　東京市、橫濱市、川崎市、川口市及市川市
ヘ　前號ヘ號ニ揭グル區域
ト　第一號ホ號ニ揭グル區域
チ　福井縣、石川縣、富山縣及新潟縣

軍機保護法施行規則

リ　名古屋市及宇治山田市
ヌ　前號チ號ニ揭グル區域
ル　京都市
ヲ　京都府　宇治郡及久世郡
ワ　大阪市、堺市、岸和田市、豐中市、布施市及吹田市
カ　大阪府　中河內郡、北河內郡及三島郡
ヨ　神戶市、西宮市、尼崎市、伊丹市及芦屋市
タ　兵庫縣　武庫郡
レ　前號リ號ニ揭グル區域
ソ　前號ヌ號ニ揭グル區域
ツ　第一號ロ號ニ揭グル區域
ネ　前號ヲ號ニ揭グル區域
ナ　前號ワ號ニ揭グル區域
ラ　前號カ號ニ揭グル區域

ム　前號ヨ號ニ揭グル區域
ウ　前號タ號ニ揭グル區域
キ　前號ソ號ニ揭グル區域
ノ　第一號ト號ニ揭グル區域
オ　朝鮮（島嶼ヲ含ム）
ク　第一號リ號ニ揭グル區域

第六條　前條第一號ニ規定スル行爲ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ノ樣式ノ許可願書（四通）ニ乘員ノ手札形半身脫帽ノ寫眞ヲ貼附シ現住地又ハ其ノ出發地最寄ノ憲兵分隊長又ハ警察署長ヲ經テ（要塞地帶又ハ陸軍輸送港域ニ關スルモノニ在リテハ更ニ當該要塞司令官又ハ陸軍運輸部長ヲ經テ）陸軍大臣（軍管區內ノミニ係ル場合ニ於テハ軍司令官ヲ含ム）ニ提出スベシ但シ日本航空機ニ非ザル航空機ノ航空ニ付テハ其ノ本國管轄官廳又ハ日本ニ在ル外交官若ハ領事官ヲ通ジ外務大臣ヲ經由スルコトヲ得

航空許可願

年　月　日

陸軍大臣殿

左記ノ通航空致度軍機保護法施行規則第五條ノ規定ニ依リ許可相成度候也

左記

一　目的

二　出發地、出發日時（期間）

三　通過地（著陸地）

四　到著地、到著豫定日時

五　航空機ノ種類、機體ノ型式

六　發動機ノ型式及馬力

七　國籍記錄、登錄記號

八　乘員ノ現住地、氏名竝ニ乘員ノ技倆證明及免狀ノ種類

九　其ノ他參考ト爲ルベキ事項

本籍（外國人ニ在リテハ國籍）
現住所
職業
氏名　印
年齡

注意

一　用紙適宜

二　目的ニ付テハ運送ノ爲等許可ヲ受クベキ行爲ノ目的ヲ記載スルモノトス

三　出發地、出發日時（期間）ニ付テハ何縣何飛行場等航空機出發離陸ノ場所及其ノ日時（定期航空ニ在リテハ其ノ期間）ヲ記載スルモノトス

四　通過地（著陸地）ニ付テハ航空機ノ通過スベキ主要地名（途中著陸ノ場合何縣何飛行場等ハ其ノ場所名）ヲ記載スルモノトス

五　到著地、到著豫定日時ニ付テハ最終ノ目的地タル場所名及其ノ到著豫定日時ヲ記載スルモノトス

六　航空機ノ種類、機體ノ型式ニ付テハ飛行機、航空船、氣球等ノ區別及其ノ型式ヲ記載スルモノトス

七　發動機ノ型式及馬力ニ付テハ航空機備付ノ發動機ノ型式及馬力ヲ記載スルモノトス

第七條　第五條第二號乃至第四號ニ規定スル行爲ノ許可願ニ關シテハ第四條ノ規定ヲ準用ス但シ陸軍大臣ニ提出スル場合ニ在リテハ許可願書ハ四通トス

第八條　軍機保護法第十三條第一項ノ規定ニ依リ土地又ハ水面及其ノ周圍ノ地域ニ付區域及期間ヲ定メタルトキハ現場ニ標識ヲ設ケテ之ヲ標示シ又ハ之ヲ告示シ空域ニ付區域及期間ヲ定メタルトキハ陸軍大臣ハ之ヲ遞信大臣（朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官）ニ通知ス但シ告示シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ期間ニ於テハ其ノ區域内ニ出入スルコトヲ得ズ第二項ノ期間ニ於テ其ノ區域内ヲ航空セントスル者ハ陸軍大臣ノ許可ヲ、其ノ區域内ニ出入セントスル者ハ演習又ハ實驗等ヲ行フ部隊長ノ定ムル所ニ依リ其ノ許可ヲ受クベシ

第九條　前條第三項ニ規定スル航空ノ許可願ニ關シテハ第六條ノ規定ヲ準用ス

第十條　軍機保護法第十四條第一項ノ規定ニ依リ外國船舶ハ要塞地帶、陸軍輸送港域及第五條第三號ケ號ニ掲グル海面（開港港則第一條、大正四年朝鮮總督府令第七十二號開港取締規則第一條及昭和二年臺灣總督府令第六十二號臺灣開港規則第一條ニ規定スル經界内ヲ除ク）ニ出入スルコトヲ得ズ

前項ノ區域ニ出入セントスル外國船舶ノ長又ハ其ノ職務ヲ執ル者ハ陸軍大臣ノ許可ヲ受クベシ但シ船主（當該船舶ヲ現ニ航海ノ用ニ供スル傭船主ヲ含ム以下之ニ同ジ）ヨリ陸軍大臣ノ許可ヲ得タルトキ、海難若ハ捕獲ヲ避クル爲已ムコトヲ得ザルトキ又ハ開港港則第一條、開港取締規則第一條又ハ臺灣開港規則第一條ニ規定スル經界内ニ出入スル常用航路（第五條第三號ヲ號ニ掲グル海面ヲ除ク）ニ依ル航行ハ此ノ限ニ在ラズ

海難又ハ捕獲ヲ避クル爲已ムコトヲ得ズシテ前項ニ掲グル海面ニ出入シタルトキハ船舶ノ長又ハ其ノ職務ヲ執ル者ハ事後遲ニ最寄ノ憲兵分隊長又ハ警察署長ヲ經テ陸軍大臣ニ其ノ事情ヲ屆出ヅベシ

第十一條　前條ニ規定スル行爲ニ付許可ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル許可願書（四通）ヲ其ノ本國管轄官廳若ハ日本ニ在ル外交官、領事官ヲ通ジ外務大臣ヲ經由シ又ハ最寄ノ憲兵分隊長若ハ警察署長ヲ經テ（要塞地帶又ハ陸軍輸送港域ニ關スルモノニ在リテハ更ニ當該要塞司令官又ハ陸軍運輸部長ヲ經テ）陸軍大臣ニ提出スベシ

一　目的

二　船名

三　船種

四　國籍

五　船籍港

六　總噸數

七　船主ノ氏名及國籍

八　傭船者ノ氏名及國籍

九　船長（其ノ職務ヲ執ル者）ノ氏名及國籍

十　碇泊豫定期間

前條第二項但書ニ規定スル船主ノ許可願ニ關シテハ前項ノ規定ヲ準用ス

第十二條　陸軍以外ノ官廳ニ於テ第二條、第三條第二項、第五條又ハ第八條第三項ニ規定スル行爲ヲ爲サントスルトキハ主務大臣、朝鮮總督又ハ臺灣總督ニ在リテハ陸軍大臣ニ計議シ其ノ他ノ官廳ニ在リテハ第四條、第六條、第七條又ハ第九條ノ規定ニ準ジ承認ヲ受クベシ但シ憲兵分隊長又ハ警察署長ヲ經由スルヲ要セズ

第十三條　第四條、第六條、第七條又ハ第九條ニ規定スル許可願書ハ縣、市、町、村其ノ他ノ公共團體及法人ニ在リテハ其ノ代表者ヨリ之ヲ提出スベシ

軍機保護法施行規則

第十四條　（削除）

第十五條　第四條、第六條、第七條、第九條、第十一條及第十二條ノ規定ニ依リ許可又ハ承認ヲ受クル場合ニ於テ他ノ法令ノ定ムル所ニ依リ主務官廳ノ許可又ハ承認ヲ要スル行爲ニ付テハ先ヅ其ノ許可若ハ承認ヲ受ケ之ヲ證スル書類若ハ許可證、承認證ノ寫又ハ其ノ出願シタルコトヲ證スル書類ノ寫ヲ許可願書又ハ承認申請書ニ添附スベシ但シ昭和十二年海軍省令第二十八號軍機保護法施行規則ニ依リ許可又ハ承認ヲ要スル行爲ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條　第四條、第六條、第七條、第九條及第十一條乃至前條ノ規定ハ許可又ハ承認ヲ得タル事項ヲ變更セントスル場合ニ之ヲ準用ス

第十七條　憲兵分隊長又ハ警察署長第四條又ハ第五條第三號若ハ第四號ニ掲グル行爲ニ付テノ第七條ノ規定ニ依リ許可願書ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ當該要塞司令官（陸軍築城部本部長、陸軍運輸部長、師團長又ハ當該部隊長）又ハ軍司令官ニ提出スベシ

憲兵分隊長又ハ警察署長第六條若ハ第五條第二號ニ掲グル行爲ニ付テノ第七條又ハ第九條ノ規定ニ依リ許可願書

ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ陸軍大臣（軍管區内ノミニ依ル場合ニ於テハ軍司令官ヲ含ム）ニ提出スベシ但シ要塞地帶ニ於ケル航空ニ關スルモノハ當該要塞司令官、陸軍輸送港域ニ於ケル航空ニ關スルモノハ陸軍運輸部長ニ送致スベシ

憲兵分隊長又ハ警察署長第十一條ノ規定ニ依リ許可願書ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ陸軍大臣ニ提出スベシ但シ要塞地帶ニ關スルモノハ當該要塞司令官、陸軍輸送港域ニ關スルモノハ陸軍運輸部長ニ送致スベシ

行爲地最寄ノ憲兵分隊長又ハ警察署長前各項ノ規定ニ依リ許可願書ヲ受ケタルトキハ許可願書一通ハ之ヲ保管スヘシ

要塞司令官又ハ陸軍運輸部長第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リ許可願書ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ許可願書二通ヲ陸軍大臣（軍管區内ノミニ係ル場合ニ於テハ軍司令官ヲ含ム）ニ提出スベシ第十二條ノ規定ニ依リ承認申請書ヲ受ケタルトキ亦同ジ

第十八條 陸軍大臣、軍司令官、師團長、要塞司令官、陸軍築城部本部長、陸軍運輸部長又ハ部隊長許可若ハ承認ヲ爲シ又ハ條件ヲ附シテ許可若ハ承認ヲ爲シタルトキハ

許可願書一通ヲ添附シタル許可證又ハ承認申請書一通ヲ添附シタル承認證ヲ交付ス但シ急速ヲ要スル場合ニ於テハ許可證又ハ承認證ヲ交付セザルコトアルベシ

第十九條 前條ノ許可證又ハ承認證ハ現場ニ於テ行爲ヲ爲ス者必ズ之ヲ携帶スベシ但シ第十條第二項但書ノ規定ニ依ル船主ヨリ陸軍大臣ノ許可ヲ得タル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

許可ヲ受ケタル行爲ノ場所二箇所以上ニ亘ル場合ニ於テハ各現場ニ於テ行爲ヲ爲ス者前條ノ許可證若ハ承認證又ハ此等ノ寫ヲ携帶スベシ

前二項ノ規定ニ依リ許可證若ハ承認證又ハ此等ノ寫ヲ携帶スル者ハ之ヲ何時ニテモ憲兵、衞戍服務ノ軍人、警察官吏及陸軍防禦營造物、陸軍軍用船舶又ハ軍事施設當該部隊ノ職員ノ閲覽ニ供スベシ

第二十條 許可證ヲ失ヒタル場合ニ於テハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ再下付ヲ申請スベシ

許可證ヲ失ヒタル者ハ直ニ最寄ノ憲兵分隊長又ハ警察署長ニ其ノ旨ヲ届出デ承認證ヲ受クルニ非ザレバ其ノ行爲ヲ繼續スルコトヲ得ズ

前項ノ届出ヲ受ケタル憲兵分隊長又ハ警察署長ハ其ノ旨

許可證ヲ交付シタル官廳ニ報告又ハ通報スベシ

第二十一條 第五條第一項但書又ハ第八條第三項ニ規定スル許可ヲ受ケズシテ航空機ノ故障、避難其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ第五條第一項第一號ニ揭グル區域又ハ第八條第一項ノ規定ニ依ル區域ニ著陸シタルトキハ當該航空機ノ乘員ハ事後速ニ最寄ノ憲兵分隊長又ハ警察署長ヲ經テ陸軍大臣ニ其ノ事情ヲ届出ヅベシ

第二十二條 軍機保護法第十九條ノ規定ニ依ル沒取處分ハ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ憲兵分隊長又ハ警察署長之ヲ行フ前項ノ沒取處分ハ憲兵分隊長又ハ警察署長命令書ヲ交付シテ之ヲ爲スベシ

第二十三條 第二條第二號及第三條第一項ニ規定スル標識ハ附圖第一、第八條第一項ニ規定スル標識ハ附圖第二ニ依ル

第二十四條 第二條第二號、第三條第一項又ハ第八條第一項ノ規定ニ依リ設備シタル標識ヲ損壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ無效ナラシメタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十五條 許可證又ハ其ノ寫ヲ所持スベキ者第十九條ノ

軍機保護法施行規則

規定ニ依ル閲覽ヲ拒ミタルトキハ十圓以下ノ科料ニ處ス

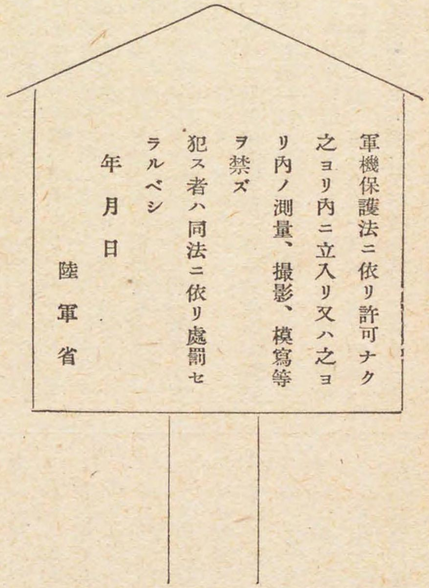
附　則

本令ハ軍機保護法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和一六、三、陸令六）

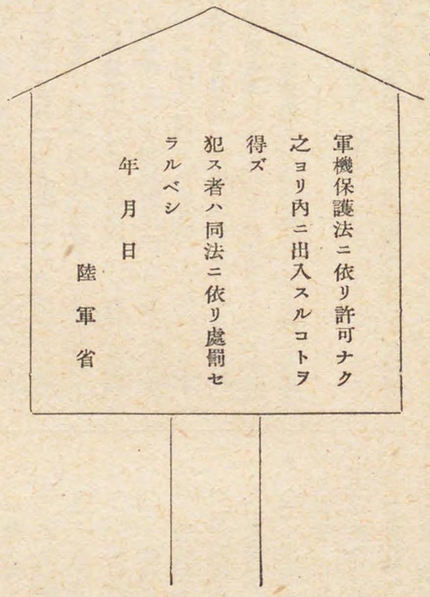
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附圖第一



備考　情況ニ應ジ上下兩段ニ分チ下段ニ適宜諺文又ハ華文其ノ他國語ニ非ザル文字ヲ記載スルコトヲ得

附圖第二



備考　情況ニ應ジ上下兩段ニ分チ下段ニ適宜諺文又ハ華文其ノ他國語ニ非ザル文字ヲ記載スルコトヲ得

軍機保護法施行規則

（昭和十二年十月（海軍省令第二十八號）

改正　昭和十六年三月　海軍省令第八號

第一條　軍機保護法第一條第二項ノ規定ニ依ル海軍ノ軍事上秘密ヲ要スル事項又ハ圖書物件（圖書ニ在リテハ其ノ秘密ノ程度ニ從ヒ「軍機」又ハ「軍極秘」ノ標記ヲ爲シ物件ニ在リテハ之ニ準ズ）ノ種類範圍左ノ如シ

一　國防、作戰又ハ用兵ニ關スル事項

（一）國防、作戰ノ方針又ハ計畫

（二）兵要地點ノ調査ニ關スル計畫、實施又ハ其ノ成果

（三）軍港、要港、防禦港其ノ他作戰要地ノ防備ノ方針又ハ計畫

（四）通商保護ノ方針又ハ計畫

（五）艦船部隊ノ用兵上ノ任務、行動計畫又ハ其ノ實施ノ狀況

（六）軍事ニ關スル外國トノ約定

（七）戰鬪ノ際ニ於ケル戰鬪方式及艦船、航空機、兵器

軍需品若ハ人員ノ數竝ニ此等ノ損傷數

二　出師準備ニ關スル事項

（一）出師準備ノ方針又ハ計畫

（二）出師準備整備ノ狀況

（三）戰時、事變又ハ之ニ準ズル事件ノ際ニ於ケル出師準備ニ關スル諸令達又ハ之ニ基ク出師準備進捗ノ狀況

三　軍備ニ關スル事項

（一）軍備ノ方針、計畫又ハ進捗狀況

（二）水陸設備ノ方針、計畫又ハ進捗狀況

（三）艦船部隊、官衙又ハ學校ノ戰時編制又ハ其ノ裝備

四　諜報又ハ防諜ニ關スル事項

（一）諜報若ハ防諜ニ關スル方針、計畫又ハ其ノ實施ノ狀況

（二）諜報若ハ防諜ノ方法又ハ機關ノ組織、所在若ハ任務

五　艦船部隊、官衙又ハ學校ニ於ケル機密（「軍機」又ハ「軍極秘」ニ屬スルモノニ限ル以下同ジ）ニ屬スル教育訓練、演習又ハ研究實驗ノ計畫、實施若ハ其ノ成果

六　通信ニ關スル事項

（一）軍用通信ノ施設、計畫又ハ軍用通信規定ノ內容

（二）軍用暗號ノ名稱、種類、內容又ハ暗號ノ標記ヲ爲シタル書類

七　軍事施設ニ關スル事項

（一）海軍大臣所管ノ飛行場、電氣通信所、砲臺、防備衞所其ノ他ノ軍事施設ノ位置、員數、編制又ハ設備ノ狀況

（二）海軍大臣所管ノ軍需品工場ノ能力又ハ設備ノ狀況

八　艦船、航空機、兵器又ハ軍需品ニ關スル事項

（一）「軍機」ニ屬スル現用、計畫、製作若ハ實驗中ノ船體、機關、兵器、航空機、液體燃料、火藥又ハ「軍機」ノ標記ヲ爲シタル計畫圖書ニ依リ製作若ハ實驗中ノ物件ノ形狀、名稱、機構、性能、要目若ハ規格

（二）「軍極秘」ニ屬スル現用、計畫、製作若ハ實驗中ノ船體、機關、兵器、航空機、液體燃料、火藥又ハ「軍極秘」ノ標記ヲ爲シタル計畫圖書ニ依リ製作若ハ實驗中ノ物件ノ機構、性能、要目若ハ規格

（三）船體、機關、兵器、航空機、液體燃料又ハ火藥ノ機密ニ屬スル製作技術

（四）艦船ノ機密ニ屬スル要目

九　圖書物件ニ關スル事項

軍機保護法施行規則

「軍機」又ハ「軍極秘」ノ標記ヲ爲シタル圖書物件竝ニ第一號乃至前號ニ揭グル事項ヲ表示スル圖書及機密ニ屬スル物件

前項ノ種類範圍ニ屬スル事項又ハ圖書物件ト雖モ法規若ハ官報ヲ以テ公示セラレタルモノ又ハ海軍ニ於テ公表シタルモノハ之ヲ除ク

第二條　軍機保護法第八條第一項ノ規定ニ依リ左ニ揭グルモノニ付テハ測量（船舶ノ運航ニ必要ナル測深、測距、方位測定等ヲ除ク以下同ジ）撮影、模寫、模造若ハ錄取又ハ其ノ複寫若ハ複製ヲ爲スコトヲ得ズ但シ第一號及第二號ニ揭グルモノニ付テハ當該鎭守府司令長官又ハ要港部司令官ノ、第三號及第四號ニ揭グルモノニ付テハ海軍大臣、當該鎭守府司令長官、艦隊司令長官、獨立艦隊司令官又ハ要港部司令官ノ許可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラズ

一　軍港、要港又ハ防禦港

二　砲臺、防備衞所其ノ他國防ノ爲建設シタル海軍防禦營造物

三　海軍ノ艦船、航空機又ハ兵器ニシテ左ニ記載シタルモノ

(一) 艦船
(イ) 現用ノ艦艇
(ロ) 海軍ノ管理監督ニ屬スル未成艦艇
(二) 航空機
(イ) 現用ノ航空機
(ロ) 海軍ノ管理監督ニ屬スル計畫、試製又ハ實驗中ノ航空機
(三) 兵器
(イ) 機密ニ屬スル兵器
(ロ) 海軍ノ管理監督ニ屬スル計畫、試製又ハ實驗中ノ機密兵器
四 現場ニ標識ヲ設ケテ標示シタル海軍大臣所管ノ飛行場、電氣通信所、軍需品工場、軍需品貯藏所其ノ他ノ軍事施設

第三條 軍機保護法第九條ノ規定ニ依リ前條第二號ニ揭グル海軍防禦營造物又ハ同條第四號ニ規定スル軍事施設ノ周圍ノ地域ニ付區域ヲ定メタルトキハ現場ニ標識ヲ設ケテ之ヲ標示ス

前項ノ區域ニ付テハ測量、撮影、模寫、模造若ハ錄取又ハ其ノ複寫若ハ複製ヲ爲スコトヲ得ズ但シ海軍大臣當該鎭守府司令長官又ハ前條第二項ニ規定スル行爲ノ許可ヲ受ケントスル者(海軍大臣、當該鎭守府司令長官、艦隊司令官、獨立艦隊司令官又ハ要港部司令官ニ於テ豫メ指定シテ許可シタル者ヲ除ク)ハ左ノ樣式ノ許可申請書(二通)ニ作業責任者ノ寫眞ヲ貼附シ之ヲ現住地又ハ當該行爲地ノ最寄憲兵分隊長(分遣隊長ヲ含ム以下同ジ)又ハ警察署長(臺灣ニ在リテハ郡守又ハ支廳長ヲ含ム以下同ジ)ヲ經テ海軍大臣、當該鎭守府司令長官、艦隊司令長官、獨立艦隊司令官又ハ要港部司令官ニ提出スベシ

但シ海軍ニ勤務スル者ニ在リテハ憲兵分隊長又ハ警察署長ヲ經由スルコトナク其ノ所轄長ヲ經テ之ヲ爲スベシ

鎭守府司令長官又ハ要港部司令官ノ許可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 第二條又ハ前條第二項ニ規定スル行爲ノ許可ヲ受ケントスル者(海軍大臣、當該鎭守府司令長官、艦隊司令官、獨立艦隊司令官又ハ要港部司令官ニ於テ豫メ指定シテ許可シタル者ヲ除ク)ハ左ノ樣式ノ許可申請書(二通)ニ作業責任者ノ寫眞ヲ貼附シ之ヲ現住地又ハ當該行爲地ノ最寄憲兵分隊長(分遣隊長ヲ含ム以下同ジ)又ハ警察署長(臺灣ニ在リテハ郡守又ハ支廳長ヲ含ム以下同ジ)ヲ經テ海軍大臣、當該鎭守府司令長官、艦隊司令長官、獨立艦隊司令官又ハ要港部司令官ニ提出スベシ

但シ海軍ニ勤務スル者ニ在リテハ憲兵分隊長又ハ警察署長ヲ經由スルコトナク其ノ所轄長ヲ經テ之ヲ爲スベシ

年　月　日

海軍大臣(鎭守府司令長官、要港部司令官、艦隊司令長官、獨立艦隊司令官)殿

左記ノ通測量(撮影、模寫、模造、錄取、複寫、複製)致度軍機保護法施行規則第二(三)條ニ依リ此段及許可申請候也

記

一　目的
二　區域(物件)
三　方法
四　使用器具類ノ名稱
五　日時
六　作業者ノ住所氏名
七　作業ノ種類

測量(撮影、模寫、模造、錄取、複寫、複製)許可申請書

本籍　(外國人ニ在リテハ國籍)
現住地
職業
氏名　印
年齡

軍機保護法施行規則

八　員數
九　其ノ他參考ト爲ルヘキ事項

注意

一　用紙適宜
二　目的ニ付テハ境界確定ノ爲等許可ヲ受クベキ行爲ノ目的ヲ記載スルモノトス
三　區域（物件）ニ付テハ區域ハ何縣何郡何村字何ヨリ同村字何間一帶等其ノ地名、區間等ヲ物件ハ模寫、模造スベキ何縣何郡何村何字一帶ノ寫眞、模型等其ノ物件ノ名稱等ヲ記載スルモノトス
四　方法ニ付テハ平面測量、油繪等ノ方法ヲ記載スルモノトス
五　使用器具類ノ名稱ニ付テハ何測量器、何寫眞機等使用器具ヲ記載スルモノトス
六　日時（期間）ニ付テハ何年何月何日ヨリ何月何日迄等日時又ハ期間ヲ記載スルモノトス
七　作業者ノ住所氏名ニ付テハ測量者何縣何郡何村何番地何某等現ニ作業ニ從事セシムル者ノ住所氏名ヲ記載スルモノトス
八　作業ノ場所ニ付テハ何縣何郡何村字何何番地等測量、測量圖書ノ作成、撮影、現像、燒付、模寫、模造又ハ錄取等ヲ爲ス場所ノ地名ヲ記載スルモノトス
九　員數ニ付テハ測量ノ成果、寫眞原畫、複寫圖書等何部、何枚等其ノ員數ヲ記載スルモノトス

第五條　軍機保護法第十二條第一項ノ規定ニ依リ左ニ揭グル行爲ハ之ヲ爲スコトヲ得ズ但シ第一號又ハ第二號ニ揭グル行爲ニ付テハ海軍大臣ノ、第三號又ハ第四號ニ揭グル行爲ニ付テハ當該鎭守府司令長官又ハ要港部司令官ノ許可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラズ

一　左ニ揭グル區域ニ於ケル航空
（一）軍港、要港、防禦港及其ノ外方二十粁以內ノ區域
（二）吳要塞地帶

（三）大湊要塞地帶
（四）愛知縣寶飯郡豐川町、牛久保町、一ノ宮村及八幡村
（五）山口縣熊毛郡光町
（六）平塚市及神奈川郡中郡大野村
（七）宮城縣柴田郡船岡村及同縣伊具郡北郷村
（八）四日市市及三重縣三重郡楠村、日永村、內部村竝ニ四郷村
（九）橫濱市戶塚區
（十）和歌山縣海草郡下津町及椒村
（十一）北海道、千島列島及樺太竝ニ其ノ地先三海里以內ノ海面
（十二）伊豆七島、小笠原諸島及硫黃列島竝ニ其ノ地先三海里以內ノ海面
（十三）種子島北端黑島北端ヲ結ブ一線以南ノ鹿兒島縣及沖繩縣ノ諸島竝ニ其ノ地先三海里以內ノ海面
（十四）臺灣及其ノ地先三海里以內ノ海面
（十五）朝鮮咸鏡北道、咸鏡南道、慶尙南道及全羅南道竝ニ其ノ地先三海里以內ノ海面
（十六）第十條第一項第二號ニ揭グル海面

二　左ニ揭グル區域內ノ雲ノ高サ、雲ノ厚サ、霧、煙霧若ハ大氣ノ透明度又ハ同區域ノ地面上百米若ハ海面上百米以上ノ空域ニ於ケル氣流、溫度若ハ濕度ノ器具機械ヲ以テスル觀測（觀測成果ノ作成ヲ含ム）又ハ觀測成果ノ複寫若ハ複製但シ船舶航行若ハ航空機ノ航空ニ必要ナルモノ、官公立ノ氣象ノ觀測所ニ於テ行フモノ又ハ法規ニ依リ官公立ノ氣象ノ觀測所ニ報告若ハ通報スル爲行フモノヲ除ク
（一）前號（十二）乃至（十四）
（二）釧路市、北海道花咲郡、根室郡、野付郡、目梨郡、標津郡、川上郡、釧路郡、阿寒郡、厚岸郡、網走郡、斜里郡、千島列島及樺太竝ニ其ノ地先三海里以內ノ海面
（三）朝鮮咸鏡北道、咸鏡南道及其ノ地先三海里以內ノ海面

三　第一號（二）、（三）、（十二）、（十三）及第二號（二）ニ揭グル區域內ノ水陸ノ形狀若ハ施設物ノ狀況ノ測量（測量成果ノ作成ヲ含ム）又ハ測量成果ノ複寫若ハ複製但シ地目地類ノ變換、土地ノ分合、境界ノ確定又ハ家屋倉庫ノ新築、改築若ハ增築ノ爲必要ナルモノヲ除ク

軍機保護法施行規則

四　軍港、要港又ハ防禦港及第一號（二）乃至（十）、（十二）乃至（十五）竝ニ第二號（二）ニ揭グル區域內ノ水陸ノ形狀又ハ施設物ノ狀況ノ空中、高所ヨリノ撮影若ハ模寫又ハ其ノ複寫若ハ複製但シ被寫體ノ存在スル地表面又ハ水面ヨリノ高サ二〇メートル以下ノ場所ヨリノ撮影若ハ模寫又ハ其ノ複寫若ハ複製ヲ除ク

前項第三號又ハ第四號ノ區域ニ付テハ必要ニ依リ現場ニ標識ヲ設ケテ之ヲ標示シ又ハ其ノ區域ノ圖面（其ノ區域內ノ陸地ノ地先三海里以內ノ海面ニ關スル部分ヲ除ク）ヲ當該區域ヲ管轄スル市、町、村役場（朝鮮ニ在リテハ府廳、邑面事務所、臺灣ニ在リテハ市、街、庄役場）警察署（臺灣ニ在リテハ郡役所、支廳ヲ含ム）又ハ憲兵分隊ニ備付ク

第六條　前條第一號ニ規定スル行爲ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ノ樣式ノ許可申請書（二通）ヲ現在地又ハ其ノ出發地ノ最寄憲兵分隊長又ハ警察署長ヲ經テ海軍大臣ニ提出スベシ

但シ日本航空機ニ非ザル航空機ノ航空ニ付テハ其ノ本國管轄官廳又ハ日本ニ在ル外交官若ハ領事ヲ通ジ外務大臣ヲ經由シテ之ヲ爲スコトヲ得

航空許可申請書

年　月　日

海軍大臣殿

左記ノ通航空致度軍機保護法施行規則第五條ニ依リ此段及許可申請候也

本籍地（外國人ニ在リテハ國籍）
現住地
職業
氏名　㊞
年齡

記

一　目的
二　出發地、出發日時（期間）
三　通過地、（著陸地）
四　到著地、到著豫定日時
五　航空機ノ種類、機體ノ型式
六　發動機ノ型式及馬力
七　國籍記號、登錄記號
八　乘員ノ住所氏名竝ニ乘員ノ技倆證明及免狀ノ種類
九　其ノ他參考ト爲ルベキ事項

注意

一　用紙適宜
二　目的ニ付テハ運送ノ爲等許可ヲ受クベキ行爲ノ目的ヲ記載スルモノトス
三　出發地、出發日時（期間）ニ付テハ何縣何飛行場等航空機出發離陸ノ場所名及其ノ日時（定朝航空ニ在リテハ其ノ期間）ヲ記載スルモノトス
四　通過地（著陸地）ニ付テハ航空機ノ通過スベキ主要地名（途中著陸ノ場合何縣何飛行場等其ノ場所名）ヲ記載スルモノトス
五　到著地、到著豫定日時ハ最終ノ目的地タル場所名及其ノ到著豫定日時ヲ記載スルモノトス
六　航空機ノ種類、機體ノ型式ニ付テハ飛行機、航空艇、航空船、氣球等ノ區別及其ノ型式ヲ記載スルモノトス

七　發動機ノ型式及馬力ニ付テハ航空機簿附ノ發動機ノ型式及馬力ヲ記載スルモノトス

第七條　第五條第二號乃至第四號ニ規定スル行爲ノ許可申請ニ關シテハ第四條ノ規定ヲ準用ス

第八條　軍機保護法第十三條第一項ノ規定ニ依リ土地又ハ水面及其ノ周圍ノ地域ニ付區域及期間ヲ定メタルトキハ現場ニ標識ヲ設ケテ之ヲ標示シ空域ニ付區域及期間ヲ定メタルトキハ海軍大臣ハ之ヲ遞信大臣（朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官）ニ通報ス

前項ノ期間內ハ其ノ區域ニ出入スルコトヲ得ズ但シ航空ニ付テハ海軍大臣ノ許可ヲ其ノ他ニ付テハ演習又ハ實驗等ヲ行フ艦船部隊、官衙又ハ學校ノ長ノ定ムル所ニ依ル許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第九條　前條第二項ニ規定スル航空ノ許可申請ニ關シテハ第六條ノ規定ヲ準用ス

第十條　軍機保護法第十四條第一項ノ規定ニ依リ外國船舶ハ左ニ揭グル區域ニ出入スルコトヲ得ズ但シ外國船舶ノ長又ハ其ノ職務ヲ執ル者海軍大臣ノ許可ヲ受ケタルトキ又ハ海難若ハ捕獲ヲ避クル爲已ムコトヲ得ザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

（一）有明灣（火埼都井岬ヲ連結スル一線以內）
（二）宿毛灣（高茂崎ヨリ姬島ニ引キタル一線、姬島ヨリ櫛ケ鼻ニ引キタル一線、櫛ケ鼻ヨリ淺磐埼ニ引キタル一線以內）
（三）館山灣（洲ノ埼大房鼻ヲ連結スル一線以內）
（四）佐伯灣（蒲戶埼鶴見埼ヲ連結スル一線以內）
（五）油谷灣（角島牧ケ鼻川尻岬ヲ連結スル一線以內）
（六）寺島水道（串島ヲ中心トシテ五海里ノ半徑ヲ有スル圓周ノ一弧內）
（七）三河灣（生田鼻ヨリ日間賀島西端ニ引キタル一線日間賀島西端ヨリ立馬埼ニ引キタル一線以東）

海難又ハ捕獲ヲ避クル爲已ムコトヲ得ズシテ前項ニ揭グル海面ニ出入シタルトキハ船舶ノ長又ハ其ノ職務ヲ執ル者ハ事後速ニ最寄憲兵分隊長又ハ警察署長ヲ經テ海軍大臣ニ其ノ事情ヲ屆出ヅベシ

第十一條　前條ニ規定スル行爲ノ許可ヲ受ケントスル者ハ船舶法第三條（朝鮮ニ在リテハ朝鮮船舶令第二條、臺灣ニ在リテハ海軍諸法臺灣施行令第二條、樺太ニ在リテハ大正十三年勅令第九十三號）又ハ關稅法第九十八條ノ規定ニ依ル主務官廳ヲ經テ左ノ事項ヲ記載シタル許可申請書（二通）ヲ海軍大臣ニ提出スベシ

一　目的
二　船名
三　船種
四　國籍
五　船籍港
六　總噸數
七　船主氏名及其ノ國籍
八　傭船者氏名及其ノ國籍
九　船長（其ノ職務ヲ執ル者）氏名及其ノ國籍
十　碇泊豫定期間

前條第一項但書後段ニ規定スル船主ノ許可申請ニ關シテハ前項ノ規定ヲ準用ス

第十二條　海軍以外ノ官廳ニ於テ第二條、第三條第二項、第五條第一項、又ハ第八條第二項ニ規定スル行爲ヲ爲サントスルトキハ主務大臣、朝鮮總督又ハ臺灣總督ニ在リテハ第四條、第六條、第七條、第九條ノ規定ニ準ジ承認ヲ受クルモノトス

但シ憲兵分隊長又ハ警察署長ヲ經由スルヲ要セズ

第十三條　第四條、第六條、第七條又ハ第九條ニ規定スル許可申請書ハ府、縣、市、町、村其ノ他公共團體竝ニ法人ニ在リテハ其ノ代表者ヨリ之ヲ提出スベシ

第十四條　第四條、第六條、第七條、第九條、第十一條又ハ第十二條ノ規定ニ依リ海軍大臣、鎭府守司令長官又ハ要港部司令官ニ許可申請書又ハ承認申請書ヲ提出スル場合ニ於テ要塞地帶法、軍港要港規則又ハ防禦海面令ニ依リ海軍大臣、鎭守府司令長官又ハ要港部司令官ノ許可又ハ承認ヲ受クルヲ要スルモノニ付テハ本令ノ規定スル書類ノミニ依ルコトヲ得

第十五條　第四條、第六條、第七條、第九條又ハ第十二條ノ規定ニ依リ許可又ハ承認ヲ受クル場合ニ於テ他ノ法令ノ規定ニ依リ主務官廳ノ許可又ハ承認ヲ要スル行爲ニ付テハ先ヅ其ノ許可又ハ承認ヲ受ケ之ヲ證明スベキ書類又ハ許可書若ハ承認書ノ寫又ハ其ノ出願シタルコトヲ證スル書類ヲ許可申請書又ハ承認申請書ニ添附スベシ但シ昭

和十二年陸軍省令第四十三號軍機保護法施行規則ニ依リ許可又ハ承認ヲ要スル行爲ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條 第四條、第六條、第七條、第九條及第十一條乃至前條ノ規定ハ許可又ハ承認ヲ受ケタル事項ヲ變更セントスル場合ニ之ヲ準用ス

第十七條 憲兵分隊長又ハ警察署長第四條、第六條、第七條又ハ第九條ノ規定ニ依リ許可申請書ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ之ヲ海軍大臣、當該鎭守府司令長官、艦隊司令長官、獨立艦隊司令官又ハ要港部司令官ニ提出スベシ

第十八條 海軍大臣、鎭守府司令長官、艦隊司令長官、獨立艦隊司令官、要港部司令官又ハ艦船部隊、官衙、學校ノ長許可若ハ承認ヲ爲シ又ハ條件ヲ附シテ許可若ハ承認ヲ爲シタルトキハ許可證又ハ承認證ヲ交付ス但シ急速ヲ要スルトキハ許可證ハ承認證ヲ交付セザルコトアルベシ前項ノ許可證ハ許可申請書ヲ受理シタル憲兵分隊長又ハ警察署長ヲ經テ之ヲ交付ス

第十九條 前條ノ許可證又ハ承認證ハ現場ニ於テ行爲ヲ爲ス者必ズ之ヲ携帶シ其ノ附近ヲ警衞スル海軍ノ軍人、軍屬若ハ憲兵又ハ警察官吏ノ要求アルトキハ何時ニテモ其ノ閲覽ニ供スベシ

但シ第十條第一項但書後段ノ規定ニ依リ船主ニ於テ海軍大臣ノ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十條 許可證ヲ失ヒタル場合ニ於テハ運帶ナク其ノ理由ヲ具シ再下付ヲ申請スベシ

許可證ヲ失ヒタル者ハ直ニ最寄憲兵分隊長又ハ警察署長ニ其ノ旨ヲ届出デ承認ヲ受クルニ非ザレバ其ノ行爲ヲ繼續スルコトヲ得ズ

前項ノ届出ヲ受ケタル憲兵分隊長又ハ警察署長ハ其ノ旨許可證ヲ交付シタル官憲ニ報告又ハ通報スベシ

第二十一條 第五條第一項但書又ハ第八條第二項ニ規定スル許可ヲ受ケズシテ航空機ノ故障、避難其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ第五條第一項第一號ニ揭グル區域又ハ第八條第一項ノ規定ニ依ル區域ニ著陸若ハ著水シタルトキハ當該航空機ノ乘員ハ事後速ニ最寄憲兵分隊長又ハ警察署長ヲ經テ海軍大臣ニ其ノ事情ヲ届出ヅベシ

第二十二條 軍機保護法第十九條ノ規定ニ依ル沒取處分ハ海軍大臣ノ認可ヲ受ケ憲兵分隊長又ハ警察署長之ヲ行フ前項ノ沒取處分ハ憲兵分隊長又ハ警察署長命令書ヲ交付シテ之ヲ爲スベシ

第二十三條 第二條第四號、第三條第一項ニ規定スル標識ハ附圖第一、第五條第二項ニ規定スル標識ハ附圖第二、第八條第一項ニ規定スル標識ハ附圖第三ノ如シ

第二十四條 第二條第四號、第三條第一項、第五條第二項又ハ第八條第一項ノ規定ニ依リ設置シタル標識ヲ損壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ無効ナラシメタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十五條 許可證ヲ所持スベキ者第十九條ノ規定ニ依ル閲覽ヲ拒ミタルトキハ十圓以下ノ科料ニ處ス

附則

本令ハ昭和十二年法律第七十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

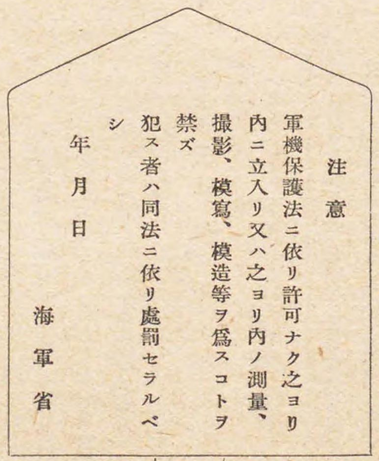
附則（昭和十五年十月三十一日）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則（昭和一六、三、海令八）

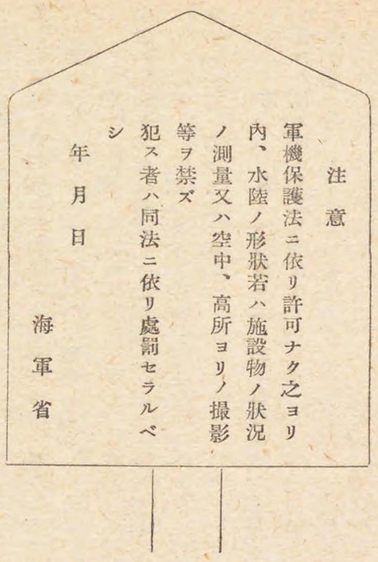
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附圖第一



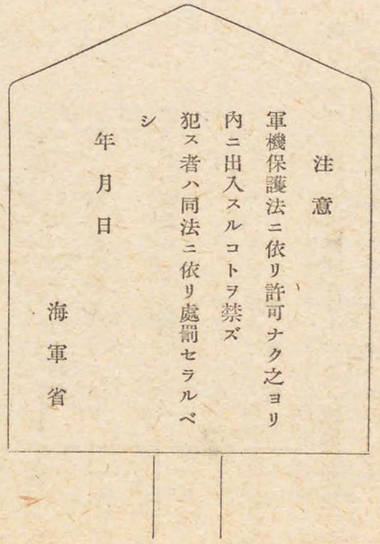
備考 情況ニ應ジ上下兩段ニ分チ下段ニ適宜諺文又ハ華文其ノ他國語ニ非ザル文字ヲ記載スルコトヲ得

附圖第二



備考　情況ニ應ジ上下兩段ニ分チ下段ニ適宜諺文又ハ華文其ノ他國語ニ非ザル文字ヲ記載スルコトヲ得

附圖第三



備考　情況ニ應ジ上下兩段ニ分チ下段ニ適宜諺文又ハ華文其ノ他國語ニ非ザル文字ヲ記載スルコトヲ得

陸軍輸送港域軍事取締法

（昭和八年三月法律第二十九號）

改正　昭和十五年法律第九十一號

第一條　本法ニ於テ陸軍輸送港域トハ左ニ揭グル區域ニシテ命令ヲ以テ指命スルモノヲ謂フ

一　廣島縣廣島市、同縣安藝郡海田市町、矢野町、船越町、府中町、奥海田村、温品村、戸坂村、畑賀村、中野村、坂村及中山村、同縣安佐郡祇園町、福木村、山本村及長束村、同縣佐伯郡廿日市町、嚴島町、五日市町、地御前村、原村、宮內村、井口村、石內村、河內村、八幡村、觀音村、平良村、大野村、玖嶋村及砂谷村竝ニ其ノ附近ノ水面

二　佐賀縣東松浦郡切木村及入野村、同縣西松浦郡伊萬里町、山代町、黒川村、波多津村、大坪村、大川內村、二里村及東山代村、長崎縣北松浦郡志佐町、今福町、星鹿村、調川村、福島村、鷹嶋村、上志佐村及御厨村竝ニ其ノ附近ノ水面

第二條　陸軍輸送港域ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ第一區及第二區ニ分ツ

第三條　陸軍輸送港域第一區內ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲サントスル者ハ陸軍大臣ノ許可ヲ受クベシ但シ命令ヲ以テ**許可ヲ要セズト規定シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ**

一　堤塘、棧橋、埠頭、橋梁、道路、運河、鐵道又ハ軌道ノ新設又ハ變更

二　水面ノ埋立又ハ干拓

第四條　陸軍輸送港域第一區內ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲サントスル者ハ陸軍運輸部長（陸軍大臣ノ特ニ定ムル場合ニ於テハ其ノ指定スル陸軍運輸部ノ職員トス以下之ニ同ジ）ノ許可ヲ受クベシ但シ命令ヲ以テ許可ヲ要セズト規定シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　家屋、工場、倉庫其ノ他ノ工作物ノ新築、改築又ハ增築

二　前號ニ揭グル工作物以外ノ工作物ニシテ不燃質物ヲ材料トスルモノノ新築、改築又ハ增築

三　用水路、惡水路、溜池、貯水池又ハ養魚池ノ新設又ハ變更

四　公園、廣場、運動場、競馬場又ハ飛行場ノ新設又ハ變更
五　土地ノ形質ヲ變更スル土石ノ採掘又ハ堆積
六　水深ノ變更ヲ生ズベキ物件ノ委棄又ハ水底ニ於ケル土石ノ採取
七　爆發物ノ使用又ハ爆發物若ハ容易ニ燃燒スベキ物件ノ運搬、積卸若ハ貯藏
八　水面ニ於ケル貯木
九　浮標、立標其ノ他航路標識ノ新設又ハ變更
十　船舶ノ航行若ハ繫泊又ハ筏ノ運航若ハ繫留
十一　漁獵又ハ採藻

前項ノ不燃質物、爆發物及容易ニ燃燒スベキ物件ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　陸軍輸送港域第一區内ノ水陸ノ形狀又ハ軍事施設ノ狀況ヲ撮影、模寫、模造若ハ錄取シ又ハ其ノ複寫若ハ複製ヲ爲サントスル者ハ陸軍運輸部長ノ許可ヲ受クベシ但シ命令ヲ以テ許可ヲ要セズト規定シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ場合ニ於テ軍機保護法ニ特別ノ規定アルモノニ付テハ其ノ規定ニ依ル

第六條　前三條ノ規定ニ依ル許可ニハ條件ヲ附スルコトヲ得

前項ノ條件ハ軍事上必要アルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得

第七條　陸軍運輸部長ハ陸軍輸送港域内ニ於テ軍事施設ノ狀況其ノ他地形等ヲ視察スル者ト認ムルトキハ其ノ者ニ對シ港域外ニ退去ヲ命ズルコトヲ得

陸軍運輸部長ハ特ニ必要アルトキハ前項ノ規定ニ依リ退去ヲ命ゼラレタル者ニ對シ陸軍輸送港域内ニ入ルコトヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第八條　戰時又ハ事變ニ際シ必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ第三條乃至第六條及第十條ノ規定竝ニ之ニ關スル罰則ノ規定ヲ陸軍輸送港域第二區ノ全部又ハ一部ニ適用スルコトヲ得

第九條　陸軍運輸部長ハ戰時又ハ事變ニ際シ必要アルトキハ陸軍輸送港域内ニ在ル船舶ニ對シ錨地ノ變更又ハ退去ヲ命ズルコトヲ得

第十條　陸軍大臣ハ第三條若ハ第四條ノ規定又ハ第三條若ハ第四條ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者ニ對シ原狀回復ヲ命ズルコトヲ得

第十一條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付陸軍大臣又ハ陸軍運輸部長ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴願スルコトヲ得

第十二條　陸軍大臣ハ陸軍輸送港域各區ノ區域ヲ標示スル爲必要ナル場所ニ標識ヲ設置スルコトヲ得

當該官吏ハ前項ノ標識ヲ設置スル爲必要ナル土地ニ立入リ實地調査ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ豫メ其ノ旨ヲ土地ノ占有者ニ通知スベシ

第十三條　前條ノ場合ニ於テ通常生ズベキ損害ハ之ヲ補償ス

前項ノ規定ニ依ル補償金額ハ陸軍大臣之ヲ決定ス其ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴願スルコトヲ得ズ

第十四條　本法ノ禁止及制限ハ陸海軍又ハ陸海軍官廳ノ行動又ハ施設ニ關シテハ之ヲ適用セズ

第十五條　陸海軍以外ノ官廳ニ於テ第三條乃至第六條ニ掲グル行爲ヲ爲サントスルトキハ主務大臣ニ在リテハ陸軍大臣ニ協議シ其ノ他ノ官廳ニ在リテハ各本條ノ規定ニ準ジ陸軍大臣又ハ陸軍運輸部長ノ承認ヲ受クベシ

第十六條　第九條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハザル船舶ノ長又ハ其ノ職務ヲ執ル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第三條ノ規定ニ違反シタル者
二　第四條第一號乃至第九號ノ規定ニ違反シタル者
三　第四條第十號又ハ第十一號ノ規定ニ違反シタル者
四　第五條ノ規定ニ違反シタル者
五　第七條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ從ハザル者又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル禁止若ハ制限ニ違反シタル者

第十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第三條ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者
二　第四條第一號乃至第九號ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者
三　第四條第十號又ハ第十一號ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者
四　第五條ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタ

ル者

第十九條 陸軍輸送港域各區ノ區域ヲ標示スル標識ヲ損壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ無效ナラシメタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十條 法人又ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第十七條第一號若ハ第二號又ハ第十八條第一號若ハ第二號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十一條 第十七條第一號及第二號竝ニ第十八條第一號及第二號ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條 前二條ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ニ處スルコトヲ得ズ

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ作業中ノモノニハ第三條第一號乃至第三號及第四條第一項第一號ノ規定ヲ適用セズ

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ニ依リ新ニ許可ヲ受クルコトヲ要スルコトト爲リタル事項ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノニ關シ本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

陸軍輸送港域軍事取締法施行規則

（昭和八年三月陸軍省令第十九號）

改正 昭和十五年六月陸軍省令第十八號

第一條 陸軍輸送港域ハ之ヲ別圖實線以內トシ同港域第一區ヲ點線以內、同港域第二區ヲ點線以外實線以內トス前項ノ各區域ハ現場ニ標識ヲ設ケ之ヲ標示スルノ外關係人ノ閱覽ニ供スル爲其ノ圖面ヲ當該區域ヲ管轄スル市役所、町村役場、警察署又ハ憲兵隊ニ備付ク

第二條 陸軍輸送港域軍事取締法第四條第二項ノ規定ニ依ル不燃質物、爆發物及容易ニ燃燒スベキ物件ノ種類ハ別表第一ニ依ル

第三條 左ニ揭グル行爲ニ付テハ陸軍大臣又ハ陸軍運輸部長（伊萬里港域ニ關スルモノニ付テハ陸軍運輸部長ノ指名スル陸軍運輸部ノ職員トス以下之ニ同ジ）ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ

一 長サ三〇メートル以下ニシテ容易ニ撤去シ得ベキ棧橋、一時的使用ノ目的ヲ以テ敷設スル軌道及工場、倉庫等內ニ敷設スル鐵道ノ新設又ハ變更

二 有效幅員二・七三メートル以下ノ道路及此等ノ道路ニ接續スル橋梁ノ新設又ハ變更

三 不燃質物ヲ材料トセザル建築面積三三〇平方メートル以下ノ納屋、炭燒小屋、伐木小屋、造林小屋、畜舍等ノ新築、改築又ハ增築

四 宅地內（工場內ヲ除ク以下之ニ同ジ）ニ於ケル不燃質物ヲ材料トスル工作物（家屋、工場、倉庫其ノ他之ニ類スル工作物ヲ除ク）ノ新築、改築若ハ增築又ハ工場內ニ於ケル軌條ノ敷設若ハ變更

五 社寺境內地又ハ墓地ニ於ケル鳥居、燈籠、墓碑等ノ新築、改築又ハ增築

六 宅地內ニ於ケル用水路、惡水路、溜池又ハ養魚池ノ新設又ハ變更

七 耕作ノ爲ニスル土石ノ採掘若ハ堆積又ハ井戶ノ掘鑿

八 地貌ノ變化ヲ來サザル土石ノ採掘又ハ堆積

九 道路ノ補修

十 地下埋設物ノ新設、增設又ハ改修

十一 宅地內ニ於ケル土石ノ採掘若ハ堆積又ハ井戶ノ掘鑿

十二 非常災害防止ノ爲必要ナル應急處置トシテ土石ノ採掘又ハ堆積

十三 不可抗力ニ因リ形狀ヲ變更シタル土地又ハ物件ヲ原狀ニ復スル作業

十四 鑛業法第十條第三項（砂鑛法第二十三條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケタル場合ニ於ケル鉱鑛、坑口ノ開穿、鑛物ノ採掘又ハ砂鑛ノ採取、鑛物又ハ土石ノ堆積其ノ他ノ鑛業ノ作業

十五 爆發物又ハ容易ニ燃燒スベキ物件ノ運搬、積卸又ハ貯藏ニ關スル行爲中左ニ揭グルモノ

イ 鐵道ニ依ル運搬又ハ其ノ積卸

ロ　船舶ノ常用ヲ超過セザル數量ノ積卸
ハ　貯藏又ハ鐵道ニ依ルモノ以外ノ運搬若ハ積卸ニシテ陸軍運輸部長ニ於テ指定スルモノ
十六　狩獵ノ爲ニスル銃器ノ使用
十七　河川又ハ私有水面ニ於ケル貯木
十八　貯木設備ニ於ケル貯木
十九　船、舟具ヲ使用セザル漁獵又ハ採藻
二十　稅關官吏ノ檢査ヲ受クル爲別表第二ニ於テ船舶ノ航行ニ付許可ヲ要セズト定メタル宇品島附近第一區ヲ經由シ稅關棧橋ニ發著スル船舶ノ航行又ハ同區域ニ出入スル爲運行上一時必要ナル船舶ノ航行

第四條　左ニ揭グル行爲ハ別表第二ニ揭グル區域內ニ限リ陸軍大臣又ハ陸軍運輸部長ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ

一　陸軍輸送港域軍事取締法第三條第二號ニ規定スル行爲中私有水面ノ埋立又ハ干拓
二　同法第四條第一項第一號ニ規定スル行爲中不燃質物ヲ材料トセザル建築面積三三〇平方メートル以下ノ住家及之ニ附屬スル倉庫（建築面積三三〇平方メートル以下ノモノ）ノ新築、改築又ハ增築但シ現ニ存スル建築面積ヲ合算シタル建築面積三三〇平方メートルヲ超過スル場合ヲ除ク
三　同法第四條第一項第五號ニ規定スル行爲中土地ノ形質ヲ變更スル土石ノ採掘
四　同法第四條第一項第十號ニ規定スル行爲中船舶ノ航行若ハ繫泊又ハ筏ノ運航若ハ繫留
五　同法第四條第一項第十一號ニ規定スル行爲中漁獵又ハ採藻

第五條　陸軍運輸部長本令ニ依リ指定ヲ爲ス場合ニ於テハ陸軍運輸部（伊萬里港域ニ在ル陸軍運輸部ノ事務所）揭示場ニ之ヲ揭示ス

第六條　陸軍輸送港域軍事取締法第三條各號ニ規定スル行爲ニ關スル許可願書（四通）ニハ工事ノ種類、其ノ目的、位置、設計及竣功時期ヲ具シ現住地又ハ當該行爲地最寄ノ憲兵分隊長（分遣隊長ヲ含ム以下之ニ同ジ）又ハ警察署長ヲ經テ之ヲ陸軍大臣ニ提出スベシ

第七條　陸軍輸送港域軍事取締法第四條第一項各號及第五條ニ規定スル行爲ニ關スル許可願書（三通）ニハ左ニ揭グル事項ヲ具シ現住地又ハ當該行爲地最寄ノ憲兵分隊長又ハ警察署長ヲ經テ之ヲ陸軍運輸部長ニ提出スベシ

一　陸軍輸送港域軍事取締法第四條第一項第一號乃至第四號ニ規定スル行爲ノ場合ニ付テハ其ノ目的、位置、設計及竣功時期
二　同法第四條第一項第五號ニ規定スル行爲ニ付テハ其ノ目的、區域、方法及期間
三　同法第四條第一項第六號ニ規定スル行爲ニ付テハ其ノ目的、區域、方法、時期、委棄スベキ物件又ハ採取スベキ土石ノ種類及數量
四　同法第四條第一項第七號ニ規定スル行爲中使用ニ付テハ其ノ目的、場所、方法、時期、運搬ニ付テハ其ノ目的、通路、方法、時期、運搬スベキ物件ノ種類及數量、積卸ニ付テハ其ノ目的、場所、方法、時期、積卸スベキ物件ノ種類及數量、貯藏ニ付テハ其ノ目的、位置、期間、貯藏ノ設備、貯藏スベキ物件ノ種類及數量
五　同法第四條第一項第八號ニ規定スル行爲ニ付テハ其ノ目的、區域、方法、種類、數量、期間
六　同法第四條第一項第九號ニ規定スル行爲ニ付テハ其ノ目的、位置、設計、期間
七　同法第四條第一項第十號ニ規定スル行爲中船舶ノ航行又ハ繫泊ニ付テハ其ノ目的、航路又ハ位置、時期、船舶ノ長ノ住所、氏名、船舶ノ種類、名稱、總噸數、信號符字及所有者ノ住所、氏名又ハ名稱、筏ノ運航又ハ繫留ニ付テハ其ノ目的、航路、位置、時期、期間、數量、運航者ノ住所、氏名
八　同法第四條第一項第十一號ニ規定スル行爲ニ付テハ區域、方法及日時、漁業權又ハ入漁權ニ基ク行爲ニ付テハ其ノ權利ヲ證スル事項
九　同法第五條ニ規定スル行爲中撮影、模寫、模造又ハ錄取ニ付テハ其ノ目的、區域、方法、使用器具ノ種類、日時及行爲ノ場所、複寫又ハ複製ニ付テハ其ノ目的、方法、行爲ノ場所、複寫又ハ複製スベキモノノ種類及數量

左ノ場合ニ於テハ前項ノ出願ハ憲兵分隊長又ハ警察署長ヲ經ルコトヲ要セズ

一　船舶ノ航行又ハ繫泊ニ關スル許可ヲ出願スルトキ
二　漁獵又ハ採藻ニ關シ水產會員又ハ漁業組合若ハ水產組合ノ組合員タル者當該水產會又ハ組合ヲ經テ許可ヲ出願スルトキ
三　陸軍運輸部長ニ於テ已ムコトヲ得ザル事由アリト認ムルトキ

第八條　縣、市、町、村其ノ他ノ公共團體及法人ノ許可願

書ニ在リテハ其ノ代表者ヨリ之ヲ提出スベシ

第九條　前三條ノ規定ニ依リ陸軍大臣又ハ陸軍運輸部長ニ許可願書ヲ提出スル場合ニ於テ別ニ法令ノ定ムル所ニ依リ陸軍以外ノ主務官廳ノ許可ヲ要スル行爲ニ付テハ先ヅ其ノ許可ヲ受ケ之ヲ證スル書類又ハ許可書ノ寫ヲ許可願書ニ添附スベシ

第十條　陸海軍以外ノ官廳ニ於テ陸軍輸送港域軍事取締法第三條乃至第五條ニ規定スル行爲ノ承認ヲ受ケントスルトキハ第六條及第七條ノ規定ニ準ジ承認申請書(三通)ヲ陸軍大臣又ハ陸軍運輸部長ニ提出スベシ但シ陸軍大臣ニ提出スルモノニ在リテハ陸軍運輸部長ヲ經由スル前項ノ場合ニ於テハ憲兵分隊長又ハ警察署長ヲ經由スコトヲ要セズ

第十一條　第六條乃至前條ノ規定ハ許可又ハ承認ヲ得タル事項ヲ變更セントスル場合ニ之ヲ準用ス

第十二條　憲兵分隊長又ハ警察署長第六條ノ規定若ハ同條ノ規定ヲ準用シタル前條ノ規定又ハ第七條ノ規定若ハ同條ノ規定ヲ準用シタル前條ノ規定ニ依リ許可願書ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ陸軍運輸部長ニ提出スベシ

但シ行爲地最寄ノ憲兵分隊長又ハ警察署長ハ許可書一通ヲ之ヲ保管スベシ

陸軍運輸部長前項ノ規定ニ依リ第六條ノ規定又ハ同條ノ規定ヲ準用シタル前條ノ規定ニ依ル許可願書ヲ受ケタルトキハ意見ヲ附シ許可願書二通ヲ陸軍大臣ニ提出スベシ第十條第一項但書ノ規定ニ依リ承認申請書ヲ受ケタルトキ亦同ジ

第十三條　陸軍大臣又ハ陸軍運輸部長許可又ハ承認ヲ爲シタルトキハ許可願書一通ヲ添附シタル許可證又ハ承認申請書一通ヲ添附シタル承認證ヲ交付ス

第十四條　前條ノ許可證又ハ承認證ハ現場ニ於テ行爲ヲ爲ス者必ズ之ヲ携帶シ何時ニテモ陸軍運輸部職員、憲兵又ハ警察官吏ノ要求ニ應ジ閲覽ニ供スベシ

第十五條　許可證又ハ承認證ヲ失ヒタル者ハ其ノ事由ヲ具シ陸軍運輸部長ニ遲滯ナク届出デ必要ニ應ジ再下付ヲ申請スベシ此ノ場合ニ於テ未ダ再下付ヲ受ケザルトキト雖モ最寄ノ憲兵分隊長又ハ警察署長ノ承認ヲ受ケタルトキハ當該行爲ヲ繼續スルコトヲ得

第十六條　許可證ヲ所持スベキ者第十四條ノ規定ニ依ル閲覽ヲ拒ミタルトキハ十圓以下ノ科料ニ處ス

附　則

第一條　本令ハ昭和十五年法律第九十一號宇品港域軍事取締法中改正法律（以下改正法律ト稱ス）施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條　改正法律中ノ改正規定ニ依リ新ニ許可ヲ受クルコトヲ要スルコトト爲リタル左ニ揭グル事項ニシテ第三條又ハ第四條ノ規定ニ依リ許可ヲ要セズト定ムル以外ノモノト雖モ陸軍大臣又ハ陸軍運輸部長ノ許可又ハ承認ヲ要セズ

一　本令施行ノ際現ニ作業中ノ改正法律第三條第一號規定スル堤塘ノ新設又ハ變更但シ本令施行後六月以内ニ完了スルモノニ限ル

二　本令施行ノ際現ニ作業中ノ改正法律第四條第一項第一號ニ規定スル不燃質物ヲ材料トセザル家屋、工場、倉庫其ノ他ノ工作物ノ新築、改築又ハ增築但シ本令施行後三月以内ニ完了スルモノニ限ル

三　本令施行ノ際現ニ作業中ノ改正法律第四條第一項第二號ニ規定スル不燃質物ヲ材料トスル工作物ノ新築、改築又ハ增築但シ本令施行後三月以内ニ完了スルモノニ限ル

四　本令施行ノ際現ニ作業中ノ改正法律第四條第一項第三號ニ規定スル用水路、惡水路、溜池、貯水池又ハ養魚池ノ新設又ハ變更

五　本令施行ノ際現ニ作業中ノ改正法律第四條第一項第四號ニ規定スル公園、廣場、運動場、競馬場又ハ飛行場ノ新設又ハ變更

六　本令施行ノ際現ニ作業中ノ改正法律第四條第一項第五號ニ規定スル土地ノ形質ヲ變更スル土石ノ堆積但シ本令施行後三月以内ニ完了スルモノニ限ル

七　本令施行ノ際現ニ作業中ノ改正法律第四條第一項第六號ニ規定スル水底ニ於ケル土石ノ採取但シ本令施行後三月以内ニ完了スルモノニ限ル

八　本令施行ノ際現ニ作業中ノ改正法律第四條第一項第九號ニ規定スル浮標、立標其ノ他航路標識ノ新設又ハ變更

第三條　本令第一條第一項ノ規定ニ依リ新ニ第一區ニ指定セラレタル區域ニ於ケル左ニ揭グル事項ニシテ第三條又ハ第四條ノ規定ニ依リ許可ヲ要セズト定ムル以外ノモノト雖モ陸軍大臣又ハ陸軍運輸部長ノ許可又ハ承認ヲ要セズ

一　本令施行ノ際現ニ作業中ノ陸軍輸送港域軍事取締法

第三條第一號ニ掲グルモノ（前條第一號ニ規定スルモノヲ除ク）但シ本令施行後六月以内ニ完了スルモノニ限ル

二　本令施行ノ際現ニ作業中ノ同法第三條第二號ニ掲グルモノ

三　本令施行ノ際現ニ作業中ノ同法第四條第一項第一號ニ掲グルモノ（前條第二號及第三號ニ掲グルモノヲ除ク）但シ本令施行後三月以内ニ完了スルモノニ限ル

第四條　前二條ニ規定スル作業ヲ爲ス者ハ其ノ作業ニ關シ本令施行ノ日ヨリ二十日以内ニ本令ノ規定ニ準ジ憲兵分隊長又ハ警察署長ヲ經テ陸軍運輸部長ニ届出ヅベシ

第五條　本令附則第二條及第三條ニ該當セザル作業竝ニ本令第一條第一項ノ規定ニ依リ新ニ第一區ニ指定セラレタル區域ニ於ケル陸軍輸送港域軍事取締法第四條第一項第五號乃至第九號及第十一號ニ掲グル行爲ハ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ限リ許可ヲ受クルコトヲ要セズ

（別表省略）

要塞地帶法

（明治三十二年七月法律第百五號）
改正　昭和十五年四月法律第九十號

第一章　總則

第一條　要塞地帶トハ國防ノ爲建設シタル諸般ノ防禦營造物ノ周圍ノ區域ヲ云フ

第二條　要塞地帶ノ幅員ハ防禦營造物ノ各突出部ヲ連結スル線ヲ基線トシ此ノ線ヨリ外方一定ノ距離以内ニ於テ之ヲ定ム

第三條　要塞地帶ハ陸地ト海面トヲ問ハス之ヲ三區ニ分チ各區ノ幅員ハ左ノ區別ニ從ヒ陸軍大臣之ヲ定メ竝之ヲ告示ス其ノ之ヲ變更スル場合亦同シ陸軍防禦營造物ノ地帶カ海軍防禦營造物ノ地帶ト相關聯スルカ或ハ軍港要港又ハ海軍用地ニ係ル場合竝陸軍用地カ海軍防禦營造物ノ地帶ト相關聯スル場合ニ於テハ陸軍大臣海軍大臣協議ノ上之ヲ定メ連署シテ告示ヲ爲スコトヲ要ス

第一區　基線ヨリ測リ千メートル以内及基線ト防禦營造物ノ周圍ノ區域トノ間ノ區域

第二區　基線ヨリ測リ五千メートル以内及第一區

第三區　基線ヨリ測リ一萬五千メートル以内及第二區

第四條　要塞司令官鎭守府司令長官要港部司令官及陸軍築城部本部長ハ要塞地帶ヲ劃スル爲其ノ他必要ト認ムル場合ニ於テハ部下官僚ヲシテ要塞地帶内何レノ地ヲ問ハス出入セシムルコトヲ得但シ陸海軍用地内ニ出入セシメントスルトキハ互ニ當該官廳ノ承認ヲ經ヘシ

第五條　陸軍防禦營造物ノ地帶ニ關聯セサル海軍防禦營造物ノ地帶ニ關シテハ此ノ法律ニ規定スル陸軍大臣ノ職務ハ海軍大臣之ヲ行ヒ要塞司令官ノ職務ハ鎭守府司令長官要港部司令官之ヲ行フ

第六條　此ノ法律ハ防禦營造物ノ設ナシト雖之ヲ設クルコトニ決定シタル箇所ニ於テ其ノ豫定防禦營造物ノ各突出部ヲ連結スル線ヲ基線トシ第二條及第三條ニ定メタル區域ニ付テ亦之ヲ適用ス但シ基線以内ノ區域ハ第一區ニ準ス

第二章　禁止及制限

第七條　何人ト雖要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ要塞地帶内ニ於テ左ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

一　家屋、工場、倉庫其ノ他ノ工作物ノ新築、改築又ハ增築

二　爆發物ノ使用若ハ貯藏又ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ノ貯藏

三　用水路、惡水路又ハ溜池ノ新設又ハ變更

四　竹木林ノ造成又ハ伐採

五　墓地ノ新設又ハ變更

六　山林又ハ原野ニ於ケル焚火

七　漁撈、採藻又ハ船舶ノ繫泊

若ハ錄取又ハ其ノ複寫若ハ複製ヲ爲スコトヲ得ス但シ軍機保護法ニ特別ノ規定アルモノニ付テハ其ノ規定ニ依ル

第八條　要塞司令官ハ要塞地帶内ニ於テ兵備ノ狀況其ノ他地形等ヲ視察スル者ト認メタルトキハ之ヲ要塞地帶外ニ退去セシムルコトヲ得

陸軍大臣又ハ要塞司令官ハ特ニ必要アルトキハ前項ノ規定ニ依リ退去ヲ命セラレタル者ニ對シ要塞地帶内ニ入ルコトヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第九條　要塞地帶ノ第一區内ニ在リテハ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

一　家屋、工場、倉庫其ノ他ノ工作物ノ新築、改築又ハ增築

二　爆發物ノ使用若ハ貯藏又ハ容易ニ燃燒スヘキ物件ノ貯藏

三　用水路、惡水路又ハ溜池ノ新設又ハ變更

四　竹木林ノ造成又ハ伐採

五　墓地ノ新設又ハ變更

六　山林又ハ原野ニ於ケル焚火

七　漁撈、採藻又ハ船舶ノ繫泊

八　狩獵

第十條　第二區內ニ在リテハ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ水準標高四十メートル以上ノ高地ニ於ケル家屋、工場又ハ倉庫ノ新築、改築又ハ增築ヲ爲スコトヲ得

第十一條　第一區及第二區內ニ在リテハ要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

一　不燃質物ヲ材料トスル工作物ノ新築、改築又ハ增築

二　土地ノ形質ヲ變更スル土石ノ採掘又ハ堆積

三　公園、運動場、競馬場、飛行場、耕作地、果樹園、桑畑、貯水池、養魚池又ハ鹽田ノ新設又ハ變更

四　水深ノ變更ヲ生スヘキ物件ノ委棄又ハ水底ニ於ケル土石ノ採取

五　火入

六　高周波電流ヲ發スル設備ノ新設又ハ變更

第十二條　第一區及第二區內ニ在リテハ陸軍大臣ノ許可ヲ得ルニ非サレハ左ノ各號ハ一ニ該當スル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

一　堤塘、棧橋、埠頭、橋梁、道路、運河、隧道、鐵道又ハ軌道ノ新設又ハ變更

二　水面ノ埋立又ハ干拓

第十三條　第七條又ハ第九條乃至前條ノ規定ニ依ル許可ニハ條件ヲ附スルコトヲ得前項ノ條件ハ國防上必要アルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得

第十四條　要塞司令官ハ第九條乃至第十一條ノ規定又ハ第九條乃至第十一條ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者ニ對シ、陸軍大臣ハ第十二條ノ規定又ハ同條ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者ニ對シ原狀回復ヲ命スルコトヲ得

第十五條　地帶ノ禁止制限ニ關シ官廳ノ處分ニ服セサル者ハ其ノ處分ニ就テノ告示又ハ通達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ陸軍大臣ニ訴願スルコトヲ得但シ訴願中處分ノ執行ヲ妨ケス

第十六條　陸軍大臣ハ場合ニ依リ或區域內ニ限リ特ニ本章制限ノ全部若ハ一部ヲ解除スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ解除ノ事項及其ノ區域ヲ告示ス之ヲ變更スルトキ亦同シ

第十七條　本章ノ制限ハ陸海軍又ハ陸海軍官廳ノ行動又ハ施設ニ對シテハ之ヲ適用セス但シ陸軍防禦營造物ノ地帶ニシテ海軍防禦營造物ノ地帶ト相關聯スル場合若ハ軍港

要港又ハ海軍用地ニ係ル場合竝陸軍用地カ海軍防禦營造物ノ地帶ト相關聯スル場合ニ於テ當該陸軍官廳若ハ海軍官廳カ此ノ法律ニ揭クル許可又ハ承認ヲ爲シ若ハ前條ノ處分ヲ爲サントスルトキハ陸軍官廳ハ當該海軍官廳ニ海軍官廳ハ當該陸軍官廳ニ協議スルコトヲ要ス

第十八條　陸海軍以外ノ官廳ニ於テ第七條及第九條乃至第十一條ニ揭クル事項ヲ爲サントスルトキハ要塞司令官ノ承認第十二條ニ揭クル事項ヲ爲サントスルトキハ陸軍大臣ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第三章　罰　則

第十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第九條第二號ノ規定ニ違反シタル者

二　第十一條第一號又ハ第五號ノ規定ニ違反シタル者

三　第十二條ノ規定ニ違反シタル者

第二十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第七條ノ規定ニ違反シタル者

二　第八條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ從ハサル者又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル禁止若ハ制限ニ違反シタル者

三　第九條第一號又ハ第三號乃至第五號ノ規定ニ違反シタル者

四　第九條第六號乃至第八號ノ規定ニ違反シタル者

五　第十條ノ規定ニ違反シタル者

六　第十一條第二號乃至第四號又ハ第六號ノ規定ニ違反シタル者

第二十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金若ハ科料ニ處ス

一　第七條ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者

二　第九條第一號乃至第五號ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者

三　第九條第六號乃至第八號ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者

四　第十條ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者

五　第十一條ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者

六　第十二條ノ規定ニ依ル許可ニ附シタル條件ニ違反シタル者

第二十二條　各區ノ區域ヲ標示スル爲設ケタル標識ヲ損壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ無效ナラシメタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十三條　法人又ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者カ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第十九條、第二十條第三號、第五號若ハ第六號又ハ第二十一條第二號若ハ第四號乃至第六號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十四條　第十九條、第二十條第三號、第五號及第六號竝ニ第二十一條第二號及第四號乃至第六號ノ罰則ハ其ノ者カ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條　前二條ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

第四章　雜　則

第二十六條　要塞地帶創設又ハ變更ノ告示ノ當時家屋倉庫築造物等ノ新設、變更、改築、增築等ノ作業中ニ係ルモノハ此ノ法律ノ制限ヲ適用セス

第二十七條　各區ノ區域ヲ標示スル標識ヲ設置スル爲ニ要スル敷地ノ買收及使用ニ關シテハ陸地測量標條例ヲ準用ス

第二十八條　此ノ法律ノ施行ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

第二十九條　此ノ法律ハ軍港規則及要港規則ノ效力ヲ妨クルコトナシ

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ定ム

本法ニ依リ新ニ許可ヲ受クルコトヲ要スルコトト爲リタル事項ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノニ關シ本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ定ム

要塞地帶改正法律施行期日ノ件ヲ昭和十五年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

軍港要港ニ關スル件

（明治十三年一月　法第二號）

軍港要港境域內ニ所在ノ人民及出入スル船舶ハ海軍大臣定ムル所ノ軍港要港規則ニ從フヘシ但海軍大臣ニ於テ軍港要港規則ヲ定ムルトキハ內務大臣農商務大臣ト協議スヘシ

軍港要港規則

（明治三十三年四月　海軍省令第七號）

改正　昭和十四年　海軍省令第三十四號

第一條　軍港要港ノ水域ハ各之ヲ三區ニ分チ別圖點一線以內ヲ第一區ト稱シ點二線以內ヲ第二區ト稱シ第一區、第二區以外ヲ總テ第三區ト稱ス

第二條　軍港要港ニ入ラントスル艦船ハ軍港要港水域外約三海里ノ所ヨリ投錨若ハ繫止スル地點マテ萬國船舶信號ニ依リ各自ノ艦船名ヲ表示スヘシ但シ鎭守府司令長官其ノ必要ナシト認メ其ノ旨豫メ通知シタルモノハ此ノ限ニアラス

第三條　軍港要港水域及其ノ以外約三海里以內ノ水面ニ繫泊シ若ハ運航スル艦船ハ特別ノ規定アルモノノ外其ノ國籍ヲ表明スル旗章ヲ揭揚スヘシ

第四條　軍港要港水域及其ノ以外約三海里以內ノ水面ニ繫泊シ若ハ運航スル艦船ハ日沒ヨリ日出マテ海上衝突豫防ニ關スル法令ニ規定シタル各種ノ船燈ヲ揭クヘシ

第五條　內外各地ヨリ入港スル艦船ニシテ海港檢疫法第四條第一項ノ各號ニ該當スル場合ニ於テ檢疫又ハ消毒ヲ終ラサルモノハ鎭守府司令長官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ第一區第二區ニ入ルコトヲ許サス又第一區、第二區ニ於テ傳染病患者ヲ發シタル艦船ハ檢疫信號ヲ揭ケテ鎭守府司令長官ノ指揮ヲ待ツヘシ

第六條　第三區ニ於テハ航路ノ妨トナラサル限ハ艦船自由ニ碇泊スルコトヲ得但シ爆發物若ハ燃燒シ易キ物件ヲ積載スル艦船ハ港務部長特ニ其ノ錨地ヲ指示スルコトアルヘシ

第七條　第一區、第二區ニハ海軍所屬艦船ノ外ハ鎭守府令

長官ノ許可ナクシテ入ルコトヲ許サス

無鶴軍港ニ於テ第三區ヨリ第二區ヲ通航シ直ニ第三區ニ移ル所ノ艦船ニハ前項ノ規定ヲ適用セス

排水噸數十五噸以上ノ海軍所屬艦船第一區ニ入ラントスルトキハ鎭守府司令長官ノ許可ヲ受クヘシ

海軍兵學校前面即チ別圖點三線以內ニ於テハ吳鎭守府司令長官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ海軍所屬艦船ノ外艦船ヲ碇繫スルコトヲ禁ス又海軍兵學校用地內ニ於テ赤旗ヲ揭ケタルトキハ總テ艦船ノ該點三線以內ヲ通航スルコトヲ禁ス

第八條　第一區、第二區ニ於テハ艦船ノ進退ハ排水噸數十五噸以下ノ船舟ヲ除クノ外總テ港務部長ノ指示ニ從フヘシ但シ天災其ノ他不時ノ事故ニ依リ其ノ指示ヲ待ツ能ハサル場合ニハ此ノ限ニアラス

舞鶴軍港ニ於テハ第三區ヨリ第二區ヲ通航シ直ニ第三區ニ移ル所ノ艦船ハ第二區ニ在ルトキト雖港務部長ノ指示ヲ待ツヲ要セス

第九條　外國ノ艦船ハ特別ノ事由アルニアラサレハ夜中ニ軍港要港ノ水域ニ入ルコトヲ許サス

第十條　鎭守府司令長官ハ必要アル場合ニハ在港艦船ニ錨地ノ變換若ハ退去ヲ命スルコトヲ得

第十一條　鎭守府司令長官ハ第一區ニ入リ又ハ入ラントスル艦船ノ積載物中危險ト認ムルモノアルトキハ之ヲ卸サシムルコトヲ得

第十二條　凡テ艦船ハ鎭守府司令長官ノ特許アルモノノ外火藥庫ヲ距ル百三十間以內ニ入ルコトヲ禁ス汽罐點火中ノ小蒸汽船其ノ他火氣ヲ有スル一切ノ船舟亦同シ

第十三條　軍港要港境域內ニ於テハ禮砲號砲及鎭守府司令長官ノ許可ヲ得タルモノノ外火器若ハ爆發物ノ發射發火ヲ禁ス但シ公私ノ家屋建造物ヲ距ルコト七十五間以內ニ於テハ禮砲號砲ト雖特ニ鎭守府司令長官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ一切發射發火ヲ爲スコトヲ許サス

第十四條　第一區、第二區（吳軍港ニ於テハ第一區、第二區及海軍兵學校前面即チ別圖點三線以內、鎭海要港ニ於テハ第一區、第二區及別圖點三線以內）ニ於テハ鎭守府司令長官ノ特許ヲ得スシテ漁獵採藻ヲ爲シ又ハ漂流物若ハ沈沒物ヲ拾得スルコトヲ禁ス

航路ノ妨害トナリ又ハ水中敷設物アル第三區內ノ水域ヲ亦前項ニ準ス

第十五條　第一區、第二區及其ノ海岸竝之ニ注入スル水流ニハ鎭守府司令長官ノ許可ヲ得ルニアラサレハ一切ノ物件ヲ委棄スルコトヲ禁ス鎭守府司令長官ハ必要アリト認ムルトキハ第三區及其ノ海岸ニ物件ノ委棄ヲ禁シ臨時委棄ノ場所ヲ指示スルコトヲ得

艦船若シ其ノ委棄スヘキモノヲ自カラ處分スルコト能ハサルトキハ港務部ニ其ノ處分ヲ請求スヘシ

第十六條　鎭守府司令長官ハ軍港要港水域內ニ於ケル有害ナル雜破物、委棄物若ハ其ノ他ノ物件ハ原因ノ如何ニ關セス其ノ義務者ヲシテ之ヲ指定ノ期限內ニ除去セシムルコトヲ得其ノ義務者之ヲ除去セサルトキ若ハ指定ノ期限內ニ終了スル見込ナキトキハ鎭守府司令長官ハ自ラ之ヲ除去若ハ破壞シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ除去若ハ破壞セシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得

其ノ義務者不明ナルトキハ鎭守府司令長官ハ之ヲ除去若ハ破壞スルコトヲ得

第十七條　軍港要港境域內ノ山林原野ニ於テハ濫リニ焚火スヘカラス

第十八條　軍港要港境域內ニ於テ左ニ揭クル諸項ノ新營若ハ變更ヲナサントスルモノアルトキハ地方長官ハ鎭守府司令長官ニ協議シテ之ヲ處理スヘシ

一　棧橋ノ架設、埠頭ノ築造

二　河床ノ變更、河川海面ノ埋立浚渫、海岸ノ堀鑿、海岸ニ於ケル石垣ノ築造

三　道路運河溝渠隧道ノ開通、橋梁鐵道ノ架設、水底電線ノ敷設

四　地盤ノ開鑿及埋築

五　森林ノ伐採

六　軍港要港ノ水域內ニ發著スヘキ海運ノ營業

七　漁業權ノ設定

八　浮標、立標其ノ他航路標識ノ設置

九　第一區第二區ノ沿岸ニシテ水面若ハ海軍用地ヲ距ル七百五十間以內ニ於ケル家屋倉庫及諸般ノ築造物ノ新築

第十九條　鎭守府司令長官ノ許可ヲ得スシテ軍港要港境域內ヲ航空シ又ハ同境域內水陸ノ形狀ヲ測量、撮影、模寫錄取シ若ハ地理案內等ノ圖書ヲ發行スルヲ禁ス但シ艦船運航ノ際行船ニ必要ナル錘測ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條ノ二　鎭守府司令長官ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ軍港要港境域內ニ於テ無線電信無線電話ヲ發信スルコトヲ得ズ但シ艦船航行中ノ通信及遭難通信又ハ軍用通信ハ此ニハ鎭守府司令長官ノ協議シテ之ヲ處理スヘシ

ノ限ニ在ラズ

第二十條　鎭守府司令長官ハ軍港要港境域內ニ入リ兵備ノ狀況其ノ他地形等ヲ視察スル者ト認メタルトキハ之ニ軍港要港境域外ニ退去ヲ命スルコトヲ得

第二十一條　地方長官ハ軍港要港境域內衞生ノ事ニ關シテハ鎭守府司令長官ニ協議スヘシ

第二十二條　鎭守府司令長官ハ海軍用地ニ接近スル一般公路ニ於テ取締上必要ナリト認ムルトキハ地方長官ニ協議シ一般人民ノ通行ニ制限ヲ置クコトヲ得

鎭守府司令長官ハ海軍用地ノ內取締上差支ナシト認ムル區域ニ限リ一般人民ニ通行ヲ許スコトヲ得

第二十三條　軍港要港ノ境域竝其ノ區劃等ヲ表示スル標石標本標札ノ類若ハ其ノ水域內ニ設クル浮標等ヲ移轉シ又ハ之ヲ毀壞スルコトヲ禁ス

第二十四條　軍港要港ノ取締ニ關スル細則ハ鎭守府司令長官之ヲ定ム

第二十五條　要港（德山要港ヲ除ク）ニ於テハ本則ニ規定セル鎭守府司令長官ノ職務ハ要港部司令長官、港務部長ノ職務ハ要港部港務部長之ヲ行フ

附　則

第二十六條　本則中地方長官ニ關スル規定ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督ニ之ヲ適用ス

第二十七條　削除

第二十八條　本則ハ明治三十三年五月二十日ヨリ施行ス

第二十九條　明治二十九年海軍省令第六號橫須賀軍港規則同年海軍省令第七號吳軍港規則同年海軍省令第八號佐世保軍港規則同年海軍省令第十三號竹敷要港規則及同三十年海軍省令第十四號鎭海軍港規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

（別圖省略）

燈火管制規則

（昭和十三年四月內務、陸軍、海軍、遞信、鐵道省令第一號）

第一條　燈火管制ヲ實施シ又ハ其ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於テ防空法第八條及第十條第三項ノ規定ニ依ル光ノ秘匿ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　燈火管制ハ第四條ニ規定スル場合ヲ除クノ外警戒管制及空襲管制トス

警戒管制ハ警戒警報又ハ空襲警報解除ノ發セラレタル時ヨリ警戒警報解除又ハ空襲警報ノ發セラルル迄ノ間之ヲ行フ空襲管制ハ空襲警報ノ發セラレタル時ヨリ空襲警報解除ノ發セラルル迄ノ間之ヲ行フ

燈火管制ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於ケル前二項ノ防空警報ハ訓練防空警報トス

第三條　警戒管制又ハ空襲管制中ノ光ノ秘匿ハ日沒ヨリ日出迄ノ間第一號表乃至第七號表ニ揭グル程度ニ於テ之ヲ爲スベシ

第四條　第一號表ノ屋外燈（標識燈類、街路燈類及屋外作業燈類ヲ除ク）ニシテ地方長官ノ指定スルモノハ其ノ定ムル期間日沒ヨリ日出迄ノ間警戒度管制ノ程度ニ依リ其ノ光ヲ秘匿スベシ

地方長官前項ノ規定ニ依リ屋外燈ヲ指定シ又ハ其ノ光ヲ秘匿スベキ期間ヲ定メタルトキハ之ヲ告示スベシ

第五條　左ノ各號ニ揭グル光ニ付テハ本令ノ制限ヲ適用セズ

一　建築物、車輛、船舶、隧道、地下道等ノ內部ノ光ニシテ外部ニ漏レザルモノ

二　特別ノ事情ニ因リ必要アリト認メ地方長官ノ指揮スル光

第六條　左ニ揭グル場合ニ於テハ本令ノ規定ニ拘ラズ必要最小限度ノ光ヲ使用スルコトヲ得

一　消防、人命救助等ノ爲緊急ノ必要アルトキ

二　特別ノ必要ニ因リ警察署長ノ許可ヲ受ケタルトキ

第七條　第一號表乃至第七號表中警戒管制ノ甲ノ程度ヲ適用スベキ區域ハ防空法施行令第七條ノ陸海軍司令官（以下陸海軍司令官ト稱ス）ノ通知ニ依リ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ）之ヲ定メ其ノ他ノ區域ハ乙ノ程度ヲ適用スベキ區域トス

前項ノ規定ニ依リ難キ海上ノ區域ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

第八條　第一號表、第二號表、第四號表又ハ第五號表中ノ許可又ハ指定ハ地方長官之ヲ爲スモノトス

第九條　第一號表、第二號表、第四號表、第五號表及第七號表中隱蔽ト稱スルハ開口部其ノ他ニ覆ヲ施シ外部ニ對シ漏光ナカラシムルヲ謂フ

第一號表乃至第五號表中遮光ト稱スルハ光源ニ對シ直接覆ヲ施シ又ハ之ニ準ズル方法ヲ講ジ各表ニ揭グル條件ニ依リ光ヲ遮ルヲ謂フ

燈火管制規則

第四號表及第五號表中確認距離ト稱スルハ燈火ノ目的ニ應ジ實用ニ適スル程度ニ認識シ得ル最大限度ノ距離ヲ謂フ

第一號表、第三號表、第四號表、第五號表及第七號表中透視距離ト稱スルハ光源及其ノ反射光等一切ノ光ヲ認識シ得ル最大限度ノ距離ヲ謂フ

第十條 左ニ揭グル事項ニ關シテハ地方長官又ハ警察署長ハ陸海軍司令官ニ協議スベシ但シ豫メ陸海軍司令官ト協定シタル事項ニ關シテハ此ノ限ニ在ラズ

一 第一號表、第二號表、第四號表又ハ第五號表ニ依ル許可又ハ指定ヲ爲サントスルトキ

二 第四條第一項ノ規定ニ依リ屋外燈ヲ指定シ又ハ其ノ光ヲ秘匿スベキ期間ヲ定メントスルトキ

三 第五條第二號ノ規定ニ依リ光ヲ指定セントスルトキ

四 空襲管制ノ場合ニ於テ第六條第二號ノ規定ニ依リ許可ヲ爲サントスルトキ

附 則

本令ハ昭和十三年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

第五號表　船舶關係ノ光ノ秘匿ノ程度

種類		警戒管制 甲	警戒管制 乙	空襲管制	遮光條件
船燈類	海上衝突豫防法ニ規定スル船燈ニ註ル船舶ノ船燈ヲ含ム	海上衝突豫防法ノ規定ニ依ル最小限度ノ光力トシ且遮光スルコト但シ增揭燈ハ直ニ點出シ得ル準備ヲ爲シテ消燈シ保安上必要ナルトキニ限リ一時點出スルコト	海上衝突豫防法ノ規定ニ依ル最少限度ノ光力トシ且遮光スルコト但シ增揭燈ハ直ニ點出シ得ル準備ヲ爲シテ消燈シ保安上必要ナルトキニ限リ一時點出スルコト	消燈但シ直ニ點出シ得ル準備ヲ爲シ保安上必要ナルトキニ限リ一時點火スルコト	確認距離ノ所要ヲ充足スルヲ限度トシテ上空ニ對シ遮光スルコト
航路關係燈類	航路標識燈	減光且遮光確認距離一、〇〇〇米以下トスルコト	別ニ指示スル所ニ依ル		
	航路標識燈ニ類スル燈火	減光且遮光確認距離一、〇〇〇米以下トスルコト	減光且遮光確認距離一、〇〇〇米以下トスルコト	消燈隱蔽	甲ノ場合 上空ニ向ハザルコト 乙ノ場合 光源ヨリ直接發スル射光ガ可及的地表上三〇〇米ノ以上ノ何レノ點ヨリモ光源又ハ其ノ反射光等一切ノ光ヲ認メ得ザルコト
	橋梁表示燈	平常ノ儘			

船舶照明燈類			
船室内照明燈	一般船室外照明燈	起重機ヲ用フル荷役用船室外照明燈	埠頭上屋倉庫屋外燈其ノ他之ニ類スル燈火註側壁ナキ建物内ノ燈火ヲ含ム
消燈 隱蔽	消燈 但シ迅速ニ消燈シ得ル處置ヲ講ジタルモノハ許可ヲ受ケ被照面ニ於ケル最大照度ヲ〇・三「ルクス」以下ニ減光シ且遮光シテ殘置スルコトヲ得	消燈 隱蔽	消燈 隱蔽
減光且遮光 室ノ廣サ三平方米ニ付一〇燭光以内、一燈五〇燭光以下トスルコト	減光且遮光 甲板面一〇平方米ニ付三燭光以内一燈一六燭光以下トスルコト	減光且遮光 一箇所三燈以下トシ合計五〇燭光以下トスルコト	減光且遮光 面積一〇平方米ニ付三燭光以内、一燈一六燭光以下トスルコト
消燈 隱蔽 減光且遮光 室ノ廣サ三平方米ニ付一〇燭光以内、一燈二五燭光以下トスルコト	消燈 但シ迅速ニ消燈シ得ル處置ヲ講ジタルモノハ許可ヲ受ケ被照面ニ於ケル最大照度ヲ〇・三「ルクス」以下ニ減光シ且遮光シテ殘置スルコトヲ得	消燈 但シ船舶又ハ人命ノ危急ノ場合短時間ニ限リ使用スルコトヲ得	消燈 但シ誘導燈及特ニ指定シタルモノハ透視距離五〇米以下ニ減光シテ殘置スルコトヲ得
消燈 隱蔽 光源ヨリ直接發スル射光ガ開口部ニ向ハザルコト	消燈 光源ノ下端ヨリ遮光具ノ一端ニ引キタル線ガ光源ノ下方ニ向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ角ヲナスコト	消燈 光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端ニ引キタル線ガ光源ノ下方ニ向ヒ且水	平面ト二〇度以下ノ角ヲナスコト

埠頭燈類			埠頭標識燈類
埠頭起重機外燈	屋内各種表示燈	屋外各種表示燈誘導燈註側壁ナキ建物内ノ燈火ヲ含ム	棧橋突端標識燈 岩壁突端標識燈 波除堤突端標識燈 浮棧橋標識燈 繫船信號燈 稅關監所標識燈 其ノ他之ニ類スル燈火
減光且遮光 一箇所三燈以下トシ合計五〇燭光以下トスルコト	平常ノ儘	消燈 但シ誘導燈及特ニ指定シタルモノハ透視距離五〇米以下ニ減光シテ殘置スルコトヲ得	減光且遮光 一箇所一燈トシ五燭光以下トスルコト
シ且遮光シテ殘置スルコトヲ得	減光 透視距離三〇〇米以下トスルコト	消燈 但シ誘導燈及特ニ指定シタルモノハ透視距離三〇〇米以下ニ減光シテ殘置スルコトヲ得	減光且遮光 窓口一箇又ハ一改集札口ニ對シ一燈トシ一燭光以下トスルコト
	消燈 隱蔽	消燈 但シ誘導燈ニ限リ透視距離三〇〇米以下ニ減光シテ殘置スルコトヲ得	減光且遮光 確認距離五〇〇米以下トスルコト
平面ト二〇度以下ノ角ヲナスコト		光源ノ下端ヨリ遮光具ノ下端ニ引キタル線ガ光源ノ下方ニ向ヒ且水平面ト二〇度以上ノ角ヲナスコト	消燈 隱蔽
			乙ノ場合 光源ヨリ直接發スル射光ガ可及的上空ニ向ハザルコト 甲ノ場合 地表上三〇〇米以上ノ何レノ點ヨリモ光源又ハ其ノ反射光等一切ノ光ヲ認メ得ザルコト

備考　特別ノ事情ニ因リ必要アリト認メ別ニ告示スル場合ニ於テハ海上衝突豫防法ニ規定スル船燈ニ關シテハ警戒管制ノ場合及空襲管制ノ場合ヲ通ジ警戒管制ノ乙ノ程度ニ依ル

軍用資源祕密保護法

（昭和十四年三月法律第二十五號）

第一條 本法ハ國防目的達成ノ爲軍用ニ供スル（軍用ニ供スベキ場合ヲ含ム以下之ニ同ジ）人的及物的資源ニ關シ外國ニ祕匿スルコトヲ要スル事項ノ漏泄ヲ防止スルヲ以テ目的トス

第二條 陸軍大臣又ハ海軍大臣（官廳ノ管理ニ屬スルモノニ係ルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣）ハ左ニ掲グルモノニ就キ命令ヲ以テ軍用資源祕密ヲ指定ス但シ公示ヲ不適當トスルモノニ係ル指定ハ當該事項又ハ圖書物件ノ管理者又ハ之ニ準ズベキ者ニ對スル通知ヲ以テ之ヲ爲ス

一 全國（關東州及南洋群島ヲ含ム以下之ニ同ジ）又ハ一地方ニ於ケル軍用ニ供スル重要ナル物資ノ生產額、生產能力、生產能力判定資料タル設備ノ種類別數（之ヲ判定シ得ベキ比率ヲ含ム以下之ニ同ジ）及政府ノ決定シタル生產計畫竝ニ此等ヲ表示スル圖書物件

二 兵器ヲ生產スル工場事業場又ハ之ニ轉用スルコトヲ得ル工場事業場ノ當該事業場ノ生產額、生產能力、生產能力判定資料タル重要ナル設備ノ種類別數及其ノ設備ニ屬スル從業者ノ總數竝ニ政府ノ決定シタル生產計畫竝ニ此等ヲ表示スル圖書物件

三 兵器以外ノ軍用ニ供スル重要ナル物資ヲ生產スル工場事業場又ハ之ニ轉用スルコトヲ得ル工場事業場ノ當該物資ノ生產額、生產能力、生產能力判定資料タル重要ナル設備ノ種類別數及其ノ設備ニ屬スル從業者ノ總數又ハ種類別數竝ニ政府ノ決定シタル生產計畫竝ニ此等ヲ表示スル圖書物件

四 全國又ハ一地方ニ於ケル軍用ニ供スル重要ナル物資ノ貯藏額及貯藏設備ノ貯藏能力、此等ノ判定資料タル重要ナル貯藏設備ノ當該物資ノ貯藏額及貯藏能力、政府ノ決定シタル當該物資ノ貯藏計畫竝ニ此等ヲ表示スル圖書物件

五 政府ガ貯藏セシメタル軍用ニ供スル重要ナル物資ノ貯藏額、政府ガ當該物資ヲ貯藏セシメタル貯藏設備ノ貯藏能力、政府ノ決定シタル當該物資ノ貯藏命令等ニ係ル貯藏計畫竝ニ此等ヲ表示スル圖書物件

六 全國若ハ一地方又ハ重要ナル港灣ニ於ケル軍用ニ供スル重要ナル物資ノ輸入額及政府ノ決定シタル輸入計畫竝ニ此等ヲ表示スル圖書物件

七 全國又ハ一地方ニ於ケル軍用ニ供スル特殊技能者其ノ他ノ重要ナル人的資源ノ總數又ハ種類別數及此等ヲ表示スル圖書物件

八 全國又ハ一地方ニ於ケル軍用ニ供スル航空機、自動車又ハ馬ノ總數又ハ種類別數及此等ヲ表示スル圖書物件

九 軍用ニ供スル重要ナル鐵道ノ輸送能力及輸送能力判定資料タル輸送統計、此等ヲ表示スル圖書物件竝ニ軍用ニ供スル重要ナル鐵道ノ施設又ハ車輛ニ關スル重要ナル記錄圖表及其ノ內容

十 軍用ニ供スル重要ナル飛行場又ハ其ノ附屬設備ニ關スル重要ナル記錄圖表及其ノ內容

十一 軍用ニ供スル船舶ニ於ケル特殊設備ニ關スル重要ナル記錄圖表及其ノ內容

十二 軍用ニ供スル重要ナル通信連絡系統及其ノ通信能力、此等ヲ表示スル圖書物件竝ニ軍用ニ供スル重要ナル通信設備又ハ其ノ設備ノ通信能力若ハ連絡系統ニ關スル重要ナル記錄圖表及其ノ內容

十三 陸軍大臣若ハ海軍大臣ノ命令若ハ委囑ニ依ル重要ナル試驗研究又ハ軍事上祕匿ヲ要スル發明考案ニ關スル事項及圖書物件

十四 軍事上祕匿ヲ要スル氣象ニ關スル重要ナル事項及圖書物件

十五 特ニ祕匿ノ措置ヲ要スル第二號乃至第五號及第九號乃至第十二號ニ規定スル設備、第十三號ノ試驗研究ニ關スル設備竝ニ此等ノ機構及性能竝ニ此等ヲ表示スル圖書物件

第三條 軍用資源祕密トシテ祕匿スルノ要ナキニ至リタルモノニ付テハ其ノ指定ヲ解除ス

前條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル解除ノ場合ニ之ヲ準用ス

軍用資源祕密ニ關シ政府ノ公表シタルモノアルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ內容ト爲リタル部分ニ限リ其ノ指定ノ解除アリタルモノト看做ス

第四條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ軍用資源祕密ニ屬スル圖書物件ニ一定ノ標記ヲ附セシムルコトヲ得

第五條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ第二條第十五號ニ該當ス

ル軍用資源秘密ニ屬スル設備ヲ祕匿スル爲必要アルトキハ其ノ管理者又ハ之ニ準ズベキ者ニ對シ當該設備ノ遮蔽其ノ他之ヲ祕匿スルニ必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得

第六條 陸軍大臣又ハ海軍大臣（官廳ノ管理ニ屬スルモノニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣）ハ第二條第十五號ニ該當スル軍用資源秘密ニ屬スル設備ヲ祕匿スル爲必要アルトキハ命令ヲ以テ之ニ付立入又ハ測量、撮影、模寫、模造若ハ錄取又ハ其ノ複寫若ハ複製ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第七條 政府ハ軍用資源秘密ヲ祕匿スル爲特ニ必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ軍用資源秘密ヲ記載スル登記簿ノ閱覽又ハ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ制限スルコトヲ得

第八條 政府ハ第二條第二號又ハ第十五號ニ該當スル軍用資源秘密ヲ祕匿スル爲特ニ必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ法令ニ基ク出願、申請、報告、屆出等ヲ爲シ又ハ立入、檢查、質問等ヲ受クル場合ニ付軍用資源秘密ノ開示又ハ交付ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第九條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ第五條ノ規定ニ依ル命令ニ係ル事項ニ關シ當該設備ノ管理者又ハ之ニ準ズベキ者ニ對シ報告ヲ命ジ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ立入リ、檢查ヲ爲シ若ハ關係者ニ對シ質問ヲ爲サシムルコトヲ得

第十條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第五條ノ規定ニ依ル命令ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス

前項ノ規定ニ依ル補償金額ニ付不服アル者ハ其ノ補償金額ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月以內ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十一條 外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄シ又ハ公ニスル目的ヲ以テ軍用資源秘密ヲ探知シ又ハ收集シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第十二條 業務ニ因リ軍用資源秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄シ又ハ公ニシタルトキハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄シ又ハ公ニスル目的ヲ以テ軍用資源秘密ヲ探知シ又ハ收集シタル者之ヲ外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄シ又ハ公ニシタルトキ亦前項ニ同ジ

前二項ニ規定スル原由以外ノ原由ニ因リ軍用資源秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ外國若ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄シ又ハ公ニシタルトキハ十年以下ノ懲役ニ處

第十三條 業務ニ因リ軍用資源秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ外國人ニ漏泄シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ニ規定スル原由以外ノ原由ニ因リ軍用資源秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ外國人ニ漏泄シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 第二條第二號又ハ第十五號ニ該當スル軍用資源秘密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ他人ニ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 軍用資源秘密ヲ外國又ハ外國ノ爲ニ行動スル者ニ漏泄スル爲之ヲ探知シ、收集シ又ハ漏泄スルコトヲ目的トシテ團體ヲ組織シタル者又ハ其ノ團體ノ指導者タル任務ニ從事シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

情ヲ知ッテ前項ノ團體ニ加入シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第十六條 第六條ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 第五條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

軍用資源秘密保護法

第十八條 第七條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シタル者及第九條ノ規定ニ依ル立入若ハ檢查ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虛僞ノ報告ヲ爲シタル者亦前項ニ同ジ

第十九條 第十一條及第十二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十條 第十一條、第十五條又ハ前條ノ罪ヲ犯シタル者未ダ官ニ發覺セザル前自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕シ又ハ免除ス

第二十一條 第五條ノ規定ニ依リ祕匿ノ措置ヲ命ゼラレタル者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第十七條又ハ第十八條第二項ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十二條 第十七條及第十八條第二項ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條　本法ノ罰則ハ何人ヲ問ハズ本法施行地外ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ亦之ヲ適用ス

第二十四條　軍用資源祕密ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケタルトキハ之ヲ他人ニ開示シ若ハ交付シ又ハ公ニスルコトヲ妨ゲズ

第二十五條　軍用資源祕密ニシテ官廳ノ管理ニ屬スルモノニ係ル標記及祕匿ノ措置ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第二十六條　朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於テハ本法ニ規定スル主務大臣ノ職權ハ勅令ノ定ムル官廳之ヲ行フ

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

軍用資源祕密保護法施行令

（昭和十四年六月二十三日勅令第四百十三號）

第一條　陸軍大臣又ハ海軍大臣軍用資源祕密ノ指定ヲ爲サントスルトキハ關係各大臣（朝鮮總督、臺灣總督、滿洲國駐劄特命全權大使、樺太廳長官又ハ南洋廳長官ノ所管事項ニ關シテハ各朝鮮總督、臺灣總督、滿洲國駐劄特命全權大使、樺太廳長官又ハ南洋廳長官以下之ニ同ジ）ニ協議スベシ但シ軍用資源祕密保護法第二條第二號又ハ第十五號（同條第二號ノ設備ニ係ルモノニ限ル）ニ該當スルモノニ係ル同條但書ノ規定ニ依ル指定ヲ爲サントスル場合ニ於テ協議ヲ不適當トスル軍事上ノ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二條　官廳ノ管理ニ屬スルモノニ係ル軍用資源祕密ノ指定ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ト主務大臣（朝鮮總督、臺灣總督又ハ樺太廳長官ノ所管事項ニ關シテハ各朝鮮總督、臺灣總督又ハ樺太廳長官以下之ニ同ジ）トノ協議ニ基キ主務大臣之ヲ爲スベシ

第三條　陸軍大臣又ハ海軍大臣第一條本文ノ規定ニ依リ爲シタル軍用資源祕密保護法第二條但書ノ規定ニ依ル指定ヲ解除シタルトキハ其ノ旨關係各大臣ニ通知スベシ

第四條　第二條ノ規定ハ同條ノ規定ニ依リ爲シタル指定ノ解除ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五條　軍用資源祕密ニ關シ內閣總理大臣又ハ各省大臣（朝鮮總督、臺灣總督、滿洲國駐劄特命全權大使、樺太廳長官及南洋廳長官ヲ含ム以下之ニ同ジ）ガ其ノ官廳名ヲ以テ公表シタルモノアルトキハ其ノ內容ト爲リタル部分ニ限リ其ノ指定ノ解除アリタルモノト看做ス

前項ノ規定ニ依ル公表ヲ爲シタルトキハ軍用資源祕密保護法第二條但書ノ規定ニ依リ指定シタル軍用資源祕密ニ係ル場合ヲ除クノ外其ノ內容ト爲リタル軍用資源祕密ノ部分ハ直ニ之ヲ官報ニ告示スベシ

內閣總理大臣又ハ各省大臣第一項ノ規定ニ依ル公表ヲ爲サントスルトキハ當該軍用資源祕密ノ指定ヲ爲シタル陸軍大臣若ハ海軍大臣又ハ第二條ノ主務大臣ニ協議スベシ第二條ノ主務大臣前項ノ規定ニ依ル協議ニ應ゼントスルトキハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ協議スベシ

第六條　陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ其ノ定ムル所ニ依リ軍用資源祕密ニ屬スル圖書物件ノ保管者ヲシテ當該圖書物件ニ附圖ニ定ムル標記ヲ附セシムルコトヲ得

第七條　軍用資源祕密ニ屬スル圖書物件ニシテ官廳ノ保管ニ係ルモノニハ當該官廳ニ於テ前條ノ規定ニ基キテ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ定ムル所ニ準ジ同條ノ標記ヲ附スベシ

前項ノ規定ハ軍用資源祕密保護法施行地外ニ在ル官廳ニモ之ヲ適用ス

第八條　陸軍大臣又ハ海軍大臣軍用資源祕密ニ屬スル設備ノ遮蔽其ノ他之ヲ祕匿スルニ必要ナル措置ヲ命ゼントスルトキハ關係各大臣ニ協議スベシ

第一條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九條　軍用資源祕密ニ屬スル設備ニシテ官廳ノ管理ニ屬スルモノノ祕匿ノ措置ニ關シテハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ト主務大臣トノ協議ニ基キ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第十條　陸軍大臣又ハ海軍大臣軍用資源祕密保護法第六條ノ規定ニ依ル禁止若ハ制限ヲ爲スベキ設備ヲ定メ又ハ同條ノ命令ヲ發セントスルトキハ關係各大臣ニ協議スベシ第一條但書ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ設備ヲ定ムル場合ニ之ヲ準用ス

第十一條　官廳ノ管理ニ屬スルモノニ付軍用資源祕密保護法第六條ノ規定ニ依ル禁止若ハ制限ヲ爲スベキ設備ヲ定メ又ハ同條ノ命令ヲ發シ若ハ之ニ基ク處分ヲ爲スニ付テハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ト主務大臣トノ協議ニ基クベシ

第十二條　官廳ニ於テ軍用資源祕密保護法第六條ノ規定ニ基ク禁止又ハ制限ニ係ル行爲ヲ爲サントスルトキハ法令ニ基ク立入、檢查等ノ場合ヲ除クノ外當該禁止又ハ制限

ヲ爲シタル陸軍大臣若ハ海軍大臣又ハ前條ノ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ承認ヲ受クベシ

前條ノ主務大臣前項ノ規定ニ依ル規程ヲ定メ又ハ同項ノ承認ヲ爲サントスルトキハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ協議スベシ

第十三條 主務大臣ハ其ノ定ムル所ニ依リ軍用資源祕密ヲ記載スル工場財團登記簿ヲ閲覽シ又ハ其ノ謄本若ハ抄本ノ交付ヲ受ケントスル者ヲシテ其ノ許可ヲ受ケシムルコトヲ得

主務大臣前項ノ規定ニ依ル制限ヲ爲スベキ登記簿ヲ定メ又ハ同項ノ規定ニ依ル命令ヲ發シ若ハ同項ノ許可ヲ爲スニ付テハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ト主務大臣トノ協議ニ基クベシ

第十四條 第十二條ノ規定ハ官廳ニ於テ前條第一項ノ規定ニ依ル制限ニ係ル行爲ヲ爲サントスル場合ニ之ヲ準用ス

第十五條 陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ軍事上ノ機密保護ノ爲特ニ必要アルトキハ其ノ定ムル所ニ依リ軍用資源祕密保護法第二條第二號又ハ第十五號ニ該當スル軍用資源祕密ヲ他人ニ開示シ、交付シ若ハ第五條ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外公ニセントスルトキハ當該軍用資源祕密ノ指定ヲ爲シタル陸軍大臣若ハ海軍大臣又ハ第二條ノ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ承認ヲ受クベシ

第七條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二條ノ主務大臣前二項ノ規定ニ依ル規程ヲ定メ又ハ承認ヲ爲サントスルトキハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ協議スベシ

附　則

本令ハ軍用資源祕密保護法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

協議スベシ

第十八條 官廳ニ於テ軍用資源祕密保護法第二條第一號若ハ第三號乃至第十四號ニ該當スル軍用資源祕密ヲ外國、外國ノ爲ニ行動スル者若ハ外國人ニ開示シ、交付シ若ハ第五條ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外公ニシ又ハ同法第二條第二號若ハ第十五號ニ該當スル軍用資源祕密ヲ他人ニ開示シ、交付シ若ハ第五條ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外公ニセントスルトキハ當該軍用資源祕密ノ指定ヲ爲シタル陸軍大臣若ハ海軍大臣又ハ第二條ノ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ承認ヲ受クベシ

第七條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二條ノ主務大臣前二項ノ規定ニ依ル規程ヲ定メ又ハ承認ヲ爲サントスルトキハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ協議スベシ

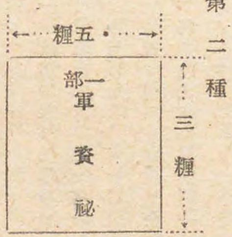
附　則

本令ハ軍用資源祕密保護法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附圖

第一種

第二種



第三種

大キサ適宜

備考

第一種及第二種ハ圖書ノ、第三種ハ物件ノ標記トシ軍用資源祕密保護法第二條第二號又ハ第十五條（同條第二號ニ係ルモノニ限ル）ニ該當スル軍用資源祕密ニ屬スル圖書物件ニ附スルモノハ赤色トシ其ノ他ノ軍用資源祕密ニ屬スル圖書物件ニ附スルモノハ紫色トス

軍用資源秘密保護法施行規則

（昭和十四年六月陸海軍省令第三號）

改正　昭和十五年十一月陸海軍省令第九號

第一條　本令ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ指定ニ係ル軍用資源秘密ノ保護ニ關スル事項及官廳以外ニ於ケル軍用資源秘密ノ標記ニ關スル事項ヲ規定スルモノトス

第二條　本令ニ於テ法トハ軍用資源秘密保護法ヲ、令トハ軍用資源秘密保護法施行令ヲ謂フ

第三條　法第二條ノ規定ニ依リ軍用資源秘密ヲ別表ノ如ク指定ス

第四條　法第二條但書ノ規定ニ依ル軍用資源秘密ノ指定ノ通知ハ書面ヲ以テ之ヲ爲ス

第五條　法第二條但書ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタル者ニ異動ヲ生ジタルトキハ承繼人ハ遲滯ナク被承繼人ノ氏名及異動ノ年月日ヲ書面ヲ以テ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ屆出ヅベシ

第六條　法第二條但書ノ規定ニ依リ通知ヲ以テ指定シタル軍用資源秘密ノ法第三條第二項ノ規定ニ依ル解除ノ通知ハ書面ヲ以テ之ヲ爲ス

第七條　軍用資源秘密ニ屬スル圖書物件ノ保管者ハ其ノ保管ニ係ル圖書物件ニ左ノ各號ニ依リ遲滯ナク標記ヲ附スベシ

一　法第二條第九號乃至第十二號ニ規定スル記錄圖表及同條十三號、第十四號ニ規定スル圖書竝ニ同條第一號乃至第九號、第十二號及第十五號ニ規定スル軍用資源秘密ニ屬スル事項ヲ全葉ニ表示スル圖書ニ付テハ表紙其ノ他之ニ令附圖第一種ノ標記ヲ押捺又ハ手書スルモノトス

二　法第二條第一號乃至第九號、第十二號及第十五號ニ規定ニ規定スル軍用資源秘密ニ屬スル事項ヲ一部ニ表示スル圖書ニ付テハ表紙ニ令附圖第二種ノ標記ヲ、事項ヲ表示スル各葉毎ニ令附圖第一種ノ標記ヲ押捺又ハ手書スルモノトス

三　物件ニ付テハ之ニ令附圖第三種ノ標記ヲ押捺若ハ手書シ又ハ同標記ヲ押捺若ハ手書シタル標札ヲ添附シ若ハ設置スルモノトス

前項ニ規定スル者法第二條但書ノ規定ニ依リ通知ヲ受ケタル者ナルトキハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ指定スル官憲（以下單ニ指定官憲ト稱ス）ノ指示ニ從フベシ

第八條　令附圖ニ定ムル標記ヲ附シタル軍用資源秘密ニ屬スル圖書物件ヲ保管スル者當該圖書物件ニ付軍用資源秘密ノ指定ノ解除アリタルトキハ遲滯ナク標記ヲ除去スベシ

前項ニ規定スル者法第二條但書ノ規定ニ依リ通知ヲ受ケタル者ナルトキハ指定官憲ノ指示ニ從フベシ

第九條　法第五條ノ規定ニ依ル軍用資源秘密ニ屬スル設備ノ遮蔽其ノ他之ヲ祕匿スルニ必要ナル措置ニ付テノ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ命令ハ第十條及第十一條ニ規定スルモノヲ除クノ外書面ヲ以テ之ヲ爲ス

第十條　法第五條ノ規定ニ依ル命令ヲ受ケタル者ハ遲滯ナク當該軍用資源秘密ニ屬スル設備ヲ有スル工場事業場其ノ他ノ設備ノ出入其ノ他祕匿ニ必要ナル取締ニ關スル規程ヲ作リ之ヲ指定官憲ヲ經テ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ提出シ其ノ認可ヲ受クベシ

第十一條　法第五條ノ規定ニ依ル命令ヲ受ケタル者ハ指定官憲ノ指示ニ從ヒ遲滯ナク當該設備ノ場所ニ附圖第一ニ定ムル標識ヲ設置スベシ

第十二條　法第五條ノ規定ニ依ル命令ヲ受ケタル者當該軍用資源秘密ニ屬スル設備又ハ當該工場事業場其ノ他ノ設備ニ屬スル事業ヲ讓渡シ、廢止シ又ハ休止セントスルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ屆出ヅベシ

第十三條　附圖第一ニ定ムル標識ヲ設置シタル設備ノ場所ニ付テハ法第六條ノ規定ニ依リ之ニ付立入又ハ測量、撮影、模寫、模造若ハ錄取又ハ其ノ複寫若ハ複製ヲ爲スコトヲ得ズ但シ陸軍大臣若ハ海軍大臣又ハ指定官憲ノ許可ヲ得タル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條　前條ニ規定スル行爲ノ許可ヲ受ケントスル者（陸軍大臣若ハ海軍大臣又ハ指定官憲ニ於テ別ニ許可シタル者ヲ除ク）ハ別記第一樣式ノ許可願書（三通）ヲ當該設備ノ管理者又ハ之ニ準ズベキ者ニ差出スベシ

前項ノ規定ニ依リ許可願書ヲ受ケタル者ハ指定官憲ニ送付スベシ

第十五條　令第十二條ノ規定ニ依リ陸海軍以外ノ官廳ニ於テ第十三條ニ規定スル行爲ノ承認ヲ受ケントスルトキハ別記第一樣式ノ許可願書ニ準ズル承認申請書（二通）ヲ

陸軍大臣若ハ海軍大臣又ハ指定官憲ニ提出スヘシ

第十六條　陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ指示スル法第二條第二號又ハ第十五號ニ該當スル軍用資源秘密ノ秘密程度高キモノノ開示又ハ交付ニ應ズルモノ

二　第二種　法第二條第二號又ハ第十五號ニ該當スル軍用資源秘密ノ秘密程度前號ニ次グモノノ開示又ハ交付ニ應ズモノ

三　第三種　法第二條第二號又ハ第十五號ニ該當スル軍用資源秘密ノ秘密程度前號ニ次グモノノ開示又ハ交付ニ應ズルモノ

第十八條　前條ニ規定スル證票ハ官吏又ハ吏員ニ對シテハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ト關係大臣（朝鮮總督、臺灣總督及樺太廳長官ヲ含ム以下之ニ同ジ）ト協議シ當該關係大臣ヲ經ラ之ヲ交付ス

官吏又ハ吏員以外ノ者前條ニ規定スル證票ノ交付ヲ受ケントスルトキハ其ノ業務ノ監督官廳ヲ經テ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ願出ヅベシ此ノ場合ニ於ケル證票ノ交付ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ト主務大臣（朝鮮總督、臺灣總督及樺太廳長官ヲ含ム）ト協議シ陸軍大臣又ハ海軍大臣之ヲ爲ス

第十九條　第九條ニ規定スル命令ヲ受ケタル者其ノ命ゼラレタル祕匿ノ措置ヲ爲シ終リタルトキハ遲滯ナク書面ヲ以テ其ノ旨ヲ指定官憲ヲ經テ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ報告スベシ

第二十條　法第九條ノ規定ニ依リ當該官吏立入、檢査又ハ質問ヲ爲ス場合ニ於テハ附圖第三ニ定ムル證票ヲ携帶スベシ

第二十一條　法第十條ノ規定ニ依ル補償ヲ請求セントスル者ハ補償請求書ニ損害算定書ヲ添附シ指定官憲ヲ經テ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ提出スベシ

第二十二條　陸軍大臣又ハ海軍大臣必要ト認ムルトキハ令第十六條第二項但書ノ規定ニ依ル別段ノ時期ヲ第九條ニ規定スル命令ヲ受ケタル者ニ通知ス

第二十三條　陸軍大臣又ハ海軍大臣補償金額ヲ決定シタルトキハ請求者ニ書面ヲ以テ之ヲ通知ス

第二十四條　法第二條第二號又ハ第十五號ニ該當スル軍用資源祕密ヲ開示、交付又ハ公ニスルコトノ許可ヲ受ケントスル當該管理者又ハ之ニ準ズベキ者ハ別記第二樣式ノ許可願書（三通）ヲ指定官憲ヲ經テ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ提出スベシ

第二十五條　前條ニ規定スル軍用資源祕密ニ付當該管理者又ハ之ニ準ズベキ者ハ陸海軍以外ノ官廳ノ求メアルトキ又ハ陸軍大臣若ハ海軍大臣ノ特ニ指定スル者ニ對シテハ前條ノ規定ニ拘ラズ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ指示スル所ニ依リ之ヲ開示シ又ハ交付スルコトヲ得

第二十六條　第二十四條ニ規定スル場合ヲ除クノ外軍用資源祕密ノ開示、交付又ハ公ニスルコトノ許可ヲ受ケントスル者ハ別記第二樣式ノ許可願書（三通）ヲ其ノ最寄ノ憲兵分隊長（憲兵分遣隊長ヲ含ム以下之ニ同ジ）又ハ警察署長（臺灣ニ在リテハ郡守又ハ支廳長ヲ含ム以下之ニ同ジ）ヲ經テ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ提出スベシ

第二十七條　令第十八條第一項ノ規定ニ依リ陸海軍以外ノ官廳ニ於テ軍用資源祕密ノ開示、交付又ハ公ニスルコトノ承認ヲ受ケントスルトキハ別記第二樣式ノ許可願書ニ準ズレ承認申請書（二通）ヲ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ提出スベシ

第二十八條　指定官憲第十四條、第十五條又ハ第二十四條ノ規定ニ依リ許可願書又ハ承認申請書ヲ受理シタルトキハ第三十條第二項又ハ第三十一條第二項ニ規定スル場合ヲ除クノ外之ニ意見ヲ附シ陸軍大臣若ハ海軍大臣又ハ上級指定官憲ニ提出スベシ

前項ノ場合ニ於テ指定官憲第十四條又ハ第二十四條ノ規定ニ依ル許可願書ニ關シ必要アルトキハ憲兵分隊長又ハ警察署長ノ意見ヲ求ムルコトヲ得

第二十九條 憲兵分隊長又ハ警察署長第二十六條ノ規定ニ依リ許可願書ヲ受理シタルトキハ内一通ハ之ヲ保管シ他ノ二通ハ意見ヲ附シ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ提出スベシ

第三十條 陸軍大臣又ハ海軍大臣第十四條、第二十四條又ハ第二十六條ノ規定ニ依ル許可ヲ爲シ又ハ條件ヲ附シテ許可ヲ爲シタルトキハ許可證ヲ交付ス

指定官憲第十四條ノ規定ニ依ル許可ヲ爲シ又ハ條件ヲ附シテ許可ヲ爲ストキ亦前項ニ同ジ

第三十一條 陸軍大臣又ハ海軍大臣第十五條又ハ第二十七條ノ規定ニ依ル承認ヲ爲シ又ハ條件ヲ附シテ承認ヲ爲シタルトキハ承認證ヲ交付ス

指定官憲第十五條ノ規定ニ依ル承認ヲ爲シ又ハ條件ヲ附シテ承認ヲ爲ストキ亦前項ニ同ジ

第三十二條 許可證又ハ承認證ハ第十三條ニ規定スル行爲ヲ爲ス者必ズ之ヲ携帶シ何時ニテモ指定官憲、憲兵、警察官吏又ハ當該設備ノ看守者ノ要求ニ應ジ閲覧ニ供スベシ

第三十三條 許可證又ハ承認證ヲ失ヒタル者ハ其ノ事由ヲ具シ陸軍大臣若ハ海軍大臣又ハ指定官憲ニ遅滞ナク届出デ必要ニ應ジ再下付ヲ申請スベシ此ノ場合ニ於テ未ダ再下付ヲ受ケザルトキト雖モ指定官憲又ハ最寄ノ憲兵分隊長若ハ警察署長ノ承認ヲ受ケタルトキハ當該行爲ヲ繼續スルコトヲ得

第三十四條 本令ニ規定スル指定官憲ニ付テハ陸軍大臣又ハ海軍大臣當該軍用資源秘密ノ管理者又ハ之ニ準ズベキ者ニ之ヲ通知ス

第三十五條 許可證ヲ所持スベキ者第三十二條ノ規定ニ依ル閲覧ヲ拒ミタルトキハ十圓以下ノ科料ニ處ス

第三十六條 第十三條ニ規定スル標識ヲ損壞シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ無效ナラシメタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別 表

一 法第二條第一號ニ關スルモノ

イ 全國又ハ一地方（内地ニ於ケル道府縣、朝鮮ニ於ケル道、臺灣、樺太、關東州及此等以上ノ區域、稅關管轄區域竝ニ東京市、横濱市、名古屋市、大阪市、神戸市及此等ノ二以上ノ區域ヲ謂フ以下之ニ同ジ）ニ於ケル左ニ揭グル物資ノ昭和十三年一月以降ニ於ケル生産額及生産能力竝ニ昭和十三年一月以降ニ於テ閣議又ハ主務大臣決定ノ生産力擴充ノ計畫中ノ生産額及生産能力竝ニ此等ヲ表示スル圖書物件

アルミニウム
マグネシウム
ニツケル、フエロニツケル
水銀
タングステン礦、フエロタングステン
モリブデン礦、フエロモリブデン
マンガン礦、フエロマンガン
フエロクロム
コバルト
フエロワナヂウム
アルミニウム合金
航空揮發油、航空潤滑油
ベンゾール、石炭酸、トルオール
貨物自動車

軍用資源秘密保護法施行規則

ロ 全國又ハ内地、朝鮮若ハ關東州ニ於ケル蒸氣機關車ノ昭和十三年一月以降ニ於ケル生産額及生産能力竝ニ昭和十三年一月以降ニ於テ閣議又ハ主務大臣決定ノ生産力擴充ノ計畫中ノ生産額及生産能力竝ニ此等ヲ表示スル圖書物件

航空機又ハ其ノ機體、發若ハプロペラ

ハ 全國又ハ一地方ニ於ケル左ニ揭グル各種ノ設備ノ昭和十三年一月以降ニ於ケル種類別數及之ヲ表示スル圖書物件

アルミニウム又ハマグネシウム用電解爐、整流器
アルミニウム合金用壓延機、押出機
ベンゾール及トルオールノ分溜裝置
彈丸搾出機

二 法第二條第二號ニ關スルモノ

兵器ヲ生産スル工場（關東州ニ在ルモノヲ含ム）ニ於ケル昭和十三年一月以降ニ於ケル左ニ揭グル陸海軍用又ハ陸軍用若ハ海軍用ノ兵器ノ生産額及生産能力竝ニ此等ヲ表示スル圖書物件

銃、砲、砲架、砲塔
藥莢、火管

火藥

戰車、裝甲車、裝軌牽引車

艦船、機關（罐管、復水器管ヲ含ム）

航空機又ハ其ノ機體、發動機若ハプロペラ

魚雷、魚雷發射機、機雷、機雷敷設裝置

掃海具、爆雷、爆雷投射機、防潛網

測遠機（測距儀）、照準眼鏡

航空用寫眞機

無線電信機、無線電話機

探照燈、聽音機

鐵帽、防毒面、防毒被服

射出機、落下傘

三　法第二條第三號ニ關スルモノ

左ニ揭グル物資ヲ生產スル工場（關東州ニ在ルモノヲ含ム）ニ於ケル當該物資ノ昭和十三年一月以降ニ於ケル生產額及生產能力竝ニ昭和十三年一月以降ニ於テ閣議又ハ主務大臣決定ノ生產力擴充ノ計畫ニ基ク生產額及生產能力竝ニ此等ヲ表示スル圖書物件

アルミニウム（屑ヨリ生產スルモノヲ除ク）

マグネシウム

ニツケル、フエロニツケル

水銀

フエロタングステン

フエロモリブデン

フエロマンガン

フエロクロム

コバルト

フエロワナヂウム

アルミニウム合金（鑄造品ヲ除ク）

航空揮發油、航空潤滑油

トルオール、純ベンゾール、ヂニトロクロールベンゾール

貨物自動車

航空機又ハ其ノ機體、發動機若ハプロペラ

一米〇六七以上ノ軌間ニ使用スル蒸氣機關車

四　法第二條第四號ニ關スルモノ

全國又ハ一地方ニ於ケル航空揮發油、重油又ハ原油ノ昭和十三年一月以降ニ於ケル貯藏額及之ヲ貯藏スルタンクノ貯藏能力竝ニ此等ヲ表示スル圖書物件

五　法第二條第六號ニ關スルモノ

イ　全國又ハ內地、朝鮮、臺灣若ハ關東州ニ於ケル左ニ揭グル物資ノ昭和十三年一月以降ニ於ケル輸入額及昭和十三年一月以降ニ於テ閣議又ハ主務大臣決定ノ物資動員ノ計畫中ノ輸入計畫竝ニ此等ヲ表示スル圖書物件

ボーキサイト、アルミニウム

マグネシウム

ニツケル礦

水銀

タングステン礦

マンガン礦

酸化コバルト

ワナヂウム礦、酸化ワナヂウム

ロ　左ニ揭グル港灣ニ於ケル前號ノ物資ノ昭和十三年一月以降ニ於ケル輸入額及之ヲ表示スル圖書物件

室蘭港　橫濱港　名古屋港　伏木港　大阪港

神戶港　今治港　門司港　若松港　仁川港

基隆港　高雄港　大連港

六　法第二條第七號ニ關スルモノ

全國又ハ一地方ニ於ケル左ニ揭グル各種特殊技能者ノ昭和十三年一月以降ニ於ケル總數又ハ種類別數及此等ヲ表示スル圖書物件

機關士、機關助士

航空機乘員

航空士、操縱士、機關士

無線通信有技者

七　法第二條第八號ニ關スルモノ

イ　全國又ハ一地方ニ於ケル左ニ揭グル各種ノモノノ昭和十三年一月以降ニ於ケル總數及之ヲ表示スル圖書物件

航空機

貨物自動車

乘合自動車

ロ　全國又ハ一地方（內地ニ於ケル道府縣、朝鮮ニ於ケル道、臺灣、樺太及此等以上ノ區域ヲ謂フ）ニ於ケル左ニ揭グル各種馬ノ昭和十三年一月以降ニ於ケル總數及之ヲ表示スル圖書物件

壯齡馬（明ケ四歲以上明ケ十七歲迄ノ馬ヲ謂フ）

八　法第二條第九號ニ關スルモノ

樺太鐵道株式會社ニ屬スル鐵道ノ輸送能力

別記
第一樣式

立入（測量、撮影、模寫、複寫、複製、模造）許可願

本籍（外國人ニ在リテハ國籍）
住所
職業

昭和　年　月　日

陸軍（海軍）大臣（指定官憲）殿

左記ノ通立入（測量、撮影、模寫、複寫、複製、模造、）致度ニ付許可相成度候也

氏名　印
年齡

左記

一　目的
二　工場、事業場其ノ他ノ設備ノ所在地及名稱
三　區域（圖書物件）
四　日時（期間）
五　方法
六　使用器具類ノ名稱

七　作業者ノ住所、氏名及年齡
八　作業ノ場所
九　成果物ノ員數及其ノ用途
十　其ノ他參考ト爲ルベキ事項

注意

一　用紙　日本標準規格B列四番
二　目的　工場建直シノ爲等ト記載スルモノトス
三　工場、事業場其ノ他ノ設備ノ所在地及名稱何縣何郡何村何番地何工場等ト記載スルモノトス
四　區域（圖書物件）　區域ハ工場內ノ設備ノ名稱等ヲ、圖書物件ハ撮影、模寫、複寫等ヲ爲スベキ圖書物件ノ名稱ヲ記載スルモノトス
五　日時（期間）　何年何月何日午前何時又ハ何年何月何日ヨリ同月何日迄等ト記載スルモノトス
六　方法　平面測量、油繪等ト記載スルモノトス
七　使用器具類ノ名稱　何測量器、何寫眞機等ト記載スルモノトス
八　作業者ノ住所、氏名及年齡　現ニ作業ニ從事セシムル者ノ住所、氏名及年齡ヲ記載スルモノトス
九　作業ノ場所　何縣何郡何村何番地等ト測量圖書ノ作成、現像、燒付等ノ作業ヲ行フ場所ヲ記載スルモノトス
十　成果物ノ員數及其ノ用途　測量ノ成果、寫眞原畫、複寫圖書等何部、何枚等及工場建直シノ爲等ト記載スルモノトス

第二樣式

軍用資源秘密ノ開示（交付、公ニスルコトノ）許可願

本籍
住所
職業
氏名
年齢

昭和　年　月　日

陸軍（海軍）大臣　殿

左記ノ通軍用資源秘密ヲ開示（交付、公ニ）致度ニ付許可相成度候也

記

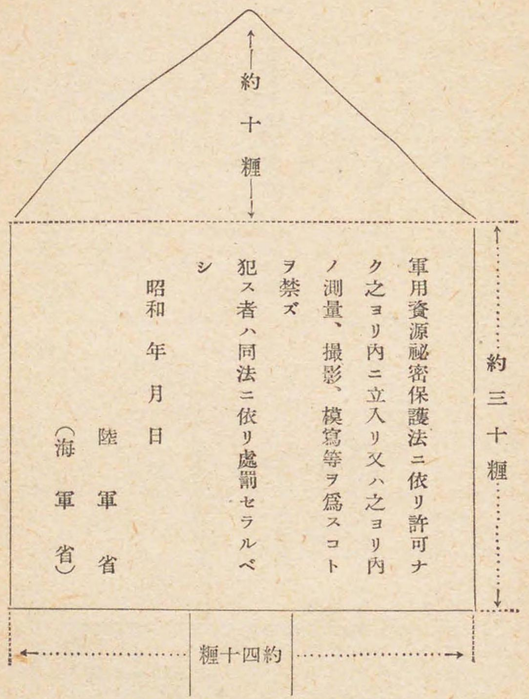
左

一　目的
二　事項（圖書物件）
三　圖書物件ノ員數
四　日時
五　方法
六　相手方ノ住所、職業及氏名
七　其ノ他參考ト爲ルベキ事項

注意

一　用紙　日本標準規格B列四番
二　目的　商取引、同業者ノ會合ニ於ケル講演等ト記載スルモノトス
三　方法　何某ノ閲覽ニ供ス、何某ニ對シ郵便ニテ送付等ト記載スルモノトス
四　相手方ノ住所（外國人ニ在リテハ國籍共）職業及氏名（法人其ノ他ノ團體ニ在リテハ代表者ノ住所、職業及氏名、相手方ノ住所（外國人アルトキハ其ノ國籍、住所、職業及氏名）ヲ記載スルモノトス

附圖第一



軍用資源祕密保護法ニ依リ許可ナクシテ之ヲ內ニ立入リ又ハ之ヲ內ノ測量、撮影、模寫等ヲ爲スコトヲ禁ズ

犯ス者ハ同法ニ依リ處罰セラルベシ

昭和　年　月　日

陸軍省
（海軍省）

附圖第二

（日本標準規格B列八番）

表面

第　號　昭和　年　月　日交付

陸軍省印

（海軍省印）

軍用資源秘密保護法施行令
第十五條ノ證票

官職（職業）　氏名

第一種　地色　赤色
第二種　地色　薄紫色
第三種　地色　青色

裏面

軍用資源秘密保護法施行令摘要

第十五條第二項　當該官吏又ハ吏員前項ノ制限ニ係ル軍用資源秘密ニ付法令ニ基ク立入、檢査、質問等ヲ爲サントスルトキハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ證票ヲ携帶スベシ

附圖第三

（日本標準規格B列八番）

表面

第　號　昭和　年　月　日交付

陸軍省印

（海軍省印）

軍用資源秘密保護法施行規則
第二十條ノ證票

官職　氏名

裏面

軍用資源秘密保護法施行規則摘要

第二十條　法第九條ノ規定ニ依リ當該官吏立入檢査又ハ質問ヲ爲ス場合ニ於テハ附圖第三ニ定ムル證票ヲ携帶スベシ

軍用資源秘密保護法摘要

第九條　陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ第五條ノ規定ニ依ル命令ニ係ル事項ニ關シ當該設備ノ管理者又ハ之ニ準ズベキ者ニ對シ報告ヲ命ジ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ立入、檢査ヲ爲シ若ハ關係者ニ對シ質問ヲ爲サシムルコトヲ得

第十八條　第七條ノ規定ニ依ル制限ニ違反シタル者及第九條ノ規定ニ依ル立入若ハ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虚僞ノ報告ヲ爲シタル者亦前項ニ同ジ

國防保安法

（昭和十六年三月法律第四十九號）

第一章　罪

第一條　本法ニ於テ國家機密トハ國防上外國ニ對シ秘匿スルコトヲ要スル外交、財政、經濟其ノ他ニ關スル重要ナル國務ニ係ル事項ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノ及之ヲ表示スル圖書物件ヲ謂フ

一　御前會議、樞密院會議、閣議又ハ之ニ準ズベキ會議ニ付セラレタル事項及其ノ會議ノ議事

二　帝國議會ノ祕密會議ニ付セラレタル事項及其ノ會議ノ議事

三　前二號ノ會議ニ付スル爲準備シタル事項其ノ他行政各部ノ重要ナル機密事項

第二條　本章ノ罰則ハ何人ヲ問ハズ本法施行地外ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付亦之ヲ適用ス

第三條　業務ニ因リ國家機密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ外國（外國ノ爲ニ行動スル者及外國人ヲ含ム以下之ニ同ジ）ニ漏泄シ又ハ公ニシタルトキハ死刑又ハ無期若ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第四條　外國ニ漏泄シ又ハ公ニスル目的ヲ以テ國家機密ヲ探知シ又ハ收集シタル者ハ一年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ目的ヲ以テ國家機密ヲ探知シ又ハ收集シタル者之ヲ外國ニ漏泄シ又ハ公ニシタルトキハ死刑又ハ無期若ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第五條　前二條ニ規定スル原由以外ノ原由ニ因リ國家機密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ外國ニ漏泄シ又ハ公ニシタルトキハ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス

第六條　業務ニ因リ國家機密ヲ知得シ又ハ領有シタル者之ヲ他人ニ漏泄シタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條　業務ニ因リ國家機密ヲ知得シ又ハ領有シタル者過失ニ因リ之ヲ外國ニ漏泄シ又ハ公ニシタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條　國防上ノ利益ヲ害スベキ用途ニ供スル目的ヲ以テ又ハ其ノ用途ニ供セラルル虞アルコトヲ知リテ外國ニ通報スル目的ヲ以テ外交、財政、經濟其ノ他ニ關スル情報ヲ探知シ又ハ收集シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第九條　外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ治安ヲ害スベキ事項ヲ流布シタル者ハ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス

第十條　外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ金融界ノ攪亂、重要物資ノ生產又ハ配給ノ阻害其ノ他ノ方法ニ依リ國民經濟ノ運行ヲ著シク阻害スル虞アル行爲ヲ爲シタル者ハ無期又ハ一年以上ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ十萬圓以下ノ罰金ヲ併科スルコトヲ得

第十一條　第三條乃至第五條、第八條、第九條及前條第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十二條　第三條乃至第五條、第九條又ハ第十條第一項ノ罪ヲ犯スコトヲ敎唆シタル者ハ被敎唆者其ノ實行ヲ爲スニ至ラザルトキハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第三條乃至第五條、第九條又ハ第十條第一項ノ罪ヲ犯サシムル爲他人ヲ誘惑シ又ハ煽動シタル者ノ罰亦前項ニ同ジ

第八條ノ罪ヲ犯スコトヲ敎唆シタル者ハ被敎唆者其ノ實行ヲ爲スニ至ラザルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第十三條　第三條乃至第五條、第九條又ハ第十條第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第八條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第十四條　第四條第一項、第八條、第十一條乃至前條ノ罪ヲ犯シタル者未ダ官ニ發覺セザル前自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕シ又ハ免除スルコトヲ得

第十五條　本章ニ規定スル犯罪行爲ヲ組成シタル物、其ノ犯罪行爲ニ供シ若ハ供セントシタル物又ハ其ノ犯罪行爲ヨリ生ジ若ハ之ニ因リ得タル物ハ其ノ物犯人以外ノ者ニ屬セザルトキニ限リ之ヲ沒收ス裁判ニ依リ沒收スル場合ヲ除クノ外何人ノ所有タルヲ問ハズ檢事之ヲ沒取スルコトヲ得

前項ノ犯罪行爲ノ報酬トシテ得タル物及同項ニ揭グル物ノ對價トシテ得タル物ハ其ノ物犯人以外ノ者ニ屬セザルトキニ限リ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコトヲ能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第二章　刑事手續

第十六條　本章ノ規定ハ左ニ揭グル罪ニ關スル事件ニ付之ヲ適用ス

一　第三條乃至第十三條ノ罪

二　軍機保護法第二條乃至第七條及此等ニ關スル第十五條乃至第十七條、軍用資源秘密保護法第十一條乃至第十五條、第十九條、刑法第二編第三章、陸軍刑法第二十七條乃至第二十九條及此等ニ關スル第三十一條、第三十二條、第三十四條、海軍刑法第二十二條乃至第二十四條及此等ニ關スル第二十六條、第二十七條、第二十九條竝ニ國家總動員法第四十四條ノ罪

本章ノ規定ハ外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ犯シタル左ニ揭グル罪ニ關スル事件ニ付亦之ヲ適用ス

軍機保護法（前項第二號ニ揭グル罪ヲ除ク）、軍用資源秘密保護法（前項第二號ニ揭グル罪ヲ除ク）、要塞地帶法、陸軍輸送港域軍事取締法、明治二十三年法律第八十三號（軍港要港規則違犯者處分ノ件）、軍用電氣通信法、國境取締法、刑法第二編第一章、第二章、第四章、第八章乃至第十一章、第十五章乃至第十八章、第二十六章、第二十七章及第四十章、朝鮮刑事令第三條、陸軍刑法第二編第一章（前項第二號ニ揭グル罪ヲ除ク）、第八章及第九十九條、海軍刑法第二編第一章（前項第二號ニ揭グル罪ヲ除ク）、第八章及第百條、治安維持法、大正十五年法律第六十號（暴力行爲等處罰ニ關スル法律）、爆發物取締罰則、匪徒刑罰令（明治三十一年律令第二十四號）、不穩文書臨時取締法、通貨及證券模造取締法、通貨及證券模造取締規則（明治三十六年律令第十四號）、明治三十八年法律第六十六號（外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券證券僞造變造及模造ニ關スル法律）、治安警察法、大正八年制令第七號（政治ニ關スル犯罪處罰ノ件）、外國爲替管理法、關稅法、昭和十二年法律第九十二號（輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關スル法律）、船舶法、航空法、電信法、無線電信法竝ニ國家總動員法（前項第二號ニ揭グル罪ヲ除ク）ノ罪

第十七條　檢事ハ被疑者ヲ召喚シ又ハ其ノ召喚ヲ司法警察官ニ命令スルコトヲ得檢事ノ命令ニ因リ司法警察官ノ發スル召喚狀ニハ命令ヲ爲シタル檢事ノ職、氏名及其ノ命令ニ因リ之ヲ發スル旨ヲモ記載スベシ

召喚狀ノ送達ニ關スル裁判所書記及執達吏ニ屬スル職務ハ司法警察官吏之ヲ行フコトヲ得

第十八條　被疑者正當ノ事由ナクシテ前條ノ規定ニ依ル召喚ニ應ゼズ又ハ刑事訴訟法第八十七條第一項各號ニ規定スル事由アルトキハ檢事ハ被疑者ヲ勾引シ又ハ其ノ勾引ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得前條第二項ノ規定ハ檢事ノ命令ニ因リ司法警察官ノ發スル勾引狀ニ付之ヲ準用ス

第十九條　勾引シタル被疑者ハ指定セラレタル場所ニ引致シタル時ヨリ四十八時間內ニ檢事又ハ司法警察官之ヲ訊問スベシ其ノ時間內ニ勾留狀ヲ發セザルトキハ檢事ハ被疑者ヲ釋放シ又ハ司法警察官ヲシテ之ヲ釋放セシムベシ

第二十條　刑事訴訟法第八十七條第一項各號ニ規定スル事由アルトキハ檢事ハ被疑者ヲ勾留シ又ハ其ノ勾留ヲ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

第十七條第二項ノ規定ハ檢事ノ命令ニ因リ司法警察官ノ發スル勾留狀ニ付之ヲ準用ス

第二十一條　勾留ニ付テハ警察官署又ハ憲兵隊ノ留置場ヲ以テ監獄ニ代用スルコトヲ得

第二十二條　勾留ノ期間ハ二月トス特ニ繼續ノ必要アルトキハ區裁判所檢事ハ檢事正ノ許可、地方裁判所檢事ハ檢事長ノ許可ヲ受ケ一月毎ニ之ヲ更新スルコトヲ得但シ通ジテ四月ヲ超ユルコトヲ得ズ

治安維持法ノ罪ニ付特ニ繼續ノ必要アルトキハ檢事長ノ許可ヲ受ケ一月毎ニ勾留ノ期間ヲ更新スルコトヲ得但シ通ジテ一年ヲ超ユルコトヲ得ズ

檢事總長又ハ其ノ指揮ヲ受ケタル檢事刑法第七十三條、第七十五條又ハ第七十七條乃至第七十九條ノ罪ノ搜查ノ爲特ニ繼續ノ必要アルトキハ一月毎ニ勾留ノ期間ヲ更新スルコトヲ得但シ通ジテ六月ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二十三條　勾留ノ事由消滅シ其ノ他勾留ヲ繼續スルノ必要ナシト思料スルトキハ檢事ハ速ニ被疑者ヲ釋放シ又ハ司法警察官ヲシテ之ヲ釋放セシムベシ

第二十四條　檢事ハ被疑者ノ住居ヲ制限シテ勾留ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

刑事訴訟法第百十九條第一項ニ規定スル事由アル場合ニ於テハ檢事ハ勾留ノ執行停止ヲ取消スコトヲ得

第二十五條　檢事ハ被疑者ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

檢事ハ公訴提起前ニ限リ證人ヲ訊問シ又ハ其ノ訊問ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

司法警察官檢事ノ命令ニ因リ被疑者又ハ證人ヲ訊問シタルトキハ命令ヲ爲シタル檢事ノ職、氏名及其ノ命令ニ因リ訊問シタル旨ヲ訊問調書ニ記載スベシ

第十七條第二項及第三項ノ規定ハ證人訊問ニ付之ヲ準用ス

第二十六條　檢事ハ公訴提起前ニ限リ押收、捜索若ハ檢證ヲ爲シ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

檢事ハ公訴提起前ニ限リ鑑定、通譯若ハ翻譯ヲ命ジ又ハ其ノ處分ヲ他ノ檢事ニ囑託シ若ハ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

前條第三項ノ規定ハ押收、捜索又ハ檢證ノ調書及鑑定人通事又ハ翻譯人ノ訊問調書ニ付之ヲ準用ス

第十七條第二項及第三項ノ規定ハ鑑定、通譯及翻譯ニ付之ヲ準用ス

第二十七條　刑事訴訟法中被告人ノ召喚、勾引及勾留、被告人及證人ノ訊問、押收、捜索、檢證、鑑定、通譯竝ニ翻譯ニ關スル規定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外被疑事件ニ付之ヲ準用ス但シ保釋及責付ニ關スル規定ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十八條　外國船舶又ハ外國航空機法律又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シ當該禁止又ハ制限ニ係ル區域ニ侵入シタル場合ニ於テ檢事檢事捜査ノ爲必要アルトキハ其ノ船舶若ハ航空機ニ對シ指定ノ場所ニ廻航スベキコトヲ命ジ若ハ之ヲ抑留シ又ハ其ノ船舶若ハ航空機ノ長、乘組員及乘客ニ對シ指定ノ場所ニ滯留スベキコトヲ命ズルコトヲ得

檢事ハ前項ノ規定ニ依ル處分ヲ司法警察官ニ命令スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ第十六條ニ規定スル罪以外ノ罪ニ關スル事件ニ付亦之ヲ適用ス

第二十九條　辯護人ハ司法大臣ノ豫メ指定シタル辯護士ノ中ヨリ之ヲ選任スベシ但シ刑事訴訟法第四十條第二項ノ規定ノ適用ヲ妨ゲズ

第三十條　辯護人ノ數ハ被告人一人ニ付二人ヲ超ユルコトヲ得ズ

辯護人ノ選任ハ最初ニ定メタル公判期日ニ係ル召喚狀ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ十日ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ但シ已ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於テ裁判所ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三十一條　辯護人ハ審判ヲ公開シタル公判廷ニ於テ口頭辯論ヲ爲ス場合ニハ國家機密、軍事上ノ祕密軍用資源祕密又ハ官廳指定ノ總動員業務ニ關スル官廳ノ機密ヲ陳述スルコトヲ得ズ此ノ場合ニ於テ辯護人ハ其ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ陳述ニ代フルコトヲ得

第三十二條　辯護人ハ訴訟ニ關スル書類ノ謄寫ヲ爲サントスルトキハ裁判長又ハ豫審判事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

辯護人ノ訴訟ニ關スル書類ノ閲覽ハ裁判長又ハ豫審判事ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ爲スベシ

第三十三條　第十六條第一項ニ揭グル罪又ハ外國ト通謀シ若ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ同條第二項ニ揭グル罪ヲ犯シタルモノト認メタル第一審ノ判決ニ對シテハ控訴ヲ爲スコトヲ得ズ

前項ニ規定スル第一審ノ判決ニ對シテハ直接上告ヲ爲スコトヲ得

上告ハ刑事訴訟法ニ於テ第二審ノ判決ニ對シ上告ヲ爲スコトヲ得ル理由アル場合ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

上告裁判所ハ第二審ノ判決ニ對スル上告事件ニ關スル手續ニ依リ裁判ヲ爲スベシ

第三十四條　裁判所ハ外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ第十六條第二項ニ揭グル罪ヲ犯シタルモノト認メタルトキハ其ノ旨ヲ判決ニ摘示スベシ

前項ノ摘示ヲ爲シタル第一審判決ニ對シ上告アリタル場合ニ於テ上告裁判所外國ト通謀シ又ハ外國ニ利益ヲ與フル目的ヲ以テ犯シタルモノニ非ザルコトヲ疑フニ足ルベキ顯著ナル事由アルモノト認ムルトキハ判決ヲ以テ原判決ヲ破毀シ事件ヲ管轄控訴裁判所ニ移送スベシ

第十六條ニ揭グル罪ヲ犯シタルモノト認メタル第一審判決ニ對シ上告アリタル場合ニ於テ上告裁判所同條ニ揭グル罪ヲ犯シタルモノニ非ザルコトヲ疑フニ足ルベキ顯著ナル事由アルモノト認ムルトキ亦前項ニ同ジ

訴ヲ爲スコトヲ得ズ

第三十五條　上告裁判所ハ公判期日ノ通知ニ付テハ刑事訴訟法第四百二十二條第一項ノ期間ニ依ラザルコトヲ得

第三十六條　裁判所ハ本章ノ規定ノ適用ヲ受クル罪ニ關スル訴訟ニ付テハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラズ速ニ其ノ裁判ヲ爲スベシ

第三十七條　第十六條ニ規定スル罪ニ該ル事件（陪審法第四條ニ規定スルモノヲ除ク）ハ之ヲ陪審ノ評議ニ付セズ

第三十八條　刑事手續ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外一般ノ規定ノ適用アルモノトス

第三十九條　本章ノ規定ハ第二十一條、第二十二條、第二十八條、第二十九條、第三十條第一項、第三十三條、第三十四條及第三十七條ノ規定ヲ除クノ外軍法會議ノ刑事手續ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テ刑事訴訟法第八十七條第一項トアルハ陸軍軍法會議法第百四十三條又ハ海軍軍法會議法第百四十三條、刑事訴訟法第四百二十二條第一項トアルハ陸軍軍法會議法第四百四十四條第一項又ハ海軍軍法會議法第四百四十六條第一項トシ第二十四條第二項中刑事訴訟法第百十九條第一項ニ規定スル事由アル場合ニ於テハトアルハ何時ニテモトス

第四十條　朝鮮及臺灣ニ在リテハ本章ニ揭グル法律ハ制令又ハ律令ニ於テ依ル場合ヲ含ム

朝鮮ニ在リテハ第二十二條第三項中刑法第七十三條、第七十五條又ハ第七十七條乃至第七十九條トアルハ刑法第七十三條、第七十五條若ハ第七十七條乃至第七十九條又ハ朝鮮刑事令第三條トシ第三十五條中刑事訴訟法第四百二十二條第一項トアルハ朝鮮刑事令第三十一條トス

朝鮮ニ在リテハ本章中司法大臣トアルハ朝鮮總督、檢事總長トアルハ高等法院檢事長、檢事長又ハ檢事正トアルハ覆審法院檢事長、地方裁判所檢事又ハ區裁判所檢事トアルハ地方法院檢事トス

臺灣ニ在リテハ本章中司法大臣トアルハ臺灣總督、檢事總長又ハ檢事長トアルハ高等法院檢察官長、檢事正トアルハ地方法院檢察官長、地方裁判所檢事又ハ區裁判所檢事トアルハ地方法院檢察官又ハ地方法院支部檢察官、檢事トアルハ檢察官、豫審判事トアルハ豫審判官トス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ハ內地、朝鮮、臺灣及樺太ニ之ヲ施行ス

第二章ノ規定ハ本法施行前公訴ヲ提起シタル事件ニ付テハ之ヲ適用セズ

本法施行前朝鮮刑事令第十二條乃至第十五條ノ規定ニ依リ爲シタル搜查手續ハ本法施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

前項ノ搜查手續ニシテ本法ニ之ニ相當スル規定アルモノハ之ヲ本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

臨時資金調整法

（昭和十二年九月法律第八十六號）

改正　昭和十六年三月法律第十八號

第一條　本法ハ支那事變ニ關聯シ物資及資金ノ需給ノ適合ニ資スル爲國內資金ノ使用ヲ調整スルヲ目的トス

第二條　銀行、信託會社、保險會社、產業組合中央金庫、商工組合金庫及北海道府縣ヲ區域トスル信用組合聯合會（以下金融機關ト總稱ス）ハ事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張若ハ改良ニ關スル資金ノ貸付ヲ爲シ又ハ有價證券ノ應募引受若ハ募集ノ取扱ヲ爲サストスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ許可ヲ受クベシ金融機關ニ非ズシテ有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ヲ業トスル者（以下證券引受業者ト稱ス）有價證券ノ應募、引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲サントスルトキ亦同ジ

第三條　金融機關又ハ證券引受業者前條ノ貸付又ハ有價證券ノ應募、引受若ハ募集ノ取扱ニ關シ本法ノ目的ニ從ヒ政府ノ適當ト認ムル方法ニ依リ自治的ニ調整ヲ爲スモノナルトキハ之ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ヲ適用セザルコトヲ得

第四條　命令ノ定ムル會社ノ設立ハ政府ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ會社ノ資本增加、合併又ハ目的ノ變更ニシテ命令ノ定ムルモノニ付亦同ジ

命令ノ定ムル會社左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ政府ノ許可ヲ受クベシ

一　第二回以後ノ株金ノ拂込ヲ爲サシメントスルトキ

二　他人ヲシテ引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲サシメズシテ社債ヲ募集セントスルトキ

第四條ノ二　命令ノ定ムル限度ヲ超ユル事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲サントスル者ハ之ニ付政府ノ許可ヲ受クベシ但シ命令ノ定ムル者及左ノ各號ノ一ニ該當スル資金ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一　金融機關ヨリノ借入金

二　他人ヲシテ引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲サシメタル社債ノ收入金

三　本法ニ依リ設立又ハ資本增加ニ付認可ヲ受ケタル場合ノ會社ノ第一回拂込株金又ハ出資金

四　本法ニ依リ拂込又ハ募集ニ付許可又ハ認可ヲ受ケタル場合ノ會社ノ拂込株金又ハ社債收入金

第五條　政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ第二條、第四條又ハ前條ノ許可又ハ認可ニ關スル事務ヲ日本銀行ヲシテ取扱ハシム

前項ノ事務ノ取扱ニ要スル經費ハ日本銀行ノ負擔トス

第一項ノ場合ニ於テ當該事務ニ從事スル日本銀行職員ハ之ヲ法令ニ依リ公務ニ從事スル職員ト看做ス

第六條　日本興業銀行ハ二十億圓ヲ限リ日本興業銀行法第十二條ノ規定ニ依ル制限ヲ超エテ債券ヲ發行スル事ヲ得

日本興業銀行ハ其ノ債券借換ノ爲債券ヲ發行スル場合ニ於テハ前項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

日本興業銀行法第十六條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

政府ハ日本興業銀行ノ發行スル債券ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ額面金額二十億圓ヲ限リ其ノ元本ノ償還及利息ノ支拂ヲ保證スルコトヲ得

第七條　金資金ハ金資金特別會計法第四條ノ規定ニ依ルノ外之ヲ興業債券ニ運用スルコトヲ得

第八條　命令ノ定ムル時局ニ緊要ナル事業ヲ營ム會社ハ事業擴張ノ場合ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲株金金額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ增加スルコトヲ得

第九條　命令ノ定ムル時局ニ緊要ナル事業ヲ營ム會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲商法ニ規定スル制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得但シ社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ズ

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財產ガ拂込ミタル株金額ニ滿タザルトキハ前項ノ規定ヲ適用セズ

第一項ノ規定ニ依リ募集スル社債ニ付テハ擔保附社債信託法ニ依ル物上擔保ヲ附スルコトヲ要ス

第十條　政府ハ第八條ノ規定ニ依リ資本ヲ增加シタル會社又ハ前條ノ規定ニ依リ社債ヲ募集シタル會社ニ對シ其ノ業務及會計ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條　資金使用ノ調整ニ關シ重要ナル事項ヲ調査審議スル爲臨時資金調整委員會ヲ置ク

臨時資金調整委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條　第二條、第四條、第四條ノ二、第八條又ハ第九條第一項ノ規定ニ依ル許可又ハ認可ニ關スル處分ニシテ事案ノ重要ナルモノニ付テハ臨時資金審查委員會ノ議ヲ

經ベシ

臨時資金審査委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 政府ハ日本勸業銀行ヲシテ收入金十億圓ニ達スル迄貯蓄債券ヲ發行セシムルコトヲ得

貯蓄債券ハ無記名トシ券面金額ヲ二十圓以下トス

第十四條 貯蓄債券ハ發行ノ翌年ヨリ三十五年內ニ每年二回以上抽籤ヲ以テ之ヲ償還スベシ

貯蓄債券ヲ償還スル場合ニハ賣出價格ノ三百倍以內ノ割增金ヲ附與スルコトヲ得其ノ方法及金額ハ主務大臣之ヲ定ム

前項ノ割增金ハ主務大臣ノ定ムル價格ニ依リ國債證券ヲ以テ交付スルコトヲ得

第十四條ノ二 政府ハ日本勸業銀行ヲシテ收入金五億圓ニ達スル迄報國債券ヲ發行セシムルコトヲ得

報國債券ハ無記名トシ券面金額ヲ十圓以下トス

第十四條ノ三 報國債券ハ無利子トシ券面金額ヲ以テ之ヲ賣出スモノトス

第十四條ノ四 報國債券ハ發行ノ翌年ヨリ十年內ニ之ヲ償還スベシ

報國債券ニハ每年一回以上抽籤ヲ以テ割增金ヲ附スルコトヲ得其ノ方法及金額ハ主務大臣之ヲ定ム

第十四條第三項ノ規定ハ報國債券ニ之ヲ準用ス

第十四條ノ五 報國債券ノ所有者ガ長期ニ亙リ郵便官署又ハ日本勸業銀行ニ其ノ債券ノ保管ヲ委託シタル場合ニ於テハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ當該債券ニ割增金ヲ附スルコトヲ得

第十五條 復興貯蓄債券法第三條ノ規定ハ貯蓄債券ニ、同法第六條、第七條第一項及第八條竝ニ日本勸業銀行法第三十五條ノ二、第三十五條ノ三、第四十條及第四十二條ノ規定ハ貯蓄債券及報國債券ニ之ヲ準用ス

商法第二百九十六條乃至第二百九十八條ノ規定ハ貯蓄債券及報國債券ニハ之ヲ適用セズ

第十六條 政府ハ資金ノ狀況ヲ調査スル爲必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ノ各號ニ揭グル事項ニ關シ關係者ヨリ報告ヲ徵シ又ハ帳簿其ノ他ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

一 資金ノ需給及移動ニ關スル事項

二 有價證券ニ關スル事項

三 國際收支ニ關スル事項

四 事業ノ資金計畫ニ關スル事項

五 事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ關スル事項

第十六條ノ二 政府ハ第四條ノ二ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ又ハ第四條、第四條ノ二、第八條若ハ第九條ノ規定ニ依ル認可若ハ許可ニ附シタル條件ニ違反シテ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ中止ヲ命ズルコトヲ得

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ資金ノ貸付ヲ爲シ又ハ有價證券ノ應募、引受若ハ募集ノ取扱ヲ爲シタル者

二 第四條第二項ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ株金拂込ノ催告又ハ社債ノ募集ヲ爲シタル者

三 第四條ノ二ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケズシテ又ハ第四條、第四條ノ二、第八條若ハ第九條ノ規定ニ依ル認可若ハ許可ニ附シタル條件ニ違反シテ事業設備ノ新設擴張又ハ改良ヲ爲シタル者

第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十條ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者

二 第十六條ノ規定ニ違反シ報告ヲ爲サズ、虛僞ノ報告ヲ爲シ又ハ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者

三 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ政府ニ提出スベキ許可又ハ認可ノ申請書其ノ他ノ書類ニ虛僞ノ記載ヲ爲シタル者

第十九條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ前二條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦前二條ノ罰金刑ヲ科ス

第二十條 當該官吏、委員若ハ第五條第三項ニ規定スル日本銀行職員又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ニ依ル職務執行ニ關シ知得タル法人又ハ人ノ業務上ノ祕密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 本法ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ施行スル場合ニ於テ必要アルトキハ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

附 則

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ハ第十四條及第十四條ノ三乃至第十五條ヲ除キ支那事變終了後一年內ニ之ヲ廢止スルモノトス

附　則（昭和十四年四月二十二日法律第八十六號）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和十五年三月三十日法律第七十號）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和十六年三月法律第十八號）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臨時資金調整法施行令

（昭和十二年九月勅令第五百二十七號）

改正　昭和十四年四月二十二日勅令第二百二十四號

第一條　臨時資金調整法第二條ノ規定ヲ受クル金融機關事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルト認ムル一口五萬圓以上ノ資金ノ貸付ヲ爲サントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ貸付總額五萬圓以上ニ及ブベキ數口ニ亙ル資金ノ貸付ヲ爲サントスルトキ亦同ジ

前項ニ五萬圓以上トアルハ左ニ揭グル事業設備ニシテ主務大臣ノ定ムルモノノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルト認ムル資金ノ貸付ニ付テハ三萬圓以上トス

一　化粧品、化粧用具、喫煙用具、身邊用細貨類、毛皮製品、羽毛製品若ハ羽毛ヲ用ヒタル製品、皮革製品、玩具、室內遊戲具、樂器、樂器部分品若ハ附屬品、室內裝飾用品、照明器具、家具、致醉飲料、淸凉飲料、調味料、菓子又ハ飴ノ製造用ノ設備

二　映畫製作用ノ設備

三　物品販賣用ノ設備

四　理容店用、浴場用、旅館用、料理店用又ハ貸席用ノ設備

五　興行用ノ設備

六　社交用、娛樂用又ハ遊興用ノ設備

第二條　臨時資金調整法第二條ノ規定ノ適用ヲ受クル金融機關又ハ證券引受業者額面總額五萬圓以上ノ有價證券（國債、地方債及臨時資金調整法施行地內ニ本店ヲ有スル會社ノ株式ヲ除ク以下同ジ）ノ應募、引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲サントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

第三條　前二條ノ規定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ適用セズ

一　行政官廳ノ認可又ハ許可ヲ受ケ借入ルル資金ノ貸付

ヲ爲ストキ

二　行政官廳ノ認可又ハ許可ヲ受ケ發行スル有價證券ノ應募、引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲ストキ

三　臨時資金調整法以外ノ法令ニ依リ行政官廳ノ認可又ハ許可ヲ受ケ有價證券ノ應募、引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲スストキ

行政官廳前項ノ認可又ハ許可ヲ爲サントスルトキハ其ノ事項ノ主務大臣ニ協議スベシ

第四條　臨時資金調整法第四條第一項ノ規定ニ依リ設立ニ付主務大臣ノ認可ヲ要スル會社ハ資本金（出資總額、株金總額、出資總額及株金總額ノ合計額又ハ基本總額ヲ謂フ以下同ジ）二十萬圓以上ノ會社トス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

一　特別ノ法令ニ依リ設立セラルル會社

二　臨時資金調整法以外ノ法令ニ依リ設立ニ付行政官廳ノ認可、許可又ハ免許ヲ受クベキ會社

三　目的トスル事業ノ全部ニ付行政官廳ノ許可又ハ免許ヲ受クベキ會社

行政官廳前項第二號又ハ第三號ニ揭グル會社ニ付認可、許可又ハ免許ヲ爲サントスルトキハ其ノ事項ノ主務大臣ハ前項ノ主務大臣ニ協議スベシ

第五條　臨時資金調整法第四條第一項ノ規定ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ要スル會社ノ資本增加、合併又ハ目的變更ハ左ニ揭グルモノトス但シ行政官廳ノ認可、許可若ハ免許ヲ受ケタルモノ又ハ行政官廳ノ命令ニ依リ爲スモノハ此ノ限ニ在ラズ

一　資本金二十萬圓以上ノ會社ノ資本增加、合併又ハ目的變更

二　資本增加又ハ合併ニ因リ資本金二十萬圓以上ノ會社ト爲ルベキ場合ニ於ケル資本增加又ハ合併

行政官廳前項但書ノ認可、許可、免許又ハ命令ヲ爲サントスルトキハ其ノ事項ノ主務大臣ハ前項ノ主務大臣ニ協議スベシ

第六條　臨時資金調整法第四條第二項ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クベキ會社ハ資本金二十萬圓以上ノ會社トス但シ同項ニ揭グル事項ニ付行政官廳ノ認可、許可若ハ免許ヲ受ケタルモノ又ハ行政官廳ノ命令ニ依リ當該事項ヲ爲スモノハ此ノ限ニ在ラズ

行政官廳前項但書ノ認可、許可、免許又ハ命令ヲ爲サントスルトキハ其ノ事項ノ主務大臣ハ前項ノ主務大臣ニ協

議スベシ

第六條ノ二　臨時資金調整法第四條ノ二ノ規定ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クベキ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ限度ハ五萬圓トス但シ第一條第二項ニ揭グル事業設備ニシテ主務大臣ノ定ムルモノニ付テハ其ノ限度ヲ三萬圓トス

第六條ノ三　臨時資金調整法第四條ノ二但書ノ規定ニ依リ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スニ付許可ヲ受クルコトヲ要セザル者ハ左ノ各號ニ揭グル者トス

一　北海道、府縣、府縣組合、市町村、市町村組合、町村組合、市町村內ノ區、市町村學校組合、町村學校組合及學區

二　當該事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ付行政官廳ノ認可、許可若ハ免許ヲ受ケタル者又ハ行政官廳ノ命令ニ依リ當該事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲ス者

三　第四條第一項各號ノ一ニ該當スル會社又ハ第五條第一項但書ニ該當スル資本增加ヲ爲シタル會社ニシテ第一回拂込株金又ハ出資金ニ依リ當該事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スモノ

四　第六條第一項但書ニ該當スル會社ニシテ第二回以後

ノ拂込株金又ハ社債收入金ニ依リ當該事業設備ノ新設擴張又ハ改良ヲ爲スモノ

行政官廳前項第二號ノ認可、許可、免許又ハ命令ヲ爲サントスルトキハ其ノ事項ノ主務大臣ハ大藏大臣及商工大臣ニ協議スベシ

第七條　臨時資金調整法第二條、第四條又ハ第四條ノ二ノ許可又ハ認可ニ關スル事務ヲ日本銀行ヲシテ取扱ハシムルニ付必要ナル事項ハ大藏大臣商工大臣及農林大臣ニ協議シテ之ヲ定ム

第八條　臨時資金調整法第六條ノ規定ニ依ル保證ヲ爲スニ付必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第九條　左ニ揭グル事業ヲ營ム會社ハ大藏大臣及商工大臣ノ認可ヲ受ケ臨時資金調整法第八條又ハ第九條ノ規定ニ依リ株金全額拂込前ト雖モ資本ヲ增加シ又ハ商法第二百條ノ規定ニ依ル制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得

一　航空機製造事業

二　金屬工機械製造事業

三　兵器及兵器部分品製造事業

四　鋼船製造事業

五　製鐵事業

六　產金事業

七　石炭鑛業

八石油鑛業、石油精製業及石油輸入業

第十條　臨時資金調整法第十六條ノ規定ニ依リ檢查ヲ爲ス場合ニ於テハ當該官吏ハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶スベシ

第十一條　第一條及第二條ニ於テ主務大臣トアルハ銀行、信託會社及證券引受業者ニ付テハ大藏大臣、保險會社ニ付テハ商工大臣、商工組合中央金庫ニ付テハ大藏大臣及商工大臣、產業組合中央金庫及北海道府縣ヲ區域トスル信用組合聯合會ニ付テハ大藏大臣及農林大臣トシ第四條第一項、第五條第一項及第六條第一項ニ於テ主務大臣トアルハ大藏大臣及商工大臣トシ第六條ノ二ニ於テ主務大臣トアルハ大藏大臣、農林大臣及商工大臣トス

大藏大臣、銀行、信託會社又ハ證券引受業者ニ對シ第一條又ハ第二條ノ許可ヲ爲サントスルトキハ商工大臣ニ、商工大臣保險會社ニ對シ第一條又ハ第二條ノ許可ヲ爲サントスルトキハ大藏大臣ニ協議スベシ

附　則

本令ハ昭和十二年九月二十七日ヨリ之ヲ施行ス

臨時資金調整法施行細則

附　則（昭和十三年八月十五日勅令第五百九十號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和十四年四月二十二日勅令第二百二十四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臨時資金調整法施行細則

（昭和十二年九月大藏、農林、商工省令）

改正　昭和十四年四月大藏、農林、商工省令

第一條　臨時資金調整法第二條ノ規定ニ依リ同法第二條ノ規定ヲ適用セザル金融機關又ハ證券引受業者ハ主務大臣之ヲ定ム

主務大臣特ニ必要アリト認ルトキハ前項ノ金融機關又ハ證券引受業者ニ對シ事項ヲ指定シ臨時資金調整法第二條ノ許可ヲ受クベキコトヲ命ズルコトアルベシ

第二條　金融機關臨時資金調整法施行令第一條ノ規定ニ依リ貸付ニ付許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ揭グル事項ヲ

記載シタル許可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ、主務大臣ニ提出スベシ

一　申請者ノ住所及商號又ハ名稱
二　借主ノ住所及氏名、商號又ハ名稱
三　貸付ノ種類、時期及金額（數口ニ亙ルトキハ貸付總額竝ニ各口ノ貸付ノ種類、時期及金額）
四　貸付ノ利率、償還期限其ノ他ノ條件
五　借主ガ貸付金ヲ使用シテ爲ス事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法

前項ノ許可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　借主ノ事業ノ大要ヲ知ルニ足ル書類
二　借主ガ會社ナルトキハ最終ノ貸借對照表及損益計算書

第三條　金融機關又ハ證券引受業者臨時資金調整法施行令第二條ノ規定ニ依リ有價證券ノ應募ニ付許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

一　申請者ノ住所及商號又ハ名稱
二　有價證券發行者ノ住所及商號又ハ名稱
三　應募スル有價證券ノ種類、數量及價額

前項ノ許可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　有價證券發行者ノ事業ノ大要ヲ知ルニ足ル書類
二　社債申込證又ハ之ニ準ズベキモノノ雛形及募集趣意書

第四條　金融機關又ハ證券引受業者臨時資金調整法施行令第二條ノ規定ニ依リ有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ニ付許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

一　申請者ノ住所及商號又ハ名稱
二　有價證券發行者ノ住所及商號又ハ名稱
三　引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲ス有價證券ノ種類、數量及價額
四　引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル條件
五　有價證券ノ發行ノ時期、總額及條件
六　有價證券ノ發行ニ依リ調達セラルル資金ノ使途
七　資金ガ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルモノナルトキハ之ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法

前項ノ許可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　有價證券發行者ノ事業ノ大要ヲ知ルニ足ル書類
二　有價證券發行者ノ最終ノ貸借對照表及損益計算書
三　社債申込證又ハ之ニ準ズベキモノノ雛形及募集趣意書

第五條　臨時資金調整法施行令第四條ノ會社ノ設立ニ付認可ヲ受ケントスルトキハ發起人又ハ社員タルベキ者ハ定款ヲ作成シタル後左ニ揭グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

一　申請者ノ住所及氏名
二　會社ノ住所、商號又ハ名稱及資本金額
三　會社ノ日的タル事業ノ大要
四　會社ノ設立ヲ必要トスル事由
五　會社ノ事業設備ノ計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法
六　第一回ノ拂込ノ時期及金額

前項ノ認可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　資本增加ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本
二　定款竝ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書

創立總會ノ終結ガ會社設立ノ認可ノ日ヨリ六月以上ヲ經過シタル後ナルトキハ發起人ハ創立總會ノ終結後更メテ前二項ノ規定ニ準ジ認可申請書ヲ提出スベシ

第六條　臨時資金調整法施行令第五條ノ資本增加ニ付認可ヲ受ケントスル會社ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

一　會社ノ住所及商號又ハ名稱
二　會社ノ現在ノ資本金額
三　資本增加ノ金額竝ニ第一回ノ拂込ノ時期及金額
四　資本增加ノ方法
五　資本增加ヲ必要トスル事由
六　資本增加ニ依リ調達スル資金ノ使途
七　資本ガ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルモノナルトキハ之ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法

三　資本增加ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書
新株ノ募集ニ關スル事項ノ報告ヲ爲スベキ株主總會ノ終結ガ資本增加ノ認可ノ日ヨリ六月以上ヲ經過シタル後ナルトキハ會社ハ其ノ株主總會ノ終結後更メテ前二項ノ規定ニ準ジ認可申請書ヲ提出スベシ

第七條　臨時資金調整法施行令第五條ノ合併ニ付認可ヲ受ケントスル會社ハ連名ニテ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

一　合併スル會社ノ住所及商號又ハ名稱
二　合併スル會社ノ目的竝ニ資本金額及拂込資本金額
三　合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リ設立スル會社ノ住所及商號又ハ名稱
四　合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リ設立スル會社ノ目的竝ニ資本金額及拂込資本金額
五　合併ノ時期及方法
六　合併ヲ必要トスル事由
七　合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リ設立スル會社ノ事業ノ大要

前項ノ認可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　合併ニ附スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本
二　合併契約書ノ謄本
三　合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リ設立スル會社ノ定款竝ニ事業計畫明細書及事業收支目論見書
四　合併スル會社ノ定款竝ニ最終ノ貸借對照表損益計算書

第五條第三項ノ規定ハ合併ニ因リ會社ヲ設立スル場合ニ之ヲ準用ス

第八條　臨時資金調整法施行令第五條ノ目的變更ニ付認可ヲ受ケントスル會社ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

一　會社ノ住所及商號又ハ名稱
二　會社ノ資本金額及拂込資本金額
三　會社ノ現在ノ目的及變更後ノ目的
四　目的變更ヲ必要トスル事由
五　目的變更後ニ於ケル會社ノ事業ノ大要

前項ノ認可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　目的變更ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本

二　定款竝ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書
三　目的變更ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書

第九條　臨時資金調整法施行令第六條ノ會社第二回以後ノ株金ノ拂込ノ催告ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

一　會社ノ住所及商號又ハ名稱
二　會社ノ資本金額及拂込資本金額
三　株金ノ拂込ノ時期及金額
四　株金ノ拂入ヲ爲サシムルヲ必要トスル事由
五　株金ノ拂込ニ依リ調達スル資金ノ使途
六　資金ガ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルモノナルトキハ之ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法

前項ノ許可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　社債ノ募集ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本
二　社債申込證案及募集趣意書案
三　定款竝ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書
四　社債ノ募集ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書

第十條　臨時資金調整法施行令第六條ノ二ノ規定ニ依リ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スニ付許可ヲ受ケントスルトキハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

一　會社ノ住所及商號又ハ名稱
二　會社ノ資本金額及拂込資本金額
三　社債ノ發行ノ時期、總額及條件
四　社債ノ募集ヲ必要トスル事由
五　社債ノ募集ニ依リ調達スル資金ノ使途
六　資金ガ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルモノナルトキハ之ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法

前項ノ許可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　社債ノ募集ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本
二　社債申込證案及募集趣意書案
三　定款竝ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書
四　社債ノ募集ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書

臨時資金調整法施行細則

トスル者ハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル許可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

一　申請者ノ住所及氏名、商號又ハ名稱

二　會社ニ在リテハ其ノ資本金額及拂込資本金額

三　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法

四　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ必要トスル理由

前項ノ許可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　會社ニ在リテハ定款竝ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書、會社以外ノ法人ニ在リテハ定款、寄附行爲又ハ之ニ準ズベキモノ竝ニ事業及資產負債ノ概要ヲ知ルニ足ル書類、個人ニ在リテハ現ニ營ム事業ノ概要ヲ知ルニ足ル書類（人格ナキ團體ノ爲ニスルモノナルトキハ其ノ團體ノ規約竝ニ事業及資產負債ノ概要ヲ知ルニ足ル書類）

二　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書

相互會社以外ノ會社ニシテ資本金二十萬圓未滿ノモノ、會社以外ノ法人若ハ個人ノ事業設備ノ新設、擴張若ハ改良又ハ相互會社以外ノ會社ニシテ資本金二十萬圓以上ノモノ若ハ相互會社ノ臨時資金調整法施行令第一條第二項ニ揭グル五萬圓以下ノ事業設備ノ新設、擴張若ハ改良ニシテ昭和十四年勅令第二百二十四號施行ノ際現ニ其ノ新設、擴張又ハ改良ニ著手セルモノニ付テハ同令ノ施行後一月內ニ當該新設、擴張又ハ改良ガ完了スル見込ナキ場合ニ限リ前二項ノ規定ニ依リ許可申請書ヲ提出スベキモノトス

第十二條　臨時資金調整法施行令第九條ニ揭グル事業ヲ營ム會社株金全額拂込前ノ資本增加ヲ爲サントスルトキハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

一　會社ノ住所及商號又ハ名稱

二　會社ノ現在ノ資本金額及拂込資本金額

三　資本增加ノ金額竝ニ第一回ノ拂込ノ時期及金額

四　資本增加ノ方法

五　株金全額拂込前ノ資本增加ヲ必要トスル事由

六　資本增加ニ依リ調達スル資金ヲ使用シテ爲ス事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法

前項ノ認可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　資本增加ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本

二　會社ノ資本金額及拂込資本金額ニ關スル登記簿ノ抄本

三　定款竝ニ最終ノ貸借對照表及損益計算書

四　資本增加ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書

第六條第三項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三條　臨時資金調整法施行令第九條ニ揭グル事業ヲ營ム會社商法ニ規定スル制限ヲ超エテ社債ヲ募集セントスルトキハ左ニ揭グル事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

一　會社ノ住所及商號又ハ名稱

二　會社ノ資本金額及拂込資本金額

三　社債ノ發行ノ時期、總額及條件

四　商法ニ規定スル制限ヲ超ユル社債ノ募集ヲ必要トスル事由

五　社債ノ募集ニ依リ調達スル資金ヲ使用シテ爲ス事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要竝ニ資金ノ調達方法

前項ノ場合ニ於テハ擔保附社債信託法ニ依リ社債ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スルモノナルトキハ認可申請書ニ前項各號ニ揭グル事項ノ外左ニ揭グル事項ヲ記載スベシ

一　社債ノ外總額ヲ數回ニ分チ發行スル旨ノ表示

二　社債ノ利率ノ最高限度

第一項ノ認可申請書ニハ左ニ揭グル書類ヲ添附スベシ

一　社債ノ募集ニ關スル株主總會ノ決議錄又ハ之ニ準ズベキモノノ謄本

二　會社ノ資本金額及拂込資本金額ニ關スル登記簿ノ抄本

三　前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘザル總額ニ關スル登記簿ノ抄本

四　信託證書案

五　社債ニ附スル擔保物件ノ目錄

六　前號ノ擔保物件ノ帳簿價格ヲ最終ノ財產目錄ノ科目別ニ記載シタル書類

七　定款竝ニ最終ノ貸借照表及損益計算書

八　社債ノ募集ニ伴フ事業計畫明細書及事業收支目論見書

第十四條　金融機關又ハ證券引受業者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ都度報告書ヲ日本銀行ノ本店又ハ

臨時資金調整法施行細則

支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ

一　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルト認ムル一口五萬圓以上ノ資金ノ貸付ヲ爲シタルトキ

二　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルト認ムル貸付總額五萬圓以上ニ及ブベキ數口ニ亙ル資金ノ貸付ヲ爲シタルトキ

三　額面總額五萬圓以上ノ有價證券（國債、地方債及臨時資金調整法施行地內ニ本店ヲ有スル會社ノ株式ヲ除ク以下同ジ）ノ應募ヲ爲シ其ノ割當ヲ受ケタルトキ

四　額面總額五萬圓以上ノ有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル契約ヲ締結シタルトキ

第十五條　金融機關又ハ證券引受業者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ一月分ヲ取纏メ翌月十日迄ニ報告書ヲ日本銀行ノ本店又ハ支店ヲ經テ主務大臣ニ提出スベシ但シ前條ノ規定ニ依リ報告ヲ爲スベキモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルト認ムル一口三萬圓以上ノ資金ノ貸付ヲ爲シタルトキ

二　事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラルルト認ムル貸付總額三萬圓以上ニ及ブベキ數口ニ亙ル資金ノ貸付ヲ爲シタルトキ

三　額面總額三萬圓以上ノ有價證券ノ應募ヲ爲シ其ノ割當ヲ受ケタルトキ

四　額面總額三萬圓以上ノ有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル契約ヲ締結シタルトキ

第十六條　前二條ノ規定ニ依リ主務大臣ニ提出スベキ報告書ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ作成スベシ

一　資金ノ貸付ニ關スル報告書ニハ左ニ揭グル事項ヲ記載スベシ

イ　借主ノ住所及氏名、商號又ハ名稱

ロ　借主ノ事業ノ種類

ハ　貸付ノ年月日

ニ　貸付ノ種類及金額

ホ　貸付ノ利率、償還期限其ノ他ノ條件

ヘ　貸付金ノ使途

二　有價證券ノ應募ニ關スル報告書ニハ左ニ揭グル事項ヲ記載スベシ

イ　有價證券發行者ノ住所及商號又ハ名稱

ロ　有價證券發行者ノ事業ノ種類

ハ　應募割當ノ年月日

ニ　割當ヲ受ケタル有價證券ノ種類、數量及價額

ホ　割當ヲ受ケタル有價證券ノ拂込ノ時期

三　有價證券ノ引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル報告書ニハ左ニ揭グル事項ヲ記載スベシ

イ　有價證券發行者ノ住所及商號又ハ名稱

ロ　有價證券發行者ノ事業ノ種類

ハ　引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル契約ノ締結ノ年月日

ニ　引受又ハ募集ノ取扱ヲ爲ス有價證券ノ種類、數量及價格

ホ　引受又ハ募集ノ取扱ニ關スル條件

ヘ　有價證券ノ發行ノ時期、總額及條件

ト　有價證券ノ發行ニ依リ調達セラルル資金ノ使途

第十七條　主務大臣必要アリト認ムルトキハ本令ニ依リ許可若ハ認可ノ申請書又ハ報告書ヲ提出スベキ者ニ對シ其ノ副本ノ提出ヲ命ズルコトヲ得

主務大臣必要アリト認ムルトキハ本令ニ依リ提出スベキ申請書、之ニ添附スベキ書類又ハ報告書ニ關シ別段ノ指示ヲ爲スコトヲ得

主務大臣ハ本令ニ定ムルモノノ外關係者ニ對シ臨時資金調整法ニ依ル許可又ハ認可ニ關シ必要ナル書類ノ提出ヲ命ズルコトヲ得

臨時資金調整法施行細則

第十七條ノ二　臨時資金調整法施行令第一條第二項又ハ第六條ノ二但書ノ規定ニ依リ三萬圓以上ノ資金ノ貸付又ハ三萬圓ヲ超ユル新設、擴張若ハ改良ニ付主務大臣ノ許可ヲ受クベキ事業設備ハ別表ニ定ムル所ニ依ル

第十八條　第一條乃至第四條、第十四條及第十五條ニ於テ主務大臣トアルハ銀行、信託會社及證券引受業者ニ付テハ大藏大臣、保險會社ニ付テハ商工大臣、商工組合中央金庫ニ付テハ大藏大臣及商工大臣、產業組合中央金庫及北海道府縣ヲ區域トスル信用組合聯合會ニ付テハ大藏大臣及農林大臣トシ第五條乃至第十條、第十二條及第十三條ニ於テ主務大臣トアルハ大藏大臣及商工大臣トシ第十一條ニ於テ主務大臣トアルハ大藏大臣、農林大臣及商工大臣トス

附　則

本令ハ昭和十二年九月二十七日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和十二年十月十三日大藏、農林、商工省令）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十條第四項ノ規定ニ依ル許可申請書ハ本令公布ノ日ヨリ

十日内ニ之ヲ提出スベシ

附　則（昭和十三年八月十五日大蔵、農林、商工省令）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十條第四項ノ規定ニ依ル許可申請書ハ本令公布ノ日ヨリ二十日内ニ之ヲ提出スベシ

附　則（昭和十四年四月二十二日大蔵、農林、商工省令）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條第三項ノ規定ニ依ル許可申請書ハ本令公布ノ日ヨリ二十日内ニ之ヲ提出スベシ

別　表

一　左ニ掲グル物品ノ製造用ノ設備

イ　化粧品

香水、香紙、香袋、白粉、紅、化粧畳、クリーム、化粧下、化粧水、化粧粉、頭髪用ノ香水、油若ハ煉油、整髪料、染毛料、養毛料、美爪料

ロ　化粧用具

化粧用刷子（頭髪用ノモノヲ含ム）、コンパクト

香水噴、白粉入其ノ他ノ化粧品ノ容器、化粧具匣（折畳式ノモノヲ含ム）又ハ其ノ他ノ化粧用具セット

ハ　喫煙用具

煙管、パイプ類若ハ同ケース、煙草入、灰皿、煙草セット、煙草盆又ハライター

ニ　身邊用細貨類

指環、腕環、耳飾、頸飾、ペンダント、櫛、笄、髷、頭髪用ピン、ハットピン、ネクタイピン、襟止、帯止、バックル、鎖、カフス釦、根付、メダル、ハンドバック、手提袋、財布、懐中用書状入、名刺入、莨迫、シース又ハ此等ニ類スルモノ

ホ　毛皮製品

敷物、膝掛、手套類、襟巻、肩掛、被服類又ハ被服類ノ裏、襟、袖若ハ縁

ヘ　羽毛製品又ハ羽毛ヲ用ヒタル製品

襟巻、蒲團、座蒲團又ハクッション

ト　皮革製品

被服類、手袋、靴、座蒲團、クッション、鞄、トランク又ハケース類

チ　玩具

リ　室内遊戯具

撞球用具、輪投具、ピンポン用具、圍碁若ハ將棋用具、骨牌、トランプ、麻雀用具、ドミノ、チエツカー又ハ此等ニ類スルモノ

ヌ　樂器

ピアノ、オルガン、アコーデイオン、バンドニオン、ハーモニカ、ヴアイオリン、ヴイオラ、セロ、コントラバス、マンドリン、マンドラ、マンドリラ、マンドゼロ、マンドローネ、ギター、ギタローネ、バラライカ、ウクレレ、バンジョー、フリユート、ピツコロ、クラリネツト、オーボ、バズーン、コルネツト、トランペツト、トロンボーン、アルト、バリトン、チユーバ、サクソフオーン、スザフオーン、ホルン、バイブラフオーン、喇叭（信號喇叭ヲ除ク）、木琴、鐵琴、箏、三絃、琵琶、明笛、尺八、鼓、ドラム類、タンボリン又ハシンバル

ル　樂器部分品又ハ附屬品

臨時資金調整法施行細則

ヲ　室内裝飾用品

置物、花器、香器、額縁、柱掛其ノ他ノ壁面裝飾用品、人形、節句飾物又ハ羽子板

ワ　照明器具

裝飾用豆電球、ネオン管、スタンド、シャンデリヤ、ペンダント、ブラケツト、バルベツト、シーリングライト、ボーダーライト、グローブ、シエード又ハ此等ニ類スルモノ

カ　家具

箪笥、棚類、箱類、寢臺、鏡若ハ鏡臺類、机若ハ卓子類、卓子若ハ腰掛類、火鉢、臺類、屏風、衝立、几帳、衣桁、帽子掛又ハ傘立

ヨ　致醉飲料

清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、麥酒、葡萄酒、果實酒又ハ其ノ他ノ酒精含有飲料

タ　清涼飲料

ソーダ水、サイダー、ラムネ其ノ他ノ炭酸ガス含有飲料、牛乳若ハ乳製品ヲ原料トスル酸性飲料又ハ果實汁、果實蜜若ハ此等ニ類スル製品ニシテ稀釋シテ飲用ニ供スルモノ

レ　調味料
　ソース、ケチヤツプ、カレー粉、胡椒粉、マスタード粉、グルタミン酸ソーダ類又ハ此等ニ類スルモノ
ソ　菓子
ツ　飴
二　映畫製作用ノ設備
三　物品販賣ノ設備
四　理容店用、浴場用、旅館用、料理店用又ハ貸席用ノ設備
　イ　理髪店用ノ設備
　　理髪店用又ハ美容店用ノ設備
　ロ　浴場用ノ設備
　ハ　旅館用ノ設備
　ニ　料理店用ノ設備
　　割烹店、飲食店、酒場、カフエー、喫茶店、ミルクホール其ノ他名稱ノ如何ヲ問ハズ公衆ヲシテ飲食ヲ爲サシムル場所ノ用ニ供スル設備
　ホ　貸席用ノ設備
　　待合茶屋用、芝居茶屋用、相撲茶屋用、遊船宿

用又ハ此等ニ類スルモノノ用ニ供スル設備
五　興行用ノ設備
　劇場用、映畫館用、演藝場用又ハ觀物場（相撲、野球、拳闘其ノ他ノ競技ニシテ公衆ノ觀覽ニ供スルコトヲ目的トスルモノヲ含ム）用ノ設備
六　社交用、娯樂用又ハ遊興用ノ設備
　イ　社交用ノ設備
　ロ　娯樂用ノ設備
　　遊園地用、遊技場（撞球、麻雀、ゴルフ、スケート其ノ他方法ノ如何ヲ問ハズ公衆ヲシテ遊技ヲ爲サシムル公開ノ場所ヲ謂フ）用、舞踏場（舞踏教授所ヲ含ム）用又ハ貸船用ノ設備
　ハ　遊興用ノ設備
　　貸座敷用又ハ引手茶屋用ノ設備

臨時租稅措置法抜萃

（昭和十三年三月法律第五十二號）
改正　昭和十五年三月法律第五四號

第一條　當分ノ內本法ニ依リ所得稅、法人稅、田畑地租、營業稅、砂糖消費稅、織物消費稅、登錄稅及臨時利得稅ヲ輕減又ハ免除ス

第一條ノ二　法人ノ各事業年度ノ所得中留保シタル金額ガ其ノ事業年度ニ於ケル所得ノ十分ノ三ニ相當スル金額ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過部分ノ全部又ハ一部ニ相當スル金額ヲ命令ヲ以テ定ムル方法ニ依リ運用スルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ運用金額ニ百分ノ三、六ヲ乘ジテ算出シタル金額ニ相當スル法人稅ヲ輕減ス

前項ノ各事業年度ノ所得及所得中留保シタル金額ハ其ノ事業年度ノ所得及資本ニ課セラルベキ法人稅額（前項ノ規定ニ依リ輕減スル稅額ヲ控除セザルモノニ依ル）及法人稅法第十四條ノ規定ニ依リ控除スベキ臨時利得稅額ヲ其ノ事業年度ノ所得及其ノ所得中留保シタル金額ノ双方ヨリ控除シタル殘額ニ依ル

第一條ノ四　左ニ揭グル事項ニ付テハ所得稅法ニ依ル所得、法人稅法ニ依ル所得、營業稅法ニ依ル純益及臨時利得稅法ニ依ル利益ノ計算ニ關シ命令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

一　命令ヲ以テ指定スル國庫補助金ノ收入

二　命令ヲ以テ指定スル事業ニ關シ研究ヲ爲スニ要シタル支出

三　命令ヲ以テ指定スル事業ノ用ニ供スル建物（工場用以外ノ建物ヲ除ク）機械其ノ他ノ設備及船舶ノ價額ノ償却

臨時租稅措置法施行規則抜萃

（昭和十三年四月大藏省令第二十一號）
改正　昭和十五年四月大藏省令第十九號

第一條　法人ガ超過留保金額ノ全部又ハ一部ヲ別表ニ揭グ

ル事業ノ用ニ供スル設備（船舶ヲ含ム）ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スニ要スル資金ニ充テ又ハ國債證券、興業債券（臨時資金調整法第六條第四項ノ規定ニ依リ元本ノ償還及利息ノ支拂ニ付政府ノ保證アルモノニ限ル）其ノ他大藏大臣ノ指定シタル有價證券ヲ取得スルニ要スル資金ニ充テタルトキハ臨時租稅措置法第一條ノ二ノ規定ニ依リ法人稅ヲ輕減ス

本令ニ於テ超過留保金額トハ臨時租稅措置法第一條ノ二第二項ノ規定ニ依ル法人ノ各事業年度ノ所得中留保シタル金額ガ其ノ事業年度ノ所得ノ十分ノ三ニ相當スル金額ヲ超過スル場合ニ於ケル其ノ超過部分ノ金額ヲ謂フ

第一條ノ二 法人ガ各事業年度ノ超過留保金額ノ全部又ハ一部ヲ前條ニ定ムル設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スニ要スル資金ニ充テントスルトキハ當該事業年度ノ利益金ノ處分ニ當リ其ノ金額ヲ確定シ之ヲ「設備擴張留保金」勘定（貸方勘定）ニ繰入ルベシ

第一條ノ三 法人ガ各事業年度ノ超過留保金額ノ全部又ハ一部ヲ第一條ニ定ムル有價證券ノ取得ニ要スル資金ニ充テントスルトキハ當該事業年度ノ利益金ノ處分ニ當リ其ノ金額ヲ確定シ之ヲ「證券保有留保金」勘定（貸方勘定）ニ繰入ルベシ

前項ノ「證券保有留保金」勘定ニ繰入レタル金額ヲ以テ第一條ニ規定スル有價證券ヲ取得シタルトキハ「指定證券運用」勘定（借方勘定）ヲ設ケ他ノ財產ト分別シテ之ヲ計理スベシ

第一條ノ四 「設備擴張留保金」勘定又ハ「證券保有留保金」勘定ニ繰入レタル金額ハ左ノ期間內ニ各所定ノ運用ノ爲ニ支出スルコトヲ要ス

一 「設備擴張留保金」勘定繰入金額ニ付テハ其ノ繰入レタル利益金ノ屬スル事業年度終了ノ日ヨリ二年

二 「證券保有留保金」勘定繰入金額ニ付テハ其ノ繰入レタル益金ノ屬スル事業年度終了ノ日ヨリ六月

第一條ノ五 法人ガ前條ニ定ムル期間內ニ於テ「設備擴張留保金」勘定ニ繰入レタル金額ヲ「證券保有留保金」勘定ニ振替ヘ又ハ「證券保有留保金」勘定ニ繰入レタル金額ヲ「設備擴張留保金」勘定ニ振替ヘ其ノ運用ノ方法ヲ變更セントスルトキハ稅務署長ノ承認ヲ受クベシ此ノ場合ニ於テハ振替ヘタル金額ヲ直ニ變更後ノ運用ノ爲ニ支出スルコトヲ要ス

法人ガ「指定證券運用」勘定ヲ以テ分別計理シタル有價

證券ヲ處分シ設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ノ支出ニ充テントスルトキハ稅務署長ノ承認ヲ受クベシ

第一條ノ六 「設備擴張留保金」勘定又ハ「證券保有留保金」勘定ニ繰入レタル金額ニシテ第一條ノ四ニ定ムル期間內ニ各所定ノ運用ノ爲ニ支出セザリシモノアルトキハ繰入金額ニ付輕減セラレタル法人稅額中運用ノ爲ニ支出セザリシ金額ニ對スル輕減稅額ニ相當スル金額ヲ追徵ス前條第一項ノ場合ニ於テ直ニ變更後ノ運用ノ爲ニ支出セザリシ金額アルトキ亦同ジ

「證券保有留保金」勘定ニ繰入レタル金額ヲ以テ取得シタル有價證券ヲ處分シタルトキ又ハ有價證券ニ付元本ノ償還アリタル後直ニ之ニ代ルベキ有價證券ヲ取得セザリシトキハ繰入金額ニ付輕減セラレタル法人稅額中當該有價證券ノ取得ニ要シタル金額ニ對スル輕減稅額ニ相當スル金額ヲ追徵ス但シ其ノ處分ニ付稅務署長ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前二項ノ追徵稅額ハ第一條ノ四ニ定ムル期間滿了ノ日又ハ有價證券ヲ處分シ若ハ有價證券ニ付元本ノ償還アリタル日ノ屬スル事業年度分ノ法人稅ヲ徵收スル際之ヲ徵收ス

第一條ノ七 法人稅ヲ課スベキ所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スル法人ノ超過留保金額ハ其ノ留保金額中所得總額ノ十分ノ三ニ相當スル金額ヲ超過スル金額ニ所得總額ニ對スル法人稅ヲ課スベキ所得ノ割合ヲ乘ジ之ヲ計算ス

第一條ノ八 臨時租稅措置法第一條ノ二ノ規定ニ依リ法人稅ノ輕減ヲ受ケントスル法人ハ「設備擴張留保金」勘定又ハ「證券保有留保金」勘定ニ繰入レタル金額及其ノ運用豫定計畫ヲ記載シタル書類ヲ添附シ法人稅法第十八條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

第一條ノ九 臨時租稅措置法第一條ノ二ノ規定ニ依リ法人稅ノ輕減ヲ受ケタル法人ハ「設備擴張留保金」勘定又ハ「證券保有留保金」勘定ニ繰入レタル金額ニ付每事業年度其ノ運用明細書ヲ法人稅法第十八條ノ申告ト同時ニ所轄稅務署ニ提出スベシ

第一條ノ十二 大藏大臣ノ指定スル國庫補助金ノ收入ハ所得稅法ニ依ル所得、法人稅法ニ依ル所得、營業稅法ニ依ル純益及臨時利得稅法ニ依ル利益ノ計算上大藏大臣ノ定ムル割合ニ依リ其ノ全部又ハ一部ヲ益金又ハ收入金額ニ算入セズ

前項ノ國庫補助金ノ種類及割合ハ大藏大臣之ヲ告示ス

第一條ノ十三　別表ニ掲グル事業ニ關シ研究ヲ爲スニ要シタル支出金額（土地ニ關スル支出金額ヲ除ク）ニシテ昭和十四年四月一日以後支出シタルモノハ資本的支出ニ屬スル場合ニ於テモ所得稅法ニ依ル所得、法人稅法ニ依ル所得、營業稅法ニ依ル純益及臨時利得稅法ニ依ル利益ノ計算上之ヲ損金又ハ必要經費ニ算入ス

前項ノ場合ニ於テ法人ガ其ノ支出金額ヲ資產トシテ計算シタルトキハ法人ニ對スル法人稅、營業稅及臨時利得稅ノ課稅ニ關シテハ之ヲ資產トシテ計算セザリシモノト看做ス

第一項ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者ハ豫メ研究ノ目的及研究ヲ爲スニ要スル支出ノ詳細ヲ記載シタル書類ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ

第一條ノ十四　第一條ノ十二又ハ前條ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者ハ所得稅法第三十四條若ハ法人稅法第十八條營業稅法第十五條若ハ第十六條又ハ臨時利得稅法第十五條若ハ第十六條第一項ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

第一條ノ十五　別表ニ掲グル事業ノ用ニ供スル建物（工場用以外ノ建物ヲ除ク）機械其ノ他ノ設備及船舶ニシテ昭和十四年四月一日以後新設、增設又ハ製造シタルモノニ付新設、增設又ハ製造後三年間左ノ各號ノ金額ノ合計額以內ノ價額ノ償却ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ償却金額ハ所得稅法ニ依ル所得、法人稅法ニ依ル所得、營業稅法ニ依ル純益及臨時利得稅法ニ依ル利益ノ計算上之ヲ損金又ハ必要經費ニ算入ス

一　取得價額ノ三分ノ一ニ相當スル金額ニ付堪久年數ヲ三年トシテ均等償却ノ方法ニ依リ算出シタル償却金額

二　取得價額ノ三分ノ二ニ相當スル金額ニ付堪久年數ニ依リ算出シタル償却金額

別表

一　金屬鑛業
二　石炭鑛業
三　石油鑛業
四　製鐵業
五　非鐵金屬製鍊業
六　輕金屬製造業
七　鋼船製造業
八　蒸汽鑵製造業
九　原動機製造業

十　電氣機械器具製造業但シ家庭用電氣器具製造業ヲ除ク
十一　採鑛、選鑛及製鍊機械器具製造業
十二　金屬工機械製造業
十三　工具及刀具類製造業
十四　化學工業用機械裝置製造業
十五　自動車及同部分品製造業但シ小型自動車及同部分品製造業ヲ除ク
十六　鐵道用及軌道用車輛製造業
十七　航空機及同部分品製造業
十八　軸受及鋼球製造業
十九　兵器及同部分品製造業
二十　硫酸製造業但シ乾式製鍊所ヨリ排棄セラルル鑛煙中ノ亞硫酸瓦斯ヲ回收シテ製造スルモノニ限ル
二十一　石炭酸製造業
二十二　コールタール分溜物製造業
二十三　代用燃料製造業
二十四　硝酸製造業
二十五　染料中間物其ノ他コールタール分溜物誘導體製造業
二十六　パルプ製造業
二十七　硫酸アンモニア製造業
二十八　石油精製業
二十九　人造石油製造業
三十　海運業

傳染病豫防法

（明治三十年四月法律第三十六號）

改正　大正十一年四月法律第三十二號

第一條　此ノ法律ニ於テ傳染病ト稱スルハ「コレラ」赤痢、疫痢ヲ含ム腸「チフス」、「パラチフス」、痘瘡、發疹「チフス」、猩紅熱、「ヂフテリア」、流行性腦脊髓膜炎及「ペスト」ヲ謂フ

前項ニ掲クル十病ノ外此ノ法律ニ依リ豫防方法ノ施行必要トスル傳染病アルトキハ主務大臣之ヲ指定ス

主務大臣特別ノ事由アリト認ムルトキハ前項ニ依リ指定スル傳染病ニ對シ命令ヲ以テ此ノ法律ノ一部ヲ限リ適用シ又ハ地域ヲ限リ此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ適用スルコ

トヲ得

第二條　此ノ法律ハ「コレラ」及「ペスト」ノ疑似症ニ對シ之ヲ適用ス

「コレラ」及「ペスト」以外ノ傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ其ノ傳染病ノ疑似症ニ對シ命令ノ規定ニ從ヒ此ノ法律ノ全部若ハ一部ヲ適用スルコトヲ得

第二條ノ二　傳染病ノ病原體保有者ハ此ノ法律ノ適用ニ付テハ之ヲ傳染病患者ト看做ス

「コレラ」以外ノ傳染病ノ病原體保有者ニ對シ此ノ法律中傳染病患者ニ關スル規定ニシテ適用シ難キモノニ付テハ命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第三條　醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シタルトキハ其ノ家人ニ消毒方法ヲ指示シ且直ニ患者若ハ死體所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戶長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ屆出ヘシ其ノ轉歸ノ場合亦同シ

第四條　傳染病又ハ其ノ疑アル患者若ハ其ノ死者アリタル家ニ於テハ速ニ醫師ノ診斷若ハ檢案ヲ受ケ又ハ直ニ其ノ所在地ノ警察官吏、市町村長、區長、戶長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ屆出ズヘシ

前項ノ屆出ヲ爲スヘキ義務者ハ一般民家ニ在リテハ戶主若ハ之ニ代ルヘキ者、社寺、公私立ノ學校、病院、製造所又ハ船舶、會社、各種事務所、貸席、興行場其ノ他集會ノ場所ニ在リテハ其ノ首長、管理人又ハ代理者トス

第五條　傳染病患者アリタル家其ノ他傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル家ニ於テハ醫師又ハ當該吏員ノ指示ニ從ヒ清潔方法及消毒方法ヲ行フヘシ

前項ノ清潔方法及消毒方法ヲ行フヘキ義務者ニ付テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六條　清潔方法及消毒方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ傳染病患者ヲ傳染病院、隔離病舍其ノ他適當ノ場所ニ入ラシムヘシ

第八條　當該吏員ニ於テ必要ト認ムルトキハ一定ノ日時間傳染病患者アリタル家其ノ他傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル家ノ交通ヲ遮斷シ又ハ病毒感染ノ疑アル者ヲ隔離所其ノ他適當ノ場所ニ隔離スルコトヲ得

第八條ノ二　傳染病患者ハ業態上病毒傳播ノ虞アル業務ニ從事スルコトヲ得ス

前項ノ業務ノ範圍ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條　傳染病患者及其ノ死體ノ當該吏員ノ認可ヲ經ルニ非サレハ他ニ移スコトヲ得ス

第十條　傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ハ當該吏員ノ認可ヲ受クルニ非サレハ使用、授與、移轉、遺棄又ハ洗滌スルコトヲ得ス

第十一條　傳染病患者ノ死體ハ當該吏員ニ於テ充分ト認ムル消毒方法ヲ施シタル後ニ非サレハ埋葬スヘカラス

傳染病患者ノ死體ハ醫師ノ檢案ニ依リ當該吏員ノ認可ヲ經テ二十四時間內ニ埋葬スルコトヲ得

第十二條　傳染病患者ノ死體ハ火葬スヘシ但シ所轄警察官署ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラス

傳染病患者ノ死體ヲ土葬シタルトキハ三箇年ヲ經過スルニ非サレハ他ニ改葬スルコトヲ得ス但シ特別ノ事由ニ因リ必要アル場合ニ於テ所轄警察官署ノ許可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　死體ヲ既ニ埋葬シ若ハ埋葬セムトスル場合ニ於テ傳染病患者タリシ疑アルトキハ當該吏員ハ死體及家屋其ノ他ニ對シ更ニ相當ノ處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第十四條　傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ當該吏員ハ其ノ事由ヲ戶主、首長、管理人又ハ代理者ニ告知シ家宅、船舶其ノ他ノ場所ニ立入ルコトヲ得但シ當該吏員タルノ證票ヲ示スヘシ

第十五條　傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市制第八十三條町村制第六十九條ニ依リ傳染病豫防委員ヲ置キ檢疫豫防ノ事ニ從ハシムヘシ但シ市町村會ノ議決ニ依ルノ限ニ在ラス

豫防委員ニハ醫師ヲ加フヘシ其ノ醫師ヨリ出ツル者ハ市町村長之ヲ選任ス

第十六條　市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ市町村內ノ清潔方法及消毒方法ヲ施行シ醫師其ノ他豫防上必要ナル人員ヲ雇入レ及器具、藥品其ノ他ノ物件ヲ設備スヘシ

第十六條ノ二　市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ鼠族、昆蟲等ノ驅除及之ニ關スル施設ヲ爲スヘシ

第十七條　市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ傳染病院、隔離病舍、隔離所又ハ消毒所ヲ設置スヘシ

傳染病院、隔離病舍、隔離所又ハ消毒所ノ設備及管理ノ方法ハ地方長官之ヲ定ム

第十七條ノ二　第十九條第七又ハ第八ニ依リ市街村落ノ全部又ハ一部ニ對シ家用水ノ使用ヲ停止シタル場合ニ於テハ市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ其ノ停止期間家用水ノ供給ヲ爲スヘシ

第十八條　傳染病流行シ若ハ流行ノ虞アルトキハ地方長官ハ檢疫委員ヲ置キ檢疫豫防ニ關スル事務ヲ擔任セシメ及特ニ船舶汽車電車ノ檢疫ヲ行ハシムルコトヲ得

船舶汽車電車ノ檢疫ヲ行フ場合ニ於テハ其ノ船舶若ハ其ノ船舶汽車電車ノ乘客乘組人ニシテ病毒感染ノ疑アル者ヲ必要ノ日時間停留シ及無償ニテ當該吏員又ハ醫師ヲ船舶汽車電車中ニ乘込マシムルコトヲ得

船舶汽車電車ノ檢疫ニ於テ發見シタル患者ハ附近市町村立ノ傳染病院又ハ隔離病舍ニ收容治療セシメ及病毒感染ノ疑アル者ヲ附近市町村立ノ隔離所ニ入ラシムルコトヲ得市町村ハ相當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ之カ爲特ニ要シタル費用ハ地方長官ニ請求スルコトヲ得

船舶汽車電車ノ檢疫ヲ施行セサル場合ニ於テ船舶汽車電車中ニ傳染病患者若ハ病毒感染ノ疑アル者アリタルトキハ前二項ノ規定ヲ準用ス在監人出獄スルニ際シ傳染病ニ罹リタル者若ハ病毒感染ノ疑アル者アリタルトキ亦同シ

前各項ノ外檢疫委員ノ設置及船舶汽車電車ノ檢疫ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條　地方長官ハ傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ左ノ事項ノ全部又ハ一部ヲ施行スルコトヲ得

一　健康診斷又ハ死體檢案ヲ行フコト

二　市街村落ノ全部若ハ一部ノ交通ヲ遮斷シ又ハ人民ヲ隔離スルコト

三、祭禮、供養、興行、集會等ノ爲人民ノ群集スルコトヲ制限シ若ハ禁止スルコト

四、古着、襤褸、古綿其ノ他病毒傳播ノ虞アル物件ノ出入ヲ制限シ若ハ停止シ又ハ其ノ物件ノ廢棄其ノ他必要ナル處分ヲ爲シ若ハ爲サシムルコト

五　傳染病毒傳播ノ媒介トナルヘキ飲食物ノ販賣、授受ヲ禁止シ又ハ其ノ飲食物ノ廢棄其ノ他必要ナル處分ヲ爲シ若ハ爲サシムルコト

六　汽車、船舶、製造所若ハ多人數ノ集合スル場所ニ醫師ノ雇入其ノ他豫防上必要ノ設備ヲ爲サシムルコト

七　清潔方法、消毒方法ノ施行ヲ命シ及井戸、上水、下水、溝渠、芥溜、厠圊ノ新設改築變更若ハ廢止ヲ命シ又ハ其ノ使用ヲ停止スルコト

八　一定ノ場所ノ漁撈、游泳又ハ其ノ水ノ使用ヲ必要ナル日時間制限シ若ハ停止スルコト

九　鼠族、昆蟲等ノ驅除及之ニ關スル施設ヲ爲サシムルコト

第十九條ノ二　傳染病毒ニ汚染シタル建物ニシテ消毒方法ノ施行ヲ不適當ト認ムルトキハ地方長官ハ關係市町村會ノ意見ヲ聽キ內務大臣ノ認可ヲ得テ其ノ建物ニ對シ別段ノ處分ヲ行ヒ且其ノ處分ノ爲必要ナル土地ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ損害ヲ受ケタル建物ノ所有者ニ手當金ヲ交付スヘシ

手當金ノ交付竝手當金額ノ決定ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條　諸官廳及官立ノ學校、病院、製造所等ニ傳染病發生シ若ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ首長ハ地方長官ト協議シ此ノ法律ニ準シ豫防法ヲ施行スヘシ

陸海軍所屬ノ部隊、軍艦等ニ傳染病發生シ若ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ首長ハ此ノ法律ニ準シ各其ノ所定ノ規則ニ依リ又必要アル場合ニ於テハ地方長官ト協議シ豫防方法ヲ施行スヘシ

第二十一條　左ノ諸費ハ市町村ノ負擔トス

一　第十八條ニ關スル諸費

二　手當金ヲ除ク外第十九條ノ二ニ關スル諸費

三　第十九條第二ニ依レル交通遮斷、隔離ニ關スル諸費

交通遮斷、隔離ノ爲自活シ能ハサル者ノ生活費及隔離

三　豫防救治ノ爲雇入タル醫師其ノ他ノ人員竝豫防上必要ナル器具、藥品其ノ他ノ物件ニ關スル諸費

四　傳染病院、隔離病舍、隔離所及消毒所ニ關スル諸費

五　豫防救治ニ從事シタル者ニ給スヘキ手當、療治料及其ノ遺族ニ給スヘキ救助料、弔祭料

六　第八條ニ依レル交通遮斷、隔離ニ關スル諸費及交通遮斷、隔離ノ爲又ハ一時營業ヲ失ヒ自活シ能ハサル者ノ生活費

七　市町村內ニ於テ發見セル傳染病貧民患者竝死者ニ關スル諸費

八　市町村ニ於テ施行スル鼠族、昆蟲等ノ驅除及其ノ施設ニ關スル諸費

九　第十七條ノ二ニ依レル家用水ノ供給ニ關スル諸費

十　第十九條ノ二ニ依リ交付スヘキ手當金

其ノ他市町村ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費

第二十二條　左ノ諸費ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

一　第十八條ニ關スル諸費

二　手當金ヲ除ク外第十九條ノ二ニ關スル諸費

三　第十九條第二ニ依レル交通遮斷、隔離ニ關スル諸費

交通遮斷、隔離ノ爲自活シ能ハサル者ノ生活費及隔離

所ニ關スル諸費

四　前各號ノ外此ノ法律ニ依リ地方長官ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費

其ノ他道府縣ニ於テ施行スル豫防事務ニ關スル諸費

第二十三條　地方長官ハ衞生組合ヲ設ケ清潔方法、消毒方法其ノ他傳染病ノ豫防救治ニ關シ規約ヲ定メシメ之ヲ履行セシムルコトヲ得

市町村ハ其ノ市町村內ノ衞生組合ニ於テ傳染病豫防救治ノ爲支出スル費用ノ全部又ハ一部ヲ補助スルコトヲ得

第二十四條　第二十一條第二十三條第二項ノ支出ニ對シテハ命令ノ規定ニ從ヒ北海道地方費又ハ府縣ヨリ市町村ニ補助スヘシ

第二十五條　國庫ハ勅令ノ規定ニ從ヒ第二十二條第二項ノ費用ノ條ノ北海道地方費又ハ府縣ノ支出ニ對シ其ノ六分一乃至三分一ヲ補助スルモノトス

第二十六條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ清潔方法、消毒方法ヲ施行スヘキ義務者之ヲ施行セス又ハ之ヲ施行スルモ當該吏員ニ於テ充分ナラスト認ムルトキ及必要ノ時限內ニ施行シ得スト認ムルトキハ當該吏員之ヲ施行シ其ノ費用ハ市町村ヲシテ支辨セシムヘシ

此ノ場合ニ於テ市町村ハ其ノ費用ヲ義務者ヨリ追徵スルコトヲ得

私人ニ於テ前項ノ費用ヲ指定ノ期限內ニ納付セサルトキハ國稅徵收ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收ス

第二十七條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ市町村又ハ私人ニ於テ施爲スヘキ事項ヲ施爲セス若ハ之ヲ施爲スルモ充大ナラスト認ムルトキ又ハ必要ノ時限內ニ施爲シ得スト認ムルトキハ地方長官ハ北海道地方費又ハ府縣費ヲ以テ之ヲ施爲シ其ノ費用ヲ市町村又ハ私人ヨリ追徵スルコトヲ得

私人ニ於テ前項ノ費用ヲ指定ノ期限內ニ納付セサルトキハ國稅徵收ニ關スル規程ニ依リ之ヲ徵收ス

第二十八條　第二十六條及第二十七條ノ費用追徵ニ關シ不服アル私人ハ訴願法ニ依リ訴願スルコトヲ得

第二十九條　此ノ法律若ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ニ依リ當該吏員ノ指示命令シタル事項ヲ指定ノ期限內ニ履行セサルモノハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條　醫師傳染病患者ヲ診斷シ若ハ其ノ死體ヲ檢案シタル後十二時間以內ニ屆出ヲ爲サス又ハ虛僞ノ轉歸屆ヲ爲シタルトキハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條　第四條、第五條、第八條ノ二、第九條、第十條、第十一條第一項、第十二條ニ違背シタル者、交通遮斷ヲ犯シタル者、當該吏員ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者又ハ醫師ニ請託シテ第三條ノ屆出ヲ爲サシメス若ハ其ノ屆出ヲ妨ケタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第三十二條　此ノ法律中ノ規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除ク外北海道沖繩縣ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

此ノ法律中市町村ニ關スル規程ニシテ其ノ準用シ得ヘキモノヲ除ク外市制町村制ヲ施行モサル地ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條　海外諸港竝朝鮮臺灣及樺太ヨリ來ル船舶ニ對シ施行スル檢疫ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十四條　此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條　此ノ法律ハ明治三十年五月一日ヨリ施行ス但シ第二十四條及第二十五條ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

傳染病豫防法施行規則

第三十六條　明治十三年布告第三十四號傳染病豫防規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

附　則（大正十一年四月法律第三二號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十一年九月勅令第四二〇號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行）

傳染病豫防法施行規則

（大正十一年九月內務省令第二十四號）

改正　昭和三年四月內務省令第十四號

第一章　傳染病發生ノ通報及屆出

第一條　地方長官傳染病流行ノ兆アリト認ムルトキハ內務大臣ニ報告シ且交通密接ノ地ノ地方長官其ノ他特ニ必要アリト認ムル者ニ通知スベシ

第二條　地方長官ハ傳染病豫防法第一條第一項ニ揭グル十病ノ外同法ニ依リ豫防方法ヲ施行スルノ必要アリト認ムル傳染病發生シタルトキハ其ノ性狀ヲ記シ且傳染病豫防法中其ノ適用スベキ規定及同法ヲ適用スベキ地域ニ關ス

ル意見ヲ附シ内務大臣ニ報告スベシ

第三條 傳染病豫防法第三條及第四條ノ屆出ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第四條 醫師傳染病患者ヲ診斷シ又ハ其ノ死體ヲ檢案シタル場合ニ於テ其ノ患者又ハ死體ニ關シ既ニ傳染病豫防法第三條ノ屆出アリタルコトヲ知リタルトキハ同一事項ニ付更ニ同條ノ屆出ヲ爲スコトヲ要セズ其ノ轉歸ノ場合亦同ジ

第五條 警察官吏、市町村長、檢疫委員又ハ豫防委員傳染病豫防法第三條ノ屆出ヲ受ケ又ハ傳染病患者、死者其ノ他傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル事實アルコトヲ知リタルトキハ互ニ通知スベシ

前項ノ場合ニ於テ警察署長ハ地方長官ニ報告スベシ

警察官吏、市町村長、檢疫委員又ハ豫防委員傳染病豫防法第四條ノ屆出ヲ受ケタルトキハ互ニ通知シ且直ニ醫師ヲシテ診斷又ハ檢案セシムベシ

第二章 疑似症及病原體保有者

第六條 地方長官「コレラ」及「ペスト」以外ノ傳染病ノ疑似症ニ對シ傳染病豫防法ノ全部又ハ一部ヲ適用スル場合ニテハ其ノ傳染病ニ對シ適用セラルル傳染病豫防法ノ規定ノ範圍ヲ超ユルコトヲ得ズ

第七條 地方長官「コレラ」及「ペスト」以外ノ傳染病ノ疑似症ニ對シ傳染病豫防法第二條第二項及前條ニ依リ傳染病豫防法ノ全部又ハ一部ヲ適用シタルトキハ務内大臣ニ報告スベシ其ノ適用ヲ止メタルトキ亦同ジ

第八條 傳染病ノ病原體保有者又ハ其ノ保護者ハ地方長官ニ對シ其ノ病原體ノ有無ニ關シ檢査ヲ請求スルコトヲ得

第九條 「コレラ」、「ヂフテリヤ」及流行性腦脊髓膜炎ノ病原體保有者ニ在リテハ二十四時間以上、赤痢、腸「チフス」及「パラチフス」ノ病原體保有者ニ在リテハ四十八時間以上ノ間隔ヲ置キ採取シタル檢査材料ニ付細菌學的檢査ヲ行ヒ引續キ二回以上病原體ノ存在ヲ證明セザル場合ニ於テ病原體消失シタルモノト看做ス

前項ノ檢査材料ハ「コレラ」及赤痢ニ付テハ屎、腸「チフス」及「パラチフス」ニ付テハ屎尿、「ヂフテリア」及流行性腦脊髓膜炎ニ付テハ鼻咽喉部ノ粘液トス

第十條 傳染病ノ主要症狀消退ノ時ヨリ起算シ左ノ期間ヲ經過セザル者及地方長官ニ於テ特別ノ必要アリト認ムル者ヲ除クノ外「コレラ」以外ノ傳染病ノ病原體保有者ニ對シテハ傳染病豫防法第七條第八條第九條及第十八條ヲ適用スゼ但シ同法第九條中死體ニ關スル規定ハ此ノ限ニ在ラズ

一 赤痢 十四日
二 腸「チフス」、「パラチフス」 二十一日
三 「ヂフテリヤ」、流行性腦脊髓膜炎 七日

第十一條 赤痢、腸「チフス」及「パラチフス」ノ病原體保有者ニシテ前條ニ該當スルモノハ左ノ事項ヲ遵守スベシ

一 便所ハ成ルベク之ヲ專用トシ上圖ノ都度便池ニ消毒藥ヲ投入スルコト
二 便所ノ手洗水ニハ消毒藥ヲ用ウルコト
三 便器ハ使用ノ都度之ヲ消毒スルコト
四 屎尿ニ汚サレタルモノハ之ヲ消毒スルコト

「ヂフテリア」及流行性腦脊髓膜炎ノ病原體保有者ニシテ前條ニ該當スルモノハ左ノ事項ヲ遵守スベシ

一 食器、手拭、衣類、寢具、涎掛、玩具等ハ之ヲ專用トシ衣類、寢具ハ時々日光ニ曝スコト
二 鼻汁、唾痰ノ附著シタル布片、紙片其ノ他鼻汁、唾痰ニ汚サレタルモノハ之ヲ消毒シ又ハ便池ニ投棄スルコト
三 劇場、寄席、活動寫眞館等興行場其ノ他多衆ノ集合スル場所ニ立入ラザルコト

病原體保有者ノ保護者ハ病原體保有者ヲシテ前二項ノ事項ヲ遵守セシムベシ

第十二條 「コレラ」以外ノ傳染病ノ病原體保有者其ノ居住ノ場所ヲ他ニ移サムトスルトキハ病原體保有者又ハ其ノ保護者ニ於テ書面又ハ口頭ヲ以テ警察官吏、市町村長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ屆出ヅベシ此ノ場合ニ於テ屆出ヲ受ケタル吏員ハ病原體保有者ノ移轉スベキ地ノ警察官吏、市町村長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ通知スベシ

第十三條 第八條第十一條第三項及前條ニ於テ保護者ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

一 未成年者ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ未成年者若ハ禁治産者ノ後見人、親權ヲ行フ者又ハ後見人ナキトキハ戸主、戸主未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ戸主ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ戸主ノ後見人
二 教育、監護又ハ傭使ノ目的ヲ以テ未成年者ヲ寄寓セシムル者又ハ其ノ法定代理人

第三章 清潔方法及消毒方法ノ施行

第十四條 市町村長及豫防委員傳染病患者、死者其ノ他傳染病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル事實アルコトヲ知リタ

ルトキハ速ニ其ノ家ニ付清潔方法及消毒方法ヲ施行セシムベシ

第十五條　傳染病豫防法第十一條第一項ノ消毒方法及同法第十九條第七號又ハ第九號ニ依リ地方長官ノ命ジタル傳染病豫防上必要ナル事項ハ市町村長及豫防委員ニ於テ之ヲ施行セシムベシ

第十六條　傳染病豫防法第二十六條第一項ニ依ル清潔方法及消毒方法ハ市町村長及豫防委員ニ於テ之ヲ施行スベシ

第四章　清潔方法

第十七條　傳染病患者又ハ死者アリタル家其ノ他傳染病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル家ニ於テ施行スル清潔方法ノ要項左ノ如シ

一　「コレラ」、赤痢、腸「チフス」及「パラチフス」ニ付テハ井戸側、井戸流、臺所流、下水溝、汚水溜、便所、芥溜等ニ就キ不潔ナル場所ヲ掃除シ必要アル場合ニ於テハ其ノ修理及井戸浚ヲ爲シ且蠅ノ驅除及蠅ノ發生シ易キ場所ノ掃除ヲ行フコト

二　痘瘡、猩紅熱、「ヂフテリア」及流行性腦脊髓膜炎ニ付テハ衣類、寢具、玩具、疊、敷物等ヲ清潔ニスルコト

三　發疹「チフス」ニ付テハ虱ノ驅除ヲ行ヒ且衣類、寢具等虱ノ棲息シ易キ物件ヲ清潔ニスルコト

四　「ペスト」ニ付テハ鼠族、蚤及南京蟲ノ驅除ヲ行ヒ且衣類、寢具、疊、敷物、床下等蚤及南京蟲ノ棲息シ易キ物件及場所ヲ清潔ニシ及掃除スルコト

五　室内ノ採光及換氣ヲ充分ニスルコト

前項ノ清潔方法ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ除クノ外消毒方法ノ施行ヲ了リタル後之ヲ施行スベシ

第十八條　前條以外ノ場合ニ於テ施行スル清潔方法ノ要項左ノ如シ

一　宅地及家屋ノ内外ヲ掃除スルコト

二　室内ノ採光及換氣ヲ充分ニスルコト

三　疊、敷物等ヲ日光ニ曝スコト

四　床下ハ換氣ヲ充分ニシ濕潤著シキモノハ乾燥セル土砂ノ類ヲ撒布スルコト

五　汚水停留ノ場所又ハ濕潤著シキ場所ハ之ヲ埋メ又ハ排水ヲ充分ニスルコト

六　前各號ノ外特別ノ必要アルトキハ前條第一項第一號乃至第四號ニ準ジ裝置スルコト

第十九條　清潔方法ヲ施行スル場合ニ於テハ濾ニ消毒藥ヲ撒布スベカラズ

傳染病ノ流行ニ際シ溝渠ヲ掃除スル場合ニ於テ必要アルトキハ煆製石灰末、普通石灰又ハ「クロール」石灰水ヲ以テ消毒シタル後浚渫スベシ

第二十條　清潔方法ノ施行ニ因リ生ジタル汚泥、塵芥ノ類ハ適當ノ運搬器具ニ入レ一定ノ場所ニ投棄シ又ハ燒却スベシ

第五章　消毒方法

第二十一條　消毒方法ハ左ノ四種トス

一　燒却
二　蒸汽消毒
三　煮沸消毒
四　藥物消毒

第二十二條　蒸氣消毒ニハ流通蒸汽ヲ用ヒ成ルベク消毒器内ノ空氣ヲ排除シ一時間以上攝氏百度以上ノ濕熱ニ觸レシムベシ

蒸汽消毒ヲ施行セムトスルトキハ左ノ事項ニ注意スベシ

一　消毒ニ因リ褪色ノ虞アルモノハ蒸汽消毒ヲ避ケ他物ニ染色ノ虞アルモノハ他物ト混ジ蒸汽消毒ヲ行ハザルコト

二　衣類ハ豫メ袖又ハ衣嚢ヲ檢索シ爆發又ハ發火シ易キ物件アルトキハ之ヲ取出スコト

第二十三條　煮沸消毒ハ消毒スベキ物件ヲ全部水ニ浸漬シ沸騰後三十分間以上煮沸スベシ

煮沸消毒ノ施行ニ關シテハ前條第二項第一號ヲ準用ス

第二十四條　藥物消毒ニ用ウベキ藥品竝其ノ製法及用法左ノ如シ

一　石炭酸水　防疫用石炭酸三分水九十七分

石炭酸水ヲ製スルニハ定量ノ防疫用石炭酸ニ少量ノ湯又ハ水ヲ加ヘ攪拌又ハ振盪シツツ除々ニ水ヲ注ギ定量ニ至ラシムベシ

石炭酸水ハ使用ノ都度之ヲ振盪スベシ

二　「クレゾール」水　「クレゾール」石鹸液三分水九十七分

「クレーゾール」水ヲ製スルニハ定量ノ「クレーゾール」石鹸液ニ定量ノ水ヲ加フベシ

「クレゾール」水ハ使用ノ都度之ヲ振盪スベシ

三　昇汞水　昇汞一分、普通食鹽一分、水千分

昇汞水ヲ製スルニハ定量ノ昇汞及普通食鹽ヲ定量ノ水ニ溶解シ又ハ昇汞錠（一錠中昇汞〇、五「グラム」ヲ含

ム）ヲ一錠ニ付水約五百「グラム」ノ割合ニ溶解スベシ昇汞水ハ金屬製ニ非ザル容器ニ之ヲ貯藏シ其ノ昇汞錠ヲ用ヒザルモノハ「スカレツト」「フクシンS」其ノ他適當ノ色素ヲ加ヘ著色シ識別シ易カラシムルコトヲ要ス

四　煆製石灰、少量ノ水ヲ注ケバ熱ヲ發シ崩壞スルモノ

煆製石灰末　煆製石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ粉末ト爲シタルモノ

煆製石灰末ヲ製スルニハ用ニ臨ミ煆製石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ粉末ト爲スベシ

石灰乳　煆製石灰二分水八分

石灰乳ヲ製スルニハ定量ノ煆製石灰ニ徐々ニ定量ノ水ヲ加ヘ充分攪拌スベシ

石灰乳ハ用ニ臨ミ之ヲ製シ且使用ノ都度之ヲ攪拌スベシ

煆製石灰ヲ得ルコト能ハザル場合ニ於テハ煆製石灰ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

五　「クロール」石灰水　「クロール」石灰五分水九十五分

「クロール」石灰水ノ製法及用法ハ石灰乳ノ例ニ依ル

六　「フオルマリン」水　「フオルマリン」一分水三十四分

「フオルマリン」水ヲ製スルニハ用ニ臨ミ定量ノ「フオルマリン」ニ定量ノ水ヲ加フベシ

七　「フオルムアルデヒード」

「フオルムアルデヒード」ハ「フオルマリン」ヲ噴霧發生セシメ又ハ適當ノ裝置ニ依リ之ヲ發生セシムベシ

「フオルムアルデヒート」ノ使用ニ關シテハ左ノ事項ニ注意スベシ

一　消毒函内又ハ室内ノ容積百立方尺ニ付「フオルマリン」四十「グラム」以上ヲ噴霧セシメ又ハ「フオルムアルデヒード」瓦斯十五「グラム」以上ヲ發生セシメ同時ニ約百「グラム」以上ノ水ヲ蒸發セシムルノ比例ヲ以テ處置シタル後七時間以上密閉シ置クベシ

二　物件ノ内部ニ至ル迄消毒スルノ必要アルモノニハ眞空裝置ニ依ルニ非ザレバ之ヲ使用スベカラズ

眞空裝置ニ依ル消毒時間ハ其ノ裝置ニ依リ之ヲ定ムベシ

三　氣密ニ閉鎖シ得ベキ消毒函内又ハ土藏造、洋風建物船舶、汽車等ニシテ戸扉、窓孔等ヲ密閉シ得ベキ室内ニ非ザレバ之ヲ使用スベカラズ

内務大臣ノ指定シタル藥品ニシテ傳染病研究所ノ檢定ニ合格シタルモノハ之ヲ原料トシテ傳染病研究所ノ指示ス

ル製法ニ從ヒ調製シタル藥品ハ傳染病研究所ノ指示スル所ニ從ヒ之ヲ前項各號ノ藥品ニ代用スルコトヲ得

第二十五條　「コレラ」、赤痢、腸「チフス」及「パラチフス」ニ付消毒方法ノ施行ヲ必要トスルモノ概ネ左ノ如シ

一　屎尿、吐瀉物及其ノ處置ニ用ヰタル器具、布片、紙片等

二　死體

三　患者及死體ノ用ニ供シタル衣類、寢具、運搬器具等

四　看護人其ノ他病毒ニ接觸シタル者及其ノ使用シタル衣類、寢具等

五　患者ノ用ニ供シタル飲食器具、患者ノ飲食物殘滓等

六　病室ノ疊、敷物等

七　便所、便池、手洗鉢等

八　臺所、臺所器具、井戸、水槽等

九　芥溜、下水溝等

痘瘡及猩紅熱ニ付消毒方法ノ施行ヲ必要トスルモノ概ネ左ノ如シ

一　鼻汁、唾痰、膿汁、痂皮、落屑及其ノ處置ニ用ヰタル器具、布片、紙片等

二　死體

三　患者及死體ノ用ニ供シタル衣類、寢具、運搬器具等

四　看護人其ノ他病毒ニ接觸シタル者及其ノ使用シタル衣類、寢具等

五　患者ノ用ニ供シタル飲食器具其ノ他ノ器具、書籍等

六　病室ノ疊、敷物、建具、側壁等

發疹「チフス」ニ付消毒方法ノ施行ヲ必要トスルモノ概ネ左ノ如シ

一　鼻汁、唾痰及其ノ處置ニ用ヒタル器具、布片、紙片等

二　死體

三　患者及死體ノ用ニ供シタル衣類、寢具、運搬器具等

四　看護人其ノ他病毒ニ接觸シタル者及其ノ使用シタル衣類、寢具等

五　病室ノ疊、敷物等

「ヂフテリア」及流行性腦脊髓膜炎ニ付消毒方法ノ施行ヲ必要トスルモノ概ネ左ノ如シ

一　鼻汁、唾痰及其ノ處置ニ用ヰタル器具、布片、紙片等

二　患者ノ用ニ供シタル衣類、寢具等

三　看護人及其ノ使用シタル衣類、寢具等

四　患者ノ用ニ供シタル飲食器具其ノ他ノ器具、書籍、玩具等

五　病室ノ疊、敷物、建具、側壁等

「ペスト」ニ付消毒方法ノ施行ヲ必要トスルモノ概ネ左ノ如シ

一　血液、鼻汁、唾痰膿汁及其ノ處置ニ用ヰタル器具、布片、紙片等

二　死體

三　患者及死體ノ用ニ供シタル衣類、寢具、運搬器具等

四　看護人其ノ他病毒ニ接觸シタル者及其ノ使用シタル衣類、寢具等

五　患者ノ用ニ供シタル飲食器具其ノ他ノ器具、書籍等

六　病室ノ疊、敷物、建具、側壁等

七　鼠ノ棲息、交通スル場所

第二十六條　消毒方法ノ應用概ネ左ノ如シ

一　患者

患者ハ治癒シタルトキ入浴セシメ衣類ヲ更メシムベシ但シ温濕布ヲ以テ拭淨シ入浴ニ代フルコトヲ妨ゲズ

入浴ニ使用シタル水ノ消毒ハ第十二號ニ依ル

二　死體

死體ヲ棺ニ收ムルニハ其ノ衣類ニ石炭酸水、「クレゾール」水若ハ昇汞水ヲ充分撒布シ又ハ石炭酸水、「クレゾール」水若ハ昇汞水ニ浸漬シタル布片ヲ以テ死體ヲ包ミ又ハ棺内ニ普通石灰ヲ塡ツベシ

三　屎尿、吐瀉物其ノ他ノ排泄物

屎尿、吐瀉物其ノ他ノ排泄物ニハ同容量ノ石炭酸水若ハ「クレゾール」水、其ノ容量ノ三十分ノ一以上ノ煆製石灰末又ハ其ノ容量ノ五分ノ一以上ノ石灰乳若ハ「クロール」石灰水ヲ加ヘ充分攪拌シタル後二時間以上放置シ又ハ之ヲ煮沸シ若ハ燒却スベシ

昇汞水及「フオルマリン」水ハ本號ノ消毒ニ適セズ

四　病毒ニ接觸シタル者

看護人、患者ノ家人、消毒方法ノ施行又ハ患者、死體排泄物等ノ運搬ニ從事シタル者其ノ他病毒ニ接觸シタル者ハ時々又ハ其ノ都度手足ヲ消毒シ入浴スベシ

手足ノ消毒ニハ石炭酸水、「クレゾール」水又ハ昇汞水ヲ使用スベシ

五　衣類、寢具、敷物、布片等

蒸汽消毒若ハ煮沸消毒ヲ行ヒ又ハ石炭酸水、「クレゾール」水若ハ「フオルマリン」水ニ二時間以上浸漬シ又ハ「フオルムアルデヒード」ヲ使用スベシ

六　患者、死體、病毒汚染物件ノ運搬器具

患者、死體、又ハ病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ヲ運搬シタル駕籠、釣臺、車等ハ使用ノ都度石炭酸水「クレゾール」水、昇汞水若ハ「フオルマリン」水ヲ以テ拭淨シ又ハ之ヲ撒布スベシ

七　圖書、書類等

「フオルムアルデヒード」ヲ使用スベシ

八　硝子器、陶器、磁器、鋼製品、竹木製品等

石炭酸水、「クレゾール」水、昇汞水、石灰乳若ハ「フオルマリン」水ニ浸漬シ又ハ石炭酸水、「クレゾール」水、昇汞水若ハ「フオルマリン」水ヲ以テ拭淨シ又ハ之ヲ撒布シ便池、肥料溜等ニハ煆製石灰末、石灰乳又ハ「クロール」石灰水ヲ注ギ充分攪拌スベシ但シ屎尿ハ消毒後一週間ヲ經過スルニ非ザレバ肥料ニ供スルコトヲ得ズ

芥溜及土地ニハ石灰乳又ハ「クロール」石灰水ヲ、溝渠ニハ煆製石灰末、石灰乳又ハ「クロール」石灰水ヲ注ギ塵芥ハ之ヲ燒却スベシ

ハ「フオルムアルデヒード」ヲ使用スベシ

絹布、毛織物、綿、綿入蒲團、羽蒲團等ハ成ルベク蒸氣消毒ヲ行ヒ又ハ「フオルムアルデヒード」ヲ使用スベシ

六　患者、死體、病毒汚染物件ノ運搬器具

患者、死體、又ハ病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アル物件ヲ運搬シタル駕籠、釣臺、車等ハ使用ノ都度石炭酸水「クレゾール」水、昇汞水若ハ「フオルマリン」水ヲ以テ拭淨シ又ハ之ヲ撒布スベシ

七　圖書、書類等

「フオルムアルデヒード」ヲ使用スベシ

八　硝子器、陶器、磁器、鋼製品、竹木製品等

石炭酸水、「クレゾール」水、昇汞水、石灰乳若ハ「フオルマリン」水ニ浸漬シ又ハ石炭酸水、「クレゾール」水若ハ昇汞水ニ浸漬シタル布片ヲ以テ死體ヲ包ミ又ハ棺内ニ普通石灰ヲ塡ツベシ

三　屎尿、吐瀉物其ノ他ノ排泄物

屎尿、吐瀉物其ノ他ノ排泄物ニハ同容量ノ石炭酸水若ハ「クレゾール」水、其ノ容量ノ三十分ノ一以上ノ煆製石灰末又ハ其ノ容量ノ五分ノ一以上ノ石灰乳若ハ「クロール」石灰水ヲ加ヘ充分攪拌シタル後二時間以上放置シ又ハ之ヲ煮沸シ若ハ燒却スベシ

昇汞水及「フオルマリン」水ハ本號ノ消毒ニ適セズ

四　病毒ニ接觸シタル者

看護人、患者ノ家人、消毒方法ノ施行又ハ患者、死體排泄物等ノ運搬ニ從事シタル者其ノ他病毒ニ接觸シタル者ハ時々又ハ其ノ都度手足ヲ消毒シ入浴スベシ

手足ノ消毒ニハ石炭酸水、「クレゾール」水又ハ昇汞水ヲ使用スベシ

五　衣類、寢具、敷物、布片等

蒸汽消毒若ハ煮沸消毒ヲ行ヒ又ハ石炭酸水、「クレゾール」水若ハ「フオルマリン」水ニ二時間以上浸漬シ又ハ「フオルムアルデヒード」製品、護謨附品、糊附品、膠附品、紙製品毛皮、象牙、鼈甲、角等

石炭酸水、「クレゾール」水若ハ「フオルマリン」水ヲ以テ拭淨シ若ハ之ヲ撒布シ又ハ「フオルムアルデヒード」ヲ使用スベシ

蒸汽消毒及煮沸消毒ハ本號ノ消毒ニ適セズ

十　室内各部

石炭酸水、「クレゾール」水、昇汞水若ハ「フオルマリン」水ヲ以テ拭淨シ又ハ之ヲ撒布スベシ但シ密閉シ得ベキ場合ニ於テハ「フオルムアルデヒード」ヲ使用スルコトヲ得

十一　便所、芥溜、溝渠等

便所ハ石炭酸水、「クレゾール」水若ハ「フオルマリン」水ヲ以テ拭淨シ又ハ之ヲ撒布シ便池、肥料溜等ニハ煆製石灰末、石灰乳又ハ「クロール」石灰水ヲ注ギ充分攪拌スベシ但シ屎尿ハ消毒後一週間ヲ經過スルニ非ザレバ肥料ニ供スルコトヲ得ズ

芥溜及土地ニハ石灰乳又ハ「クロール」石灰水ヲ、溝渠ニハ煆製石灰末、石灰乳又ハ「クロール」石灰水ヲ注ギ塵芥ハ之ヲ燒却スベシ

煆製石灰末ハ乾燥セル場所ノ消毒ニ適セズ

十二　井戸、水槽、汚水等

井戸、水槽、汚水等ニハ水量ノ五十分ノ一ノ煆製石灰ヲ乳狀ト爲シタルモノ若ハ水量ノ五百分ノ一ノ「クロール」石灰水ヲ投入シ充分攪拌シタル後十二時間以上放置シ又ハ適當ノ裝置ニ依リ熱蒸汽ヲ通ジ三十分間以上沸騰セシムベシ

昇汞水ハ飲食水ニ滲透スルノ虞アル場所ノ消毒ニ之ヲ使用スベカラズ

十三　船舶、汽車、電車等

船室又ハ車室内部ノ消毒ハ第十號ニ準スベシ

船底水ニハ其ノ容量ノ二百分ノ一ノ煆製石灰末又ハ其ノ容量ノ二千分ノ一ノ「クロール」石灰水ヲ加ヘ二十四時間ヲ經過シタル後之ヲ汲出スベシ

十四　動物ノ死體、消毒後再ビ用ニ供スル目的ナキ物件又ハ消毒費用ニ比シ廉價ナル物件ハ之ヲ燒却スベシ

第二十七條　衣類、寢具、器具、敷物、圖書、書類其ノ他ノ物件ニシテ第二十一條各號ノ消毒方法ヲ施行シ難キモノニ付テハ日光ニ曝シ又ハ大氣中ニ乾燥セシムベシ

第二十八條　市町村長及豫防委員ハ「コレラ」、痘瘡、發疹「チブス」又ハ「ペスト」ノ患者アリタル場合ニ於テハ特別ノ事由アルモノヲ除クノ外之ヲ傳染病院、隔離病舍其ノ他適當ノ場所ニ入ラシムベシ其ノ他ノ傳染病患者アリタル場合ニ於テ傳染病豫防上必要アリト認ムルトキ亦同ジ

第二十九條　警察官吏及檢疫委員ハ傳染病豫防法第八條ニ依リ「コレラ」發疹「チブス」又ハ「ペスト」ニ限リ左ノ事項ヲ施行スルコトヲ得

一　患者アル間及患者ヲ傳染病院、隔離病舍其ノ他適當ノ場所ニ入ラシメタル後又ハ患者轉歸ノ後消毒方法ノ施行ヲ了ル迄其ノ家ノ交通ヲ遮斷スルコト

二　前號ノ外傳染病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル家ノ消毒方法ノ施行ヲ了ル迄其ノ交通ヲ遮斷スルコト

三　前二號ノ家ノ居住者其ノ他傳染病毒感染ノ疑アル者ヲ消毒方法ノ施行ヲ了リタル時ヨリ起算シ「コレラ」ニ付テハ五日以内、發疹「チブス」ニ付テハ十四日以内、「ペスト」ニ付テハ十日以内隔離所又ハ消毒方法ノ施行ヲ了リタル家其ノ他適當ノ場所ニ隔離スルコト

四　交通遮斷又ハ隔離中新ニ患者ヲ發生シ其ノ傳染病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル事實アルトキハ更ニ本條ニ依リ處置スルコト

市町村長及豫防委員ハ警察官吏及檢疫委員ノ指示ヲ承ケ前項ノ交通遮斷又ハ隔離ニ關スル事務ニ從事スベシ

傳染病豫防法第十九條第二號ニ依リ地方長官ニ於テ施行スル交通遮斷又ハ隔離ハ前二項ニ準ジ之ヲ行フベシ

第三十條　市町村立ノ傳染病院、隔附病舍又ハ隔離所ニ於テハ食費、藥價ヲ徵收スルコトヲ得

第三十一條　傳染病豫防法第八條ノ二第二項ノ業務ノ範圍左ノ如シ

一　菓子、鮨、煮染、豆腐、氷雪、肉、乳、魚介、蔬菜果實其ノ他直ニ飲食ニ供シ得ベキ物ノ製造、販賣、調製又ハ取扱ニ直接從事スル業務

二　旅店、下宿屋、寄宿舍、合宿所其ノ他多衆ノ宿泊スル場所及貸座敷、料理店、飲食店、理髮店、其ノ他客ノ來集ヲ目的トスル場所ニ於ケル從業者、看護婦、鍼術灸術按摩術營業者、醫妓、娼妓、酌婦其ノ他直接客ニ接スル業務

三　劇場、寄席、活動寫眞館等興行場其ノ他多衆ノ集合スル場所ニ於テ直接多衆ニ接スル業務

第三十二條　左ノ場合ニ於テハ書面又ハ口頭ヲ以テ警察官吏、市町村長、檢疫委員又ハ豫防委員ノ許可ヲ受クベシ

一　傳染病豫防法第九條ニ依リ傳染病患者及其ノ死體ヲ他ニ移サムトスルトキ

二　傳染病豫防法第十條ニ依リ傳染病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル物件ヲ使用、授與、移轉、遺棄又ハ洗淨セムトスルトキ

三　傳染病豫防法第十一條第二項ニ依リ傳染病患者ノ死體ヲ二十四時間内ニ埋葬セムトスルトキ

前項第一號ノ場合ニ於テ其ノ認可ヲ爲シタル吏員ハ患者又ハ死體ヲ移スベキ地ノ警察官吏、市町村長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ通知スベシ

第三十三條　傳染病豫防法第十三條ノ死體及家屋其ノ他ニ對シテハ市町村長又ハ豫防委員ニ於テ消毒其ノ他相當ノ

處分ヲ爲サシムベシ

第七章　傳染病豫防吏員

第三十四條　警察官吏、衞生官吏、市町村長、檢疫委員又ハ豫防委員ニ於テ傳染病豫防法第十四條ニ依リ家宅、船舶其ノ他ノ場所ニ立入ルハ成ルベク日出後日沒前ニ於テスベシ其ノ戸主、首長、管理人又ハ代理者ニ示スベキ證票左ノ如シ

凡三寸

凡一寸

表面　木札又ハ厚紙

傳染病豫防委員之證

裏面

官廳公署印

第三十五條　檢疫委員ハ廳府縣ノ官吏、醫師、藥劑師等ニシテ就キ地方長官之ヲ命ズ

警視總監ハ東京府知事ニ協議シ府ノ官吏ニ檢疫委員ヲ命ズルコトヲ得

第三十六條　檢疫委員ノ職務章程ハ地方長官之ヲ定ム

第三十七條　地方長官ハ市町村ノ醫師ヲシテ傳染病豫防法第十九條第一號ノ健康診斷及死體檢案又ハ鼠族其他ノ檢査ヲ行ハシムルコトヲ得

第三十八條　第十四條第十五條第十六條第二十八條及第三十三條ノ場合ニ於テハ警察官吏、衞生官吏及檢疫委員ハ市町村長及豫防委員ニ指示シ其ノ事務ニ從事スベシ

第八章　船舶、汽車、電車ノ檢疫

第三十九條　地方長官船舶、汽車、電車ノ檢疫ヲ施行セムトスルトキハ檢疫スベキ傳染病、檢疫ノ目的地、檢疫ヲ施行スル場所及檢疫開始ノ期日ヲ定メ內務大臣ノ認可ヲ受クベシ

地方長官檢疫ヲ開始セムトスルトキハ前項ノ事項ヲ告示シ且交通密接ノ地ノ地方長官其ノ他特ニ必要アリト認ムル者ニ通知スベシ其ノ廢止ノ場合亦同ジ

地方長官前項ノ告示ヲ爲シタルトキハ內務大臣ニ報告スベシ

第二項ノ通知ヲ受ケタル地方長官ハ其ノ事項ヲ告示スベシ

第四十條　檢疫ノ目的地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ檢疫ヲ施行スル場所ニ來ル船舶ハ檢疫ヲ受ケ許可ヲ得タル後ニ非ザレバ他ニ進航シ、陸地又ハ他船ト交通シ、船客、乘組員ノ上陸、物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ズ

第四十一條　航行中又ハ現ニ傳染病患者又ハ死者アル船舶及停留中ノ船舶ハ前檣其ノ他見易キ場所ニ黃旗ヲ揭ゲ檢疫係員ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ之ヲ下スコトヲ得ズ

第四十二條　航行中又ハ現ニ傳染病患者又ハ死者アル船舶其ノ他傳染病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル船舶ニ對シテハ檢疫係員ニ於テ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行シ且必要アリト認ムルトキハ其ノ船舶ヲ適當ノ場所ニ停留シ船客、乘組員ヲ隔離所、船中其ノ他適當ノ場所ニ停留スルコトヲ得

第二十九條第一項第三號及第四號ノ隔離ニ關スル規定ハ前項ノ停留ニ之ヲ準用ス

檢疫委員ハ船舶ヲシテ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施行セシムルコトヲ得

檢疫係員ニ於テ消毒方法又ハ鼠族、昆蟲等ノ驅除ヲ施スル場合ニ於テハ船長其ノ他ノ乘組員ヲシテ補助セシメ又ハ器具、藥品等ヲ供給セシムルコトヲ得

第四十三條　停留中ノ船客、乘組員ハ檢疫係員ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ他ト交通シ又ハ物件ヲ搬出スルコトヲ得ズ停留ヲ命ゼラレタル船舶ハ檢疫係員ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ他ニ移轉スルコトヲ得ズ

第四十四條　船舶檢査ノ際發見シタル傳染病患者ハ檢疫係員ニ於テ市町村立ノ傳染病院、隔離病舍其ノ他適當ノ場所ニ入ラシメ死體ハ消毒其ノ他適當ノ處置ヲ爲スベシ

第四十五條　第四十二條第一項ノ處分ヲ爲ス爲必要アリト認ムルトキハ檢疫委員ハ船舶ヲシテ他ノ場所ニ回航セシムルコトヲ得

第四十六條　檢疫係員傳染病豫防法第十八條第二項ニ依リ無償ニテ船舶ニ乘込ム場合ニ於テハ船長又ハ其ノ代理者ニ左ノ證票ヲ示スベシ

凡三寸

凡一寸

表面　木札又ハ厚紙

檢疫係員之證

裏

面

廳府縣印

第四十七條　船舶ノ檢疫施行中檢疫ノ目的地以外ノ地ヨリ檢疫ヲ施行スル場所ニ來ル船舶ニ檢疫スベキ傳染病ノ患者、死者其ノ他傳染病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル事實アルトキハ前七條ノ規定ヲ準用ス

第四十八條　第四十二條第四十三條第一項第四十四條第四十六條及第四十七條ハ汽車、電車ノ檢疫ニ之ヲ準用ス但シ第四十二條第一項中船舶ノ停留ニ關スル規定ハ此ノ限ニ在ラズ

第九章　手當金及補助

第四十九條　地方長官傳染病豫防法第十九條ノ二ニ依リ傳染病毒ニ汚染シタル建物ニ對シ別段ノ處分ヲ行ヒ且其ノ處分ノ爲必要ナル土地ヲ使用セムトスルトキハ建物及土地ノ所有者又ハ管理者ニ通知スベシ

前項ノ場合ニ於テ損害ヲ受ケタル建物ノ所有者ニ交付スベキ手當金額ハ地方長官ニ於テ三人以上ノ評價人ノ意見ヲ徵シ之ヲ決定シ市町村長ニ通知スベシ

第五十條　市町村長地方長官ヨリ手當金額決定ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ建物所在ノ市町村番地及手當金額ヲ所有者及建物ニ關シ權利ヲ有スル者ニ通知シ且一箇月以上ノ期間公告スベシ

前項ノ公告期間ヲ經過シタルトキハ市町村長ハ速ニ損害ヲ受ケタル建物ノ所有者ニ手當金ヲ交付スベシ但シ其ノ期間內ニ建物ニ關シ權利ヲ有スル者ノ申請アリタルトキハ期日ヲ指定シ手當金ノ交付ヲ延期スルコトヲ得

第五十一條　地方長官ハ左ノ各號ニ從ヒ傳染病豫防法第二十四條ニ依リ北海道地方費又ハ府縣ヨリ市町村ニ交付スベキ補助ニ關スル規則ヲ定ムベシ

一　傳染病豫防法第二十一條及第二十三條第二項ノ支出額ニ對シ北海道地方費又ハ府縣ヨリ市町村ニ補助スル歩合ハ「コレラ」及「ペスト」ノ豫防ニ關シ特ニ要シタル費用ニ付テハ支出精算額ノ三分ノ一以上、其ノ他ノ諸費ニ付テハ支出精算額ノ六分ノ一以上トス但シ支出ニ伴フ收入及寄附金アルトキハ支出精算額ヨリ之ヲ控除シタル額ニ對シ其ノ歩合ヲ定ム

二　傳染病豫防法第二十一條及第二十三條第二項ノ、支出中特ニ費途ヲ指定シ別段ノ補助歩合ヲ定メ指定シタル費途ニ限リ補助ヲ爲シ又ハ市町村ノ負擔ニ應ジ別段ノ補助歩合ヲ定ムルコトヲ得但シ本號ニ依リ算出シタル補助ノ金額ヲシテ前號三分ノ一又ハ六分ノ一ヲ下ラシムルコトヲ得ズ

三　支出ニ伴フ收入及寄附金ヲ控除シタル一會計年度ノ支出精算額五十圓未滿ナルトキハ補助セラルルコトヲ得

四　補助ハ現品ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得但シ金額ニ換算スベシ

五　市町村ヨリ申請セル支出精算額過當ト認ムルトキハ之ヲ査定シ其ノ査定額ニ對シ補助スルコトヲ得

第十章　雜則

第五十二條　傳染病豫防法第二條第十八條第十九條第十九條ノ二及本令第一條第二條第八條第十條第三十一條第三十九條ノ地方長官ノ職務竝傳染病豫防法及本令ノ施行ニ關シ警察ニ屬スル事項ハ東京府ニ於テハ警視總監之ヲ行フ但シ傳染病豫防法第十八條第三項但書ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五條ノ地方長官ハ東京府ニ於テハ警視總監及東京府知事トス

第五十三條　本令中町村又ハ町村長ニ關スル規定ハ町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ町村又ハ町村長ニ準ズベキモノニ之ヲ適用ス

第五十四條　傳染病豫防法又ハ本令ノ規定ニシテ其ノ準用又ハ適用シ得ベキモノヲ除クノ外北海道及沖繩縣ニ關シ必要ナル事項ハ地方長官之ヲ定ム

町村制ヲ施行セザル地ニ關シ傳染病豫防法中町村ニ關スル規定ヲ準用シ難キ場合及本令ノ規定ヲ適用シ難キ場合ニ於テハ地方長官ハ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

附則

明治三十年五月內務省令第十一號傳染病豫防法施行規則、明治三十年五月拓殖務省令第四號、傳染病豫防委員及檢疫委員設置規程、明治三十年五月內務省令第十三號、明治三十年五月拓殖務省令第六號、檢疫委員設置規則、明治三十年七月內務省令第十八號、汽車檢疫規則、船舶檢疫規則、明治三十年八月拓殖務省令第九號、明治三十一年三月內務省令第四號及傳染病豫防法第十九條ノ二ニ依ル手當金ニ關

スル件ハ之ヲ廢止ス

本令ハ大正十一年法律第三十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（大正十一年十月一日ヨリ施行）

商法第七百九條第一項ノ海員名簿、屬具目錄、航海日誌及旅客名簿ノ書式ニ關スル件

（舊商法五百六十二條）

（大正三年五月朝鮮總督府令第七十七號）

第一條 海員名簿ハ第一號書式、屬具目錄ハ第二號書式、航海日誌ハ第三號書式、旅客名簿ハ第四號書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ前項ノ書類ハ書式ニ示ス順序ニ依リ之ヲ編綴シ且各頁ニ頁數ヲ附スヘシ但シ其ノ紙數ハ適宜トス

第二條 前條ノ書類ニハ書式ニ定メサル事項ヲ記載スル爲關ヲ設クルコトヲ得朝鮮沿岸ノミヲ航行スル船舶ニアリテハ航海日誌及旅客名簿ノ書式ニ定ムル事項ヲ省略スルコトヲ得

第三條 第一條ノ書類ニハ各事項ニ付英譯ヲ附シ又ハ頁ノ上部ニ船舶ノ名稱及船舶所有者ノ氏名（名稱）等ヲ附記シ又ハ記載心得等ヲ揭クルコトヲ得

第一條ノ書類ハ書式ニ定ムル事項ノ位置ヲ變更シテ之ヲ調製スルコトヲ得但シ其ノ順序ヲ變更スルコトヲ得ス

附　則

本令ハ大正三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

者ニ國民勞務手帳ヲ返還スベシ但シ命令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

使用者前項但書ノ規定ニ依リ國民勞務手帳ヲ返還セザルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ國民職業指導所長ニ之ヲ提出スベシ

第六條 國民勞務手帳ノ交付ヲ受ケタル者國民勞務手帳ノ返還ニ關シ異議アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ國民職業指定所長ニ其ノ旨申立ツルコトヲ得

前項ノ申立アリタルトキハ國民職業指導所長ハ國民勞務手帳ヲ返還スベキヤ否ヲ裁定シ返還スベキ旨裁定シタルトキハ使用者ニ對シ國民勞務手帳ノ返還ヲ命ズベシ

第七條 前條ノ裁定又ハ命令ニ不服アル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ニ其ノ旨申立ツルコトヲ得

前項ノ申立アリタルトキハ地方長官ハ國民勞務手帳審査會ニ諮問シテ國民勞務手帳ヲ返還スベキヤ否ヲ裁定シ返還スベキ旨裁定シタルトキハ使用者ニ對シ國民勞務手帳ノ返還ヲ命ズベシ

國民勞務手帳審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 地方長官又ハ國民職業指導所長必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ國民勞務手帳ニ代ル證明書（以下證明書ト稱ス）ヲ交付スルコトヲ得

證明書ハ之ヲ國民勞務手帳ト看做ス

前二項ニ定ムルモノノ外證明書ニ關シ必要ナル事項ハ命令ノ定ムル所ニ依リ使用者又ハ國民勞務手帳ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シ國民勞務手帳ノ提出又ハ返納ヲ命ズルコトヲ得

第九條 使用者及國民勞務手帳ノ交付ヲ受ケタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ必要ナル事項ヲ國民勞務手帳ニ記載シ之ヲ國民職業指導所長ニ報告スベシ

第十條 使用者及國民勞務手帳ノ交付ヲ受ケタル者ハ國民勞務手帳ニ本法ニ基キテ發スル命令ヲ以テ定ムル事項以外ノ事項ヲ記載スルコトヲ得ズ

第十一條 國民勞務手帳ノ交付ヲ受ケタル者ハ重ネテ國民勞務手帳ノ交付ヲ受クルコトヲ得ズ但シ國民勞務手帳毀損シ若ハ亡失シタル場合、餘白ナキニ至リタル場合其ノ他命令ヲ以テ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條 國民勞務手帳ノ交付ヲ受ケタル者ハ國民職業指導所長又ハ使用者ニ於テ國民勞務手帳ヲ保管スル場合ヲ除クノ外自ラ之ヲ保管スベシ

第十三條 國民職業指導所長必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ國民勞務手帳ニ代ル證明書（以下證明書ト稱ス）ヲ交付スルコトヲ得

證明書ハ之ヲ國民勞務手帳ト看做ス

前二項ニ定ムルモノノ外證明書ニ關シ必要ナル事項ハ命

令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 國民勞務手帳以外ノ手帳ニハ國民勞務手帳ナル名稱ヲ用フルコトヲ得ズ

第十五條 從業者、從業者タラントスル者又ハ使用者ハ國民勞務手帳ニ關シ必要アルトキハ從業者又ハ從業者タラントスル者ノ戸籍ニ關シ戸籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

從業者ハ國民勞務手帳ニ記載セラレタル事項ニ關シ使用者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第十六條 厚生大臣、地方長官又ハ國民職業指導所長必要アリト認ムルトキハ使用者又ハ國民勞務手帳ノ交付ヲ受ケタル者ニ出頭ヲ求メ又ハ其ノ者ヨリ報告ヲ徵スルコトヲ得

厚生大臣、地方長官又ハ國民職業指導所長必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ第一條ニ揭グル事業ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第三條、第五條第一項又ハ第十一條ノ規定ニ違反シタル者

二 詐僞其ノ他ノ不正行爲ヲ以テ國民勞務手帳ノ交付ヲ受ケタル者

三 自己ノ國民勞務手帳ヲ他人ヲシテ行使セシムル目的ヲ以テ交付シタル者

第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

一 第四條、第五條第二項、第十條又ハ第十四條ノ規定ニ違反シタル者

二 第八條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ國民勞務手帳ヲ提出又ハ返納セザル者

三 第九條ノ規定ニ違反シ記載若ハ報告ヲ怠リ又ハ虛僞ノ記載若ハ報告ヲ爲シタル者

四 第十六條第一項ノ規定ニ違反シ出頭ニ應ゼズ又ハ報告ヲ怠リ若ハ虛僞ノ報告ヲ爲シタル者

五 第十六條第二項ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

第十九條 使用者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇

人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ第十七條第一號又ハ前條第一號乃至第四號ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十條 第十七條第一號又ハ第十八條第一號乃至第四號ノ罰則ハ使用者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十一條 本法ハ罰則ヲ除クノ外國、道府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキモノニ之ヲ適用ス

國ノ事業ニ關シテハ本法ノ適用ニ付命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 本法中使用者ニ關スル規定ハ工場法ノ適用ヲ受クル工場ニ在リテハ工業主ニ、工場管理人アル場合ニ於テハ工場管理人ニ、鑛業ニ在リテハ鑛業權者ニ、鑛業代理人アル場合ニ於テハ鑛業代理人ニ之ヲ適用ス

第二十三條 本法ノ適用ニ付テハ國民職業能力申告令ニ依ル要申告者ガ同令ニ基キ交付ヲ受ケタル職業能力申告手帳ハ之ヲ國民勞務手帳ト看做ス

附則

本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

商法第七百九條第一項ノ海員名簿、屬具目錄、航海日誌及旅客名簿ノ書式ニ關スル件

（舊商法第五百六十二條）

（大正三年五月朝鮮總督府令第七十七號）

改正　昭和十五年朝鮮總督府令第百三十五號

第一條　海員名簿ハ第一號書式、屬具目錄ハ第二號書式、航海日誌ハ第三號書式、旅客名簿ハ第四號書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

前項ノ書類ハ書式ニ示ス順序ニ依リ之ヲ編綴シ且各頁ニ頁數ヲ附スヘシ但シ其ノ紙數ハ適宜トス

第二條　前條ノ書類ニハ書式ニ定メサル事項ヲ記載スル爲欄ヲ設クルコトヲ得朝鮮沿岸ノミヲ航行スル船舶ニアリテハ航海日誌及旅客名簿ノ書式ニ定ムル事項ヲ省略スルコトヲ得

附　則

（昭和十三年朝鮮總督府令第三十五號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ノ規定ニ依ル海員名簿ニシテ本令施行ノ際現ニ使用中ノモノハ本令施行ノ日ヨリ六月內ハ仍之ヲ使用スルコトヲ得

本令施行前ノ規定ニ依リ作成シタル航海日誌、屬具目錄及旅客名簿ハ本令ノ書式ニ從ヒ適宜之ヲ訂正シテ仍使用スルコトヲ得

（書式省略）

沿海區域ノミヲ航行スル船舶ニ在リテハ旅客名簿ヲ備ヘサルコトヲ得

前三項ノ場合ニ於テハ最寄管海官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第三條　第一條ノ書類ニハ各事項ニ付英譯ヲ附シ又ハ頁ノ上部ニ船舶ノ名稱及船舶所有者ノ氏名（名稱）等ヲ附記シ又ハ記載心得等ヲ掲クルコトヲ得

第一條ノ書類ハ書式ニ定ムル事項ノ位置ヲ變更シテ之ヲ調製スルコトヲ得但シ其ノ順序ヲ變更スルコトヲ得ス

附　則

（昭和十年朝鮮總督府令第三十四號）

本令ハ昭和十年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

航海日誌ハ當分ノ間第三號書式ニ示ス順序ニ依ラズシテ之ヲ編綴スルコトヲ得

附　則

（大正二年九月朝鮮總督府令第九十二號）

改正　昭和六年朝鮮總督府令第百四號

沿岸貿易又ハ漁業ニ從事スル支那形日本船舶ニ關スル件

第一條　沿岸貿易又ハ漁業ニ從事スル支那形日本船舶ハ左記各號ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス但シ貿易ノ爲外國ニ往來シ又ハ朝鮮ト內地臺灣及樺太トノ間ニ通航スル支那形日本船舶ニシテ開港間ニ於ケル沿岸貿易ニ從事スルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　船員漁夫其ノ他總乘船員ノ半數以上ハ內國人ナルコト

二　內國人タル船長ヲ乘組マシムルコト

三　船體ノ外部周圍上緣ニ白色「ペイント」ヲ以テ幅五寸ノ白線一條ヲ畫スルコト

四　船首兩舷及船尾兩舷ニ於テ白線ヨリ下方一尺間ノ部分ヲ黑色「ペイント」ヲ以テ塗リ其ノ部分ニ白色「ペイント」ヲ以テ左ノ事項ヲ標示スルコト

甲　總噸數五噸以上ノモノハ船首兩舷ニ船名、船尾兩舷ニ船名及船籍港名

乙　總噸數五噸未滿ノモノハ船首兩舷ニ船名、船尾兩舷ニ船舶所有者ノ氏名又ハ稱號

五　前號標示ノ文字ハ方三寸五分以上ノ國字ヲ以テ船首ヨリ船尾ノ方向ニ橫列ニ配置シ且各文字ノ間ニ八寸以上ノ間隔ヲ存スルコト

六　檣ハ其ノ頂上ヨリ下方六尺間ノ周圍ヲ白色「ペイント」ヲ以テ塗ルコト

七　夜間及風雨ノ場合ヲ除ク外漁船ハ第一號樣式其ノ他ハ第二號樣式ノ旗章ヲ檣頭ニ掲クルコト

數網漁業柱木網漁業ニシテえびノ採捕ヲ目的トスルモノニ從事スル支那形日本船舶ニ付テハ道知事ノ許可ヲ受ケ前項第一號及第二號ノ規定ニ依ラザルコトヲ得平安北道沿海ニ於ケル刺網漁業流網漁業ニシテひら流網ヲ使用シテ爲スモノニ從事スル支那形日本船舶ニ付亦同ジ

第二條　前條ノ規定ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ他ノ法令ニ於テ別ニ刑ノ定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

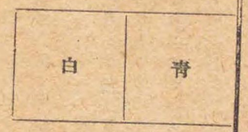
附　則

本令ハ大正二年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年朝鮮總督府令第八十八號ハ之ヲ廢止ス

沿岸貿易又ハ漁業ニ從事スル支那形日本船舶ニ關スル件（朝鮮）・商法第七百九條第一項第二號乃至第五號ニ揭クル書類ノ件（臺灣）

（第一樣式）



旗寸法
流五尺
竪三尺五寸

（第二樣式）

旗寸法
第一樣式ニ同シ

商法第七百九條第一項第二號乃至第五號ニ揭クル書類ノ件

（舊商法第五百六十二條）

（昭和八年三月臺灣總督府令第四十二號）

商法第五百六拾二條第一項第二號乃至第五號ニ揭クル書類ニ關シテハ明治三十二年遞信省令第十九號ニ依ル但シ同省令中遞信局トアルハ臺灣總督府交通局トシ本籍地トアルハ本籍地又ハ本居地トス

附　則

本令ハ昭和六年勅令第二百七十三號海事諸法臺灣施行令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十二年臺灣總督府令第六號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

海事代願人取締ニ關スル件

（昭和八年五月臺灣總督府令第八十號）

海事代願人ノ取締ニ關シテハ明治四十一年遞信省令第五十二號海事代願人取締規則ニ依ル但シ同省令中遞信局又ハ遞信局海事部出張所トアルハ交通局海事出張所、戸籍謄本トアルハ戸籍謄本又ハ戸口調査簿金部抄本、本籍地トアルハ本籍地又ハ本居地トス

附　則

本令ハ昭和六年勅令第二百七十三號海事諸法臺灣施行令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

通商航海條約アル歐米各國民ノ臺灣ニ於テ航海ニ關スル件

（明治二十九年二月外務省告示第一號）

通商航海ノ條約アル歐米各國臣民及人民ヲシテ臺灣ニ於テ淡水、基隆、安平、臺南及打狗ニ居住シ商業ヲ營ミ且ツ右等諸國ノ船舶ヲシテ淡水、基隆、安平及打狗ノ諸港ヘ寄港シ且積荷ヲ輸出入スルコトヲ得セシメ又臺灣ハ特殊ナル情形アリト雖モ現行通商航海條約稅則及其他ノ諸取極ハ出來得ヘキ限リ臺灣ニ居住シ又ハ同地ニ往來スル歐米各締盟國ノ臣民人民及船舶ニモ之ヲ適用スヘシ

海事代願人取締ニ關スル件（臺灣）・通商航海條約アル歐米各國民ノ臺灣ニ於ケル通商航海ニ關スル件（臺灣）・關東州裁判事務取扱令ニ於テ依ルコトヲ定メタル商法第七百九條第一項第二號乃至第五條ニ揭グル書類ニ關スル件（關東州）

關東州裁判事務取扱令ニ於テ依ルコトヲ定メタル商法第七百九條第一項第二號乃至第五號ニ揭グル書類ニ關スル件

（昭和十四年三月關東廳令第十四號）

關東州裁判所事務取扱令ニ於テ依ルコトヲ定メタル商法第五百六十二條第一項第二號乃至第五號ニ揭グル書類ニ關シテハ明治三十二年遞信省令第十九號ニ依ル但シ同令中遞信局トアルハ關東海務局トス

附　則

本令ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ使用中ノ海員名簿ハ本令施行ノ日ヨリ六月內ハ仍之ヲ使用スルコトヲ得

本令施行前ニ作成シタル船員目錄就海日誌及旅客名簿ハ本令ノ書式ニ從ヒ適宜之ヲ訂正シテ仍使用スルコトヲ得

昭和十五年十二月廿三日印刷
昭和十五年十二月三十日發行【第一版】
昭和十六年十一月三日印刷
昭和十六年十一月九日發行【第二版】

海事法令集奧付

㊞定價一部（全三卷）金貳拾圓

編纂者　東京市麹町區大手町　遞信省管船局

發行者　大阪市此花區上福島北一丁目四番地　畝川鎭夫

印刷所　大阪市西區江戶堀下通二丁目五番地　三正堂印刷所

發行所　大阪市此花區上福島北一丁目四番地　海事彙報社
電話福島㈱二四二四番
二四二五番
振替口座大阪三四九九九番

不許複製

チキナA 64